



HP リニア バーコード スキャナー II

プログラミング リファレンス ガイド

© Copyright 2016 HP Development Company, L.P.

MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

初版：2016年12月

製品番号：915237-291



目次

目次	i
第1章 はじめに	1
このガイドについて	1
概要	1
マニュアルの表記規則	2
その他のリソース	2
HPのサポート窓口へのお問い合わせ	2
第2章 セットアップ	3
リーダーについて	3
開梱	3
リーダーのセットアップ	4
プログラミング	5
インターフェイスの種類を選択	5
インターフェイス設定の変更	5
その他の機能の設定	5
ソフトウェアバージョンの送信	5
製品の設定の初期状態へのリセット	6
第3章 インターフェイス	7
インターフェイスの選択	7
インターフェイスの設定	7
第4章 バーコードを使用した設定	9
プログラミング バーコードの使用	9
設定パラメーター	10
グローバル インターフェイス機能	11
グローバル インターフェイス機能	11
ホスト コマンド : 従う/無視	11
USBサスペンドモード	12
USB-COM (RS-232をシミュレートした) インターフェイス	13
文字間遅延	14
ASCII BELでのビープ音	15
Not on Fileでのビープ音	15
ACK/NAKのオプション	16
ACK文字	17
NAK文字	17
ACK/NAKのタイムアウト値	18
ACK/NAKの再試行回数	19
ACK/NAKのエラー処理	20
送信エラーの通知	21
無効化文字	21
有効化文字	22
キーボードインターフェイス	23
国モード	24
Caps Lockの状態	27
キーボードのテンキー	28
キーボードでの制御文字の送信	29
コード間遅延	30
USBキーボードの速度	31

USB-OEMインターフェイス.....	33
はじめに.....	33
USB-OEMデバイスの使用法.....	34
USB-OEMインターフェイスのオプション.....	34
データフォーマット.....	35
グローバルプレフィックス/サフィックス.....	36
グローバルAIM ID.....	37
GS1-128のAIM ID.....	37
ラベルID.....	38
ラベルID：プリロードされたセット.....	38
ラベルID：読み取りコードごとに個別設定.....	39
ラベルIDの制御.....	39
ラベルIDの読み取りコードの選択.....	40
グローバルな中間ラベルID文字の設定.....	46
大文字/小文字変換.....	47
文字変換.....	48
読み取り時のパラメーター.....	49
二重読み取りのタイムアウト.....	50
ラベル終了のタイムアウト.....	52
LEDおよびビープ音によるインジケータ.....	53
電源投入時の警告.....	53
読み取り成功：通知のタイミング.....	54
読み取り成功ビープ音の種類.....	55
読み取り成功ビープ音の周波数.....	55
読み取り成功ビープ音の長さ.....	56
読み取り成功ビープ音の音量.....	57
読み取り成功のLEDの持続時間.....	58
スキャン機能.....	59
スキャンモード.....	59
スタンドモードでのトリガーのタイムアウト.....	60
スタンド装着時の検出.....	61
スタンドモードでの感度.....	62
スキャン有効時間.....	62
スタンドモードでのフラッシュ.....	63
フラッシュオン時間.....	63
フラッシュオフ時間.....	64
緑色スポットの持続時間.....	64
読み取りコード.....	65
すべての読み取りコードの無効化.....	66
クーポンの制御.....	66
UPC-A.....	67
UPC-Aの有効化/無効化.....	67
UPC-Aのチェックキャラクタの送信.....	67
UPC-AをEAN-13に拡張.....	68
UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信.....	68
インスタの最小読み取り回数.....	69
UPC-E.....	70
UPC-Eの有効化/無効化.....	70
UPC-Eのチェックキャラクタの送信.....	70
UPC-EをEAN-13に拡張.....	71
UPC-EをUPC-Aに拡張.....	71
UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信.....	72
UPC-Eの最小読み取り回数.....	72
EAN 13.....	73
EAN 13の有効化/無効化.....	73
EAN 13のチェックキャラクタの送信.....	73
EAN-13のフラグ1文字.....	74

EAN 13からISBNへの変換.....	74
ISSNの有効化/無効化.....	75
EAN 13の最小読み取り回数.....	75
EAN 8.....	76
EAN 8の有効化/無効化.....	76
EAN 8のチェックキャラクタの送信.....	76
EAN 8をEAN 13に拡張.....	77
EAN 8の両側のガードの置換.....	77
EAN 8のガードの挿入.....	78
EAN 8のガードの置換.....	78
EAN 8の最小セグメント長ブロック.....	79
EAN 8の最小読み取り回数.....	81
EAN 8の正確なハーフ ラベルのスティッチ.....	82
EAN 8の異なるハーフ ラベルのスティッチ.....	82
EANの2ラベル.....	83
EANの2ラベルの有効化/無効化.....	83
EANの2ラベルが結合された送信.....	83
EANの2ラベルの最小読み取り回数.....	84
UPC/EANのグローバル設定.....	85
UPC/EANのデコードレベル.....	85
UPC/EANの相関関係.....	86
UPC/EANの価格とウェイトのチェック.....	87
UPC-Aの最小読み取り回数.....	88
UPC/EANのガードの挿入.....	89
UPC/EANの正確なハーフ ラベルのスティッチ.....	89
UPC/EANの異なるハーフ ラベルのスティッチ.....	90
UPC/EANの最小セグメント長.....	91
アドオン.....	93
オプションのアドオン.....	93
オプションのアドオンのタイマー.....	95
オプションのアドオンのタイマー（続き）.....	96
P2アドオンの最小読み取り回数.....	97
P5アドオンの最小読み取り回数.....	98
GS1-128アドオンの最小読み取り回数.....	99
GS1 DataBar™ Omnidirectional.....	100
GS1 DataBar Omnidirectionalの有効化/無効化.....	100
GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション.....	100
GS1 DataBar Omnidirectionalの最小読み取り回数.....	101
GS1 DataBar™ Expanded.....	102
GS1 DataBar Expandedの有効化/無効化.....	102
GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション.....	102
GS1 DataBar Expandedの最小読み取り回数.....	103
GS1 DataBar Expandedの長さ制御.....	104
GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定.....	105
GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定.....	106
GS1 DataBar™ Limited.....	107
GS1 DataBar Limitedの有効化/無効化.....	107
GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション.....	107
GS1 DataBar Limitedの最小読み取り回数.....	108
Code 39.....	109
Code 39の有効化/無効化.....	109
Code 39のチェックキャラクタの計算.....	110
Code 39のチェックキャラクタの送信.....	111
Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信.....	111
Code 39 Full ASCII.....	112
Code 39のクワイエットゾーン.....	113
Code 39の最小読み取り回数.....	114
Code 39のデコードレベル.....	115
Code 39の長さ制御.....	116

Code 39の長さ1の設定	117
Code 39の長さ2の設定	118
Code 39のディジット間の比率	119
Code 39の文字の相関関係	121
Code 39のスティッチ	121
Code 32 (イタリアの医薬品)	122
Code 32の有効化/無効化	122
Code 32の機能設定の例外	122
Code 32のチェックキャラクタの送信	123
Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信	123
Code 39 CIP (フランスの医薬品)	124
Code 39 CIPの有効化/無効化	124
Code 128	124
Code 128の有効化/無効化	124
Code 128をCode 39に拡張	125
Code 128のチェックキャラクタの送信	125
Code 128のファンクション文字の送信	126
Code 128のサブコード変更の送信	126
Code 128のクワイエットゾーン	127
Code 128の最小読み取り回数	128
Code 128のデコードレベル	129
Code 128の長さ制御	130
Code 128の長さ1の設定	131
Code 128の長さ2の設定	132
Code 128の文字の相関関係	133
Code 128のスティッチ	133
GS1-128	134
GS1-128の有効化	134
Interleaved 2 of 5 (I 2 of 5)	135
I 2 of 5の有効化/無効化	135
I 2 of 5のチェックキャラクタの計算	136
I 2 of 5のチェックキャラクタの送信	137
I 2 of 5の最小読み取り回数	137
I 2 of 5のデコードレベル	138
I 2 of 5の長さ制御	139
I 2 of 5の長さ1の設定	140
I 2 of 5の長さ2の設定	141
I 2 of 5の文字の相関関係	142
I 2 of 5のゼロ (0) パターン	142
I 2 of 5のスティッチ	143
Interleaved 2 of 5 CIP HR	143
Interleaved 2 of 5 CIP HRの有効化/無効化	143
Datalogic 2 of 5	144
Datalogic 2 of 5の有効化/無効化	144
Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの計算	144
Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの送信	145
Datalogic 2 of 5の最小読み取り回数	145
Datalogic 2 of 5のデコードレベル	146
Datalogic 2 of 5の長さ制御	146
Datalogic 2 of 5の長さ1の設定	147
Datalogic 2 of 5の長さ2の設定	148
Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比	149
Datalogic 2 of 5の文字の相関関係	151
Datalogic 2 of 5のスティッチ	151
Codabar	152
Codabarの有効化/無効化	152
Codabarのチェックキャラクタの計算	153
Codabarのチェックキャラクタの送信	154
Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信	154

Codabarのスタート/ストップキャラクタセット	155
Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致	155
Codabarのクワイエットゾーン	156
Codabarの最小読み取り回数	157
Codabarのデコードレベル	158
Codabarの長さ制御	159
Codabarの長さ1の設定	160
Codabarの長さ2の設定	161
Codabarのディジット間の比率	162
Codabarの文字の相関関係	164
Codabarのスティッチ	164
ABC Codabar	165
ABC Codabarの有効化/無効化	165
ABC Codabarの連結モード	165
ABC Codabarの動的連結のタイムアウト	166
ABC Codabarの強制連結	167
Code 11	167
Code 11の有効化/無効化	167
Code 11のチェックキャラクタの計算	168
Code 11のチェックキャラクタの送信	168
Code 11の最小読み取り回数	169
Code 11の長さ制御	170
Code 11の長さ1の設定	171
Code 11の長さ2の設定	172
Code 11のディジット間の比率	173
Code 11のデコードレベル	175
Code 11の文字の相関関係	176
Code 11のスティッチ	176
Standard 2 of 5	177
Standard 2 of 5の有効化/無効化	177
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算	177
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信	178
Standard 2 of 5の最小読み取り回数	178
Standard 2 of 5のデコードレベル	179
Standard 2 of 5の長さ制御	179
Standard 2 of 5の長さ1の設定	180
Standard 2 of 5の長さ2の設定	181
Standard 2 of 5の文字の相関関係	182
Standard 2 of 5のスティッチ	182
Industrial 2 of 5	183
Industrial 2 of 5の有効化/無効化	183
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算	183
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信	184
Industrial 2 of 5の長さ制御	184
Industrial 2 of 5の長さ1の設定	185
Industrial 2 of 5の長さ2の設定	186
Industrial 2 of 5の最小読み取り回数	187
Industrial 2 of 5のスティッチ	188
Industrial 2 of 5の文字の相関関係	188
IATA	189
IATAの有効化/無効化	189
IATAのチェックキャラクタの送信	189
ISBT 128	190
ISBT 128の連結	190
ISBT 128の連結モード	190
ISBT 128の動的連結のタイムアウト	191
ISBT 128の強制連結	192
ISBT 128の高度な連結オプション	192
MSI	193

MSIの有効化/無効化	193
MSIのチェックキャラクタの計算	193
MSIのチェックキャラクタの送信	194
MSIの長さ制御	194
MSIの長さ1の設定	195
MSIの長さ2の設定	196
MSIの最小読み取り回数	197
MSIのデコードレベル	198
Code 93	199
Code 93の有効化/無効化	199
Code 93のチェックキャラクタの計算	199
Code 93のチェックキャラクタの送信	200
Code 93の長さ制御	200
Code 93の長さ1の設定	201
Code 93の長さ2の設定	202
Code 93の最小読み取り回数	203
Code 93のデコードレベル	204
Code 93のクワイエットゾーン	205
Code 93のステッチ	206
Code 93の文字の相関関係	206
Codablock F	207
Codablock Fの有効化/無効化	207
Codablock F EANの有効化/無効化	207
Codablock FのAIMチェック	208
Codablock Fの長さ制御	208
Codablock Fの長さ1の設定	209
Codablock Fの長さ2の設定	210
Code 4	211
Code 4の有効化/無効化	211
Code 4のチェックキャラクタの送信	211
Code 4の16進から10進への変換	212
Code 5	212
Code 5の有効化/無効化	212
Code 5のチェックキャラクタの送信	213
Code 5の16進から10進への変換	213
Code 4およびCode 5に共通の設定項目	214
Code 4およびCode 5のデコードレベル	214
Code 4およびCode 5の最小読み取り回数	215
Follett 2 of 5	216
Follett 2 of 5の有効化/無効化	216
BC412	216
BC412の有効化/無効化	216
BC412のチェックキャラクタの計算	217
BC412の最小読み取り回数	217
BC412のデコードレベル	218
BC412の長さ制御	219
BC412の長さ1の設定	220
BC412の長さ2の設定	221
Plessey	222
Plesseyの有効化/無効化	222
Plesseyのチェックキャラクタの計算	223
Plesseyのチェックキャラクタの送信	223
Plesseyの長さ制御	224
Plesseyの長さ1の設定	225
Plesseyの長さ2の設定	226
Plesseyの最小読み取り回数	227
Plesseyのデコードレベル	228
Plesseyのステッチ	229
Plesseyの文字の相関関係	229

第5章 リファレンス.....	231
USB COM (RS-232) のパラメーター.....	232
文字間遅延.....	232
ACK文字.....	233
NAK文字.....	234
ACK/NAKのタイムアウト値.....	235
ACK/NAKの再試行回数.....	236
無効化文字.....	237
有効化文字.....	238
USBキーボード.....	239
文字間遅延.....	239
コード間遅延.....	240
データ編集.....	241
データ編集の概要.....	241
グローバルプレフィックス/サフィックス.....	242
グローバルAIM ID.....	243
ラベルID：プリロードされたセット.....	244
ラベルID：読み取りコードごとに個別設定.....	246
グローバルな中間ラベルID文字の設定.....	248
文字変換.....	248
読み取り時のパラメーター.....	250
ラベル終了のタイムアウト.....	250
読み取り成功のLEDの持続時間.....	251
スキャンモード.....	252
スキャン有効時間.....	253
フラッシュオン時間.....	254
フラッシュオフ時間.....	255
読み取りコードの設定.....	256
デコードレベル.....	256
長さ設定.....	257
付録A 技術仕様.....	259
ケーブルの標準のピン配列.....	262
LEDおよびビープ音による通知.....	263
プログラミングモード.....	264
エラーコード.....	264
付録B 標準の初期設定.....	265
初期設定の例外.....	276
付録C サンプルバーコード.....	277
GS1 DataBar (RSS).....	279
GS1 DataBar-14.....	279
付録D テンキー.....	281
付録E スキャンコード表.....	285
制御文字エミュレーション.....	285
1回押して放すキー.....	285
インターフェイスの種類：PC AT PS/2またはUSBキーボード.....	286
インターフェイスの種類：PC AT PS/2キーボード (ALTモード) またはUSBキーボード (ALTモード).....	288
デジタルインターフェイス.....	290
IBM XT.....	292
Microsoft® Windows®コードページ1252.....	294



第1章 はじめに

このガイドについて

このプログラミングリファレンスガイド (PRG) は、接続、プログラミング、メンテナンス、仕様などの高度な技術情報を必要とするユーザーを対象としています。この製品に関連するその他のマニュアルは、HPのWebサイトからダウンロードできます。

本体は通常、最も一般的な端末および通信の設定に合わせて工場出荷時にプログラムされています。設定された機能を変更する必要がある場合は、このガイドに記載されているプログラミングバーコードをスキャンして、カスタム設定を行うことができます。

概要

第1章「はじめに」では、製品の概要、開梱の手順、およびケーブル接続について説明します。

第2章「セットアップ」では、リーダーの開梱およびセットアップについて説明します。

第3章「インターフェイス」では、インターフェイスの設定用バーコードとその詳細について説明します。第4章「バーコードを使用した設定」では、リーダーをカスタマイズするための手順およびバーコードラベルについて説明します。インターフェイスの種類、一般的な機能、データフォーマット、読み取りコード固有の機能、およびモデル固有の機能に関するさまざまなセクションが含まれています。

第5章「リファレンス」では、設定された機能について詳しく説明します。

付録A「技術仕様」には、物理特性、パフォーマンス特性、および環境や規定に関する仕様の一覧が記載されています。また、ケーブルの標準的なピン配列についても説明します。

付録B「標準の初期設定」には、リーダーの機能およびオプションに関する一般的な工場出荷時設定が記載されています。

付録C「サンプルバーコード」には、いくつかの一般的な読み取りコードのバーコード例が記載されています。

付録D「テンキー」には、特定のパラメーター設定用にスキャンされる数字バーコードが記載されています。

付録E「スキャンコード表」には、キーボード ウェッジおよびUSBキーボード インターフェイス用の制御文字エミュレーションに関する情報の一覧が記載されています。

マニュアルの表記規則

このガイドでは、以下の表記規則を使用しています。

以下に示す記号は、リーダーの使用時に注意する必要がある重要な問題や手順を読者に知らせるために、このガイド内で使用されています。



注

「注」には、リーダーの適切な診断、修復、および操作に必要な情報が記載されています。



注意

「注意」記号は、機器または資産が損傷する可能性のある動作についてユーザーに注意を促します。

その他のリソース

このプログラミングリファレンスガイド (PRG) の最新バージョン、およびこの製品の他のすべてのマニュアル、手順シート、およびユーティリティは、HPのサポートWebサイト、<http://www.hp.com/jp/support/> からダウンロードできます。

安全情報および規定に関する情報については、ドキュメントキットに収録されている『Product Notices』（製品についての注意事項）を参照してください。お使いの製品の最新版のガイドを確認するには、HPのサポートWebサイト、<http://www.hp.com/jp/support/> にアクセスして**[製品から探す]**を選択し、画面の説明に沿って操作します。

HPのサポート窓口へのお問い合わせ

ハードウェアまたはソフトウェアに関する問題を解決するには、HPのサポートWebサイト、<http://www.hp.com/jp/support/> にアクセスしてください。このサイトでは、トラブルシューティングの手順など、お使いの製品に関する詳細情報を確認できます。また、このサイトの**[お問い合わせ一覧]**からHPへのお問い合わせ方法を確認できます。なお、お使いのモデルにより提供されるサービスは異なります。



第2章 セットアップ

リーダーについて

このリーダーの特徴的な機能の1つとして、スキャン角度がとても広いことが挙げられます。これにより、公共料金の請求書などの長い線形バーコードの読み取りもできます。人間工学に基づいたリーダーの設計により、シングル トリガー モードまたは連続モードのどちらにおいても、長時間利用しているときの使いやすさが向上します。

USB: このガイドで利用できる適切な種類のインターフェイス用のバーコードをスキャンして、USB OEM、USB COM STD、またはUSBキーボード（USB KBD）のどれかによる通信を選択します。初期設定のインターフェイスはUSB KBDです。

開梱

購入したリーダーおよびオプション製品がすべて揃っていて、損傷がないことをよく確認します。出荷中に何らかの損傷が発生した場合は、HP製品販売店にお問い合わせください。

梱包材は保管しておいてください。本体の保守が必要になった場合に、元の梱包箱に入れて送り返していただく必要があります。

リーダーのセットアップ

リーダーを接続して組み立ててホストとの通信を行うには、このセクションで説明する操作を行います。

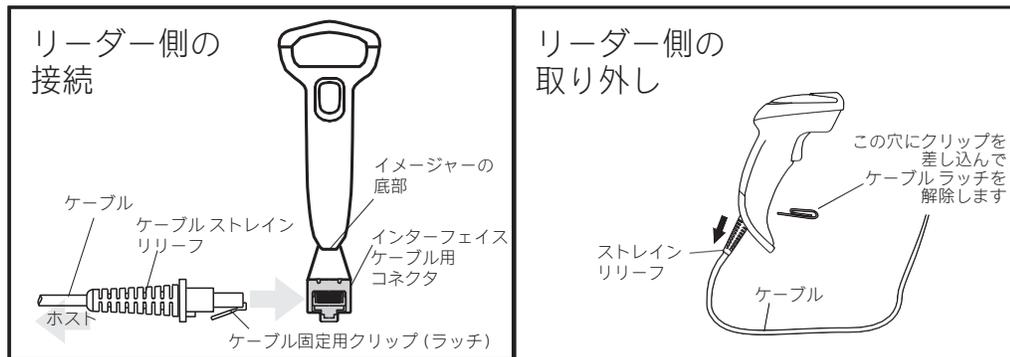
1. インターフェイスケーブルを取り付けます。
2. インターフェイスの種類を選択します（15ページを参照してください）。
3. 15ページからの説明に沿ってリーダーを設定します（省略可能。必要な設定によって異なります）。

インターフェイスケーブルの取り付け

お使いのインターフェイスに合わせて購入したリーダーキットには、適合するケーブルが付属しています。適合するケーブルが含まれていない場合は、HP製品販売店にお問い合わせください。

図1の挿入部分に示すように、コネクタとケーブル固定用クリップの位置を合わせて、ケーブルアセンブリをリーダーに差し込みます。

図1.インターフェイスケーブルの接続/取り外し



ホストへの接続の種類については以下で説明します（図2も参照してください）。

USB接続： 購入したインターフェイスの種類に適したUSBケーブルを使用して、端末またはPC上のUSBポートにリーダーを接続します。

図2.USB接続



注

各種ホストへの接続には特定のケーブルが必要です。上の図に示した接続は一例です。実際のコネクタは図と異なる場合がありますが、リーダーを接続する手順は変わりません。

プログラミング

リーダーには通常、注文したインターフェイスの種類に合った標準の初期設定による機能が工場出荷時に設定されています。7ページの「インターフェイス」セクションのインターフェイス用バーコードをスキャンしたら、その他のオプションを選択し、お使いのインターフェイスに対応する機能のセクションで入手できる手順およびプログラミング バーコードを使用してリーダーをカスタマイズできます。このガイドの35ページの「データ フォーマット」 および65ページの「読み取りコード」の章も参照してください。

インターフェイスの種類を選択

リーダーとそのホスト間の物理的な接続が完了したら、7ページの「インターフェイス」に進み、リーダーが接続されるインターフェイスの種類に関する情報およびプログラミングについて確認します。次に、そのセクションに記載されている適切なバーコードをスキャンして、お使いのシステムに合ったインターフェイスの種類を選択します。

インターフェイス設定の変更

リーダーには通常、注文したインターフェイスの種類に合った標準の初期設定による機能が工場出荷時に設定されています。「インターフェイス」セクションに記載されているインターフェイス用バーコードをスキャンした後、リーダーをさらにカスタマイズするためのオプションを選択する必要がある場合は、お使いのインターフェイスの種類に合わせて適切なセクション（以下に示します）を参照します。

- 13ページの「USB-COM (RS-232をシミュレートした) インターフェイス」
- 23ページの「キーボードインターフェイス」
- 33ページの「USB-OEMインターフェイス」

その他の機能の設定

取り付け時に標準の工場出荷時の初期設定とは異なるプログラミングが必要な場合は、このガイドの以下のセクションを参照することで、インターフェイスに固有でない設定を必要に応じて行うことができます。

「読み取り時のパラメーター」: スキャン、ビープ音やLEDインジケーター、その他の汎用的な設定など、一般機能が含まれています。

「読み取りコード」: バーコード ラベルの種類（読み取りコード）に関するオプションが含まれています。これらの設定を使用すると、読み取りコードの有効/無効、ラベルの長さの設定、チェック デジットの要求などを行えます。

ソフトウェアバージョンの送信

以下のラベルをスキャンすると、デバイスのソフトウェアバージョンをUSB-COM (RS-232) およびキーボードインターフェイス経由で送信できます。



ソフトウェアバージョンの送信

製品の設定の初期状態へのリセット

リーダーに設定されているプログラミングオプションがわからなくなった場合、またはいくつかのオプションを変更した後でカスタム初期設定（リーダーに保存されている場合）に戻す必要がある場合は、以下の[カスタム初期設定へのリセット]バーコードをスキャンします。これにより、現在有効なインターフェイスのカスタム設定にリセットされます。



注

カスタム初期設定は、インターフェイスの種類に基づいて行われます。このラベルをスキャンする前に、リーダーを正しいインターフェイス用に設定してください。



カスタム初期設定へのリセット

リーダーに設定されているプログラミングオプションがわからなくなった場合、またはいくつかのオプションを変更した後で工場出荷時設定に戻す必要がある場合は、2つのオプションがあります。[米国の工場出荷時設定へのリセット]バーコードまたは[欧州の工場出荷時設定へのリセット]バーコードをスキャンできます。どちらのラベルを使用しても、リーダーを工場出荷時設定（インターフェイスの種類を含む）に戻すことができます。米国向けのラベルでは、ラベルIDが米国で従来から使用されてきたものに戻されます。欧州向けのラベルでは、ラベルIDが欧州で従来から使用されてきたものに戻されます。米国および欧州向けのラベルIDセットは、このガイドのラベルIDのセクションに記載されています。



米国の工場出荷時設定へのリセット



欧州の工場出荷時設定へのリセット

後のページのプログラミングのセクションでは、各メニュー コマンドの工場出荷時の設定が記載されています（影付きブロックおよび太字テキストで示されています）。



第3章 インターフェイス

インターフェイスの選択

リーダーの各モデルは、以下のホスト インターフェイスのどれかに対応しています。

USB KBD

USB COM STD

USB OEM

USB複合デバイス

インターフェイスの設定

このセクションに記載されているプログラミング バーコードをスキャンして、リーダーが接続されるシステムに合った適切なインターフェイスの種類を選択します。次に、このガイドの対応する章（表1にも記載されています）に進み、選択したインターフェイスに関連する目的の設定および機能をすべて設定します。



注

他のプログラミング機能およびオプションとは異なり、インターフェイスの選択では1つのプログラミング バーコード ラベルのみをスキャンする必要があります。インターフェイス選択のバーコードをスキャンする前に、プログラミング モードの開始/終了バーコードをスキャンしないでください。

一部のインターフェイスでは、電源投入時にリーダーが無効になった状態で開始する必要があります。リーダーが無効になった状態でさらにリーダーを設定する必要が生じた場合は、トリガーを5秒程度引いたままにします。バーコードを使用したプログラミングが可能な状態へと、リーダーの状態が変わります。

表1.利用可能なインターフェイス

USB-COM	機能
 <p>USB-COM-STDの選択^a</p>	<p>RS-232インターフェイスの機能の設定 (13ページから)</p>
<p>USB-OEM</p> <p>(OPOS/UPOS/JavaPOSの場合に使用できません)</p>	機能
 <p>USB-OEMの選択</p>	<p>USB-OEMインターフェイスの機能の設定 (33ページから)</p>

a. HPのサポートWebサイト、<http://www.hp.com/jp/support/> から適切なUSB-COMドライバーをダウンロードしてください。

キーボード	機能
<p>USB標準キーボード</p>  <p>USB標準キーボードの選択</p>	<p>キーボードウェッジインターフェイスの機能の設定 (23ページから)</p>
 <p>USB標準キーボード (ALTモード) の選択</p>	
<p>USB複合デバイス (キーボード+COM) の選択</p> 	

第4章

バーコードを使用した設定

このセクション以降では、初期設定を変更する方法でリーダーを設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。その他のプログラミング方法については、5ページの「プログラミング」を参照してください。



注

このセクションを使用するためには、最初にお使いのリーダーでバーコードを読み取れるようにする必要があります。読み取れるようにしていない場合は、3ページからの「セットアップ」に進み、適切な手順を終わらせてください。

プログラミングバーコードの使用

このガイドには、機能の説明、およびリーダーの再設定を可能にするバーコードが記載されています。プログラミングバーコードラベルの一部には、6ページの「製品の設定の初期状態へのリセット」のように、1つのラベルをスキャンするだけで変更が完了するものがあります。しかし、このガイドに記載されているほとんどのプログラミングラベルでは、ラベルをスキャンする前にリーダーをプログラミングモードにする必要があります。プログラミングモードを開始するには、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを1回スキャンします。

リーダーがプログラミングモードになったら、いくつかのパラメーター設定をスキャンして、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。これで変更が確定され、プログラミングモードが終了して、リーダーが通常の動作に戻ります。



注

上記の一般的なプログラミング手順には例外がいくつかあります。あらかじめ設定された各機能を変更する場合は、機能の説明および設定手順をよくお読みください。

[HP Configuration]ユーティリティ

別の方法として、HPのサポートWebサイト、<http://www.hp.com/jp/support/>からダウンロードできる[HP Configuration]ユーティリティを使用してプログラミングを実行することもできます。このマルチプラットフォームのユーティリティプログラムでは、PCを使用してデバイスの設定を行います。シリアルケーブルまたはUSBケーブルを使用してデバイスと通信し、設定用バーコードを作成して印刷することもできます。

[HP Configuration]ユーティリティには、USB-COMインターフェイス経由の迅速でわかりやすい設定方法が用意されています。このユーティリティでは、PCで動作するわかりやすいグラフィカルインターフェイスから設定コマンドを選択することで、スキャナーを設定できます。これらのコマンドは選択した通信インターフェイスを介してスキャナーに送信されます。または、スキャンされるバーコードとして印刷することもできます。

このユーティリティでは、接続されているデバイスを対象にソフトウェアアップグレードを実行することもできます。

設定パラメーター

リーダーをセットアップしたら、アプリケーションのニーズに合うように初期設定のパラメーターを変更できます。初期値を設定し、アプリケーション用のインターフェイスを選択するための初期設定については、265ページからの「標準の初期設定」を参照してください。

目的の機能をそのリファレンスグループに基づいて簡単に見つけられるように、以下の設定パラメーターはいくつかの論理グループに分けられています。

インターフェイス固有のパラメーター：

- 13ページの「USB-COM (RS-232をシミュレートした) インターフェイス」
- 23ページの「キーボードインターフェイス」
- 33ページの「USB-OEMインターフェイス」

すべてのインターフェイスアプリケーションに共通のパラメーター：

- 35ページの「データ フォーマット」は、さまざまな動作モードおよびインジケータのステータスの機能を制御します。
- 49ページの「読み取り時のパラメーター」には、ホスト システムに送信されるメッセージを制御するためのオプションが記載されています。

読み取りコード固有のパラメーター：

- 65ページの「読み取りコード」には、1Dコード、コードファミリー、およびそのオプションを個別に組み合わせるための設定が記載されています。



注

このセクションを使用するためには、最初にお使いのリーダーでバーコードを読み取れるようにする必要があります。読み取れるようにしていない場合は、3ページからの「セットアップ」に進み、適切な手順を終わらせてください。

各機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 各プログラミング ページの一番上に表示されている[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします (該当する場合)。
2. 目的のプログラミング機能を設定するためのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがリーダーで確実に読み取られるように、そのページおよび (場合によっては) 見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要が生じる場合があります。
3. その他の入力パラメーターが必要な場合は、付録D「テンキー」に進み、テンキーの適切な文字をスキャンします。



注

「リファレンス」の章には、多くの機能に関する追加情報が記載されています。

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

4. 一連のプログラミング手順を完了します。このためには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを終了します。

選択した設定項目の設定に関する詳細な説明、プログラミング情報、および例については、231ページからの「リファレンス」を参照してください。

グローバル インターフェイス機能

以下のインターフェイス機能は、すべての種類のインターフェイスで設定可能です。

グローバル インターフェイス機能

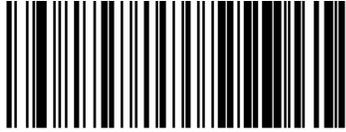
以下のインターフェイス機能は、すべての種類のインターフェイスで設定可能です。お使いのインターフェイスに固有の機能を設定するには、このガイドの該当するセクションを参照してください。

- 13ページの「USB-COM (RS-232をシミュレートした) インターフェイス」
- 23ページの「キーボードインターフェイス」
- 33ページの「USB-OEMインターフェイス」

ホスト コマンド : 従う/無視

このオプションは、リーダーがホスト コマンドに従うか、ホスト コマンドを無視するかを指定します。無視するように設定した場合、リーダーは以下の処理に必要なコマンドを除き、すべてのホスト コマンドを無視します。

- サービスモード
- フラッシュプログラミングモード
- インターフェイスを有効な状態に保持
- ラベルの送信

 <p>初期設定</p>	 <p>ホスト コマンド=従う</p>
 <p>ホスト コマンド=無視</p>	



USBサスペンドモード

この設定は、USBインターフェイスがサスペンドモードに入る機能を有効または無効にします。

	 USBサスペンドモード=無効
 USBサスペンドモード=有効	

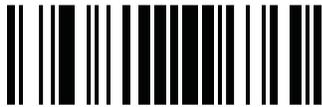
USB-COM (RS-232をシミュレートした) インターフェイス

USB-COMインターフェイスは、USB接続の使用時にスキャナーとホストの間の「標準のRS-232」インターフェイスの動作をシミュレートするために使用されます。ホスト上のUSB-COMインターフェイスおよび関連ドライバーにより、システムは仮想COMコネクタを介してアプリケーションと通信できます。このコネクタは、スキャンデバイスと通信するためにOPOSまたはJavaPOSアプリケーションやレガシーシリアルアプリケーションで使用できます。

HP OPOSまたはJavaPOSドライバーの使用時は、適切な動作のため、特定のスキャナー設定を変更しないようにします。これらのドライバーの使用時にユーザーはラベルIDやホストコマンド文字を変更したり、USB-COMのACK/NAKプロトコルを有効にしたりしないでください。

このガイドに記載されているプログラミングバーコードを使用すると、標準のUSB-COMインターフェイスを変更できます。

文字間遅延 (14ページ)
ASCII BELでのビープ音 (15ページ)
Not on Fileでのビープ音 (15ページ)
ACK文字 (17ページ)
NAK文字 (17ページ)
ACK/NAKのタイムアウト値 (18ページ)
ACK/NAKの再試行回数 (19ページ)
ACK/NAKのエラー処理 (20ページ)
送信エラーの通知 (21ページ)
無効化文字 (21ページ)
有効化文字 (22ページ)



文字間遅延

このパラメーターは、ある文字の末尾が送られてから次の文字の先頭が送られるまでの文字間の遅延時間を指定します。遅延時間は、0（ゼロ）～990ミリ秒の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。0を設定すると、遅延なしになります。プログラミング手順について詳しくは、232ページの「文字間遅延」または239ページの「文字間遅延」を参照してください。

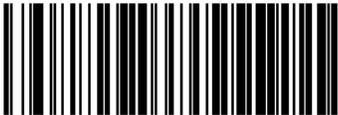
	 文字間遅延=遅延なし
 文字間遅延設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	 キャンセル


初期設定
00=文字間遅延なし



ASCII BELでのビープ音

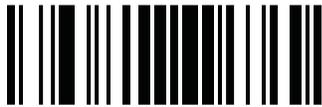
このパラメーターを有効にすると、RS-232シリアル回線で<BEL>文字が検出されたときにリーダーでビープ音が鳴ります。<BEL>は、不正な入力またはその他の重要なイベントに対してユーザーの注意を促すために発行されます。

 <p>ASCII BELでのビープ音=無効</p>	
	 <p>ASCII BELでのビープ音=有効</p>

Not on Fileでのビープ音

このオプションは、NOF (Not-On-File) ホスト コマンドの受信時にリーダーでビープ音を続けて3回鳴らす動作を有効または無効にします。

 <p>Not on Fileでのビープ音=無効</p>	
	 <p>Not on Fileでのビープ音=有効</p>

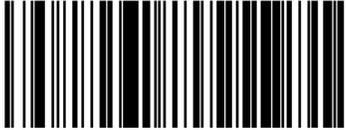
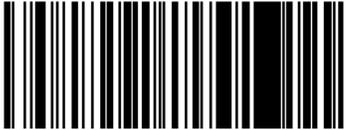
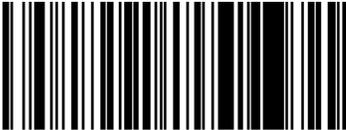


ACK/NAKのオプション

このオプションは、RS-232 ACK/NAKプロトコルをサポートしているリーダーの機能を有効または無効にします。このオプションを設定すると、リーダーまたはホストで、データを正しく受信すると「ACK」を送信し、データが間違っていると「NAK」を送信します。

以下のオプションがあります。

- ・ 無効
- ・ ラベルの送信で有効：リーダーで、ラベルの送信時にホストからのACK/NAK応答を待ちます。
- ・ ホスト コマンドの確認応答で有効：ホストからコマンドが送信されたときにリーダーでACK/NAK応答を送ります。
- ・ ラベルの送信およびホスト コマンドの確認応答で有効

	 ACK/NAKプロトコル=ACK/NAKを無効
 ACK/NAKプロトコル=ラベルの送信で有効	
	 ACK/NAKプロトコル=ホスト コマンドの確認応答で有効
 ACK/NAKプロトコル=ラベルの送信およびホスト コマンドの確認応答で有効	



ACK文字

この設定は、ACK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。プログラミング手順について詳しくは、233ページの「ACK文字」を参照してください。



ACK文字設定の選択



初期設定

0x06 「ACK」 文字

NAK文字

この設定は、NAK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。プログラミング手順について詳しくは、234ページの「NAK文字」を参照してください。

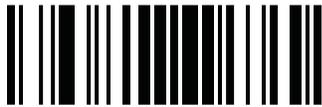


NAK文字設定の選択



初期設定

0x15 「NAK」 文字



ACK/NAKのタイムアウト値

このオプションは、ラベルの送信後にホストからACK文字が送られてくるまでリーダーが待機する時間を指定します。選択できるタイムアウト値の範囲は、200～15,000ミリ秒（15秒）（200ミリ秒単位）です。0を選択すると、タイムアウトは無効になります。プログラミング手順について詳しくは、235ページの「ACK/NAKのタイムアウト値」を参照してください。



ACK/NAKのタイムアウト値設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=ACK/NAKのタイムアウト値は200ミリ秒です



ACK/NAKの再試行回数

この機能は、再試行状態のためにリーダーでラベルの送信を再試行する回数を指定します。選択できる再試行回数は1~254です。0を選択すると、再試行回数は無効になり、255を選択すると、再試行回数は無制限になります。プログラミング手順について詳しくは、236ページの「ACK/NAKの再試行回数」を参照してください。



ACK/NAKの再試行回数設定の選択

入力ミスをした場合 : [キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

003=3回の再試行

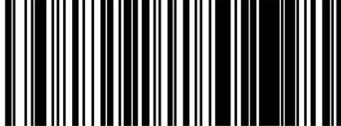


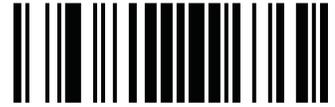
ACK/NAKのエラー処理

この機能は、ホストからのACK文字の待機中に検出した受信エラーをリーダーで処理する方法を指定します。

以下のオプションがあります。

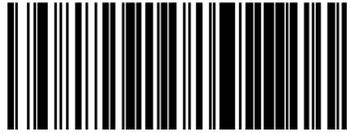
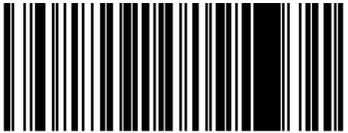
- 検出されたエラーを無視
- エラーを有効なACK文字として処理
- エラーを有効なNAK文字として処理

	 ACK/NAKのエラー処理=検出されたエラーを無視
 ACK/NAKのエラー処理=エラーを有効なACK文字として処理	
	 ACK/NAKのエラー処理=エラーを有効なNAK文字として処理



送信エラーの通知

このオプションは、ACK/NAKモードのときにリーダーで送信エラーを知らせるビープ音を鳴らす機能を有効または無効にします。

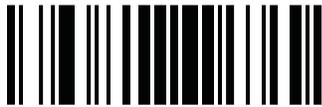
	 <p>送信エラーの通知=通知を無効</p>
 <p>送信エラーの通知=通知を有効</p>	

無効化文字

リーダーを無効にするために使用するRS-232ホストコマンドの値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。プログラミング手順について詳しくは、237ページの「無効化文字」を参照してください。

 <p>無効化文字設定の選択</p>	
---	--

 0x44=無効化文字は「D」です



有効化文字

リーダーを有効にするために使用するRS-232ホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。プログラミング手順について詳しくは、238ページの「有効化文字」を参照してください。



有効化文字設定の選択

初期設定

0x45=有効化文字は「E」です

キーボードインターフェイス

USBキーボードおよびキーボードウェッジインターフェイス用のオプションを選択するには、この章に記載されているプログラミングバーコードを使用します。

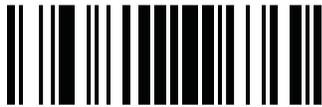
国モード (24ページ)
Caps Lockの状態 (27ページ)
キーボードのテンキー (28ページ)
キーボードでの制御文字の送信 (29ページ)
コード間遅延 (30ページ)
USBキーボードの速度 (31ページ)

標準の工場出荷時設定

標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。

スキャンコード表

キーボードインターフェイスに適用される制御文字エミュレーションに関する情報の一覧は、付録E「スキャンコード表」に記載されています。



国モード

この機能は、キーボード言語を指定します。製品の各バージョン（StandardまたはEuropean）でサポートされている国モードを以下に示します。

サポートされている 国コード	Standard バージョン	European バージョン
英語（米国）	●	●
スペイン語 （ラテンアメリカ）	●	●
日本語	●	
ポーランド語	●	
ポルトガル語 （ブラジル）	●	●
リトアニア語	●	
ハンガリー語	●	
クロアチア語	●	
ルーマニア語	●	
チェコ語	●	
スロバキア語	●	
イタリア語		●
フランス語		●
ドイツ語		●
英語（英国）		●
スウェーデン語		●
ベルギー語		●
デンマーク語		●
ノルウェー語		●
スイス		●

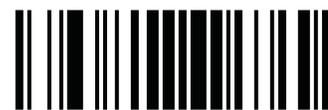
初期設定



国モード=英語（米国）

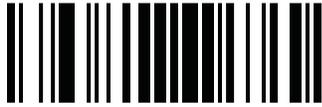


国モード=ベルギー語

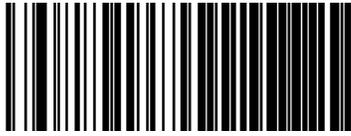


国モード (続き)

	 国モード=英語 (英国)
 国モード=クロアチア語	
	 国モード=チェコ語
 国モード=デンマーク語	
	 国モード=フランス語
 国モード=ドイツ語	
	 国モード=ハンガリー語
 国モード=リトアニア語	



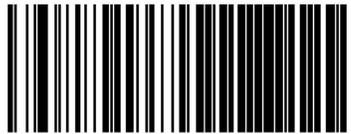
国モード (続き)



国モード=イタリア語



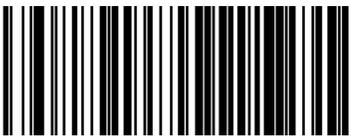
国モード=日本語106キー



国モード=ノルウェー語



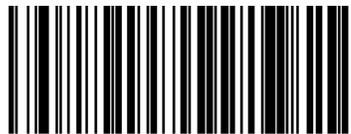
国モード=ポーランド語



国モード=ポルトガル語 (ブラジル)



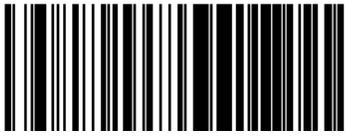
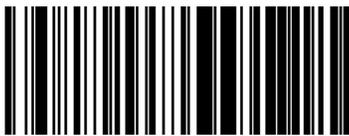
国モード=ルーマニア語



国モード=スロバキア語

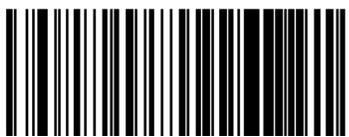


国モード (続き)

 <p>国モード=スペイン語 (ラテンアメリカ)</p>	
	 <p>国モード=スウェーデン語</p>
 <p>国モード=スイス</p>	

Caps Lockの状態

このオプションは、リーダーから送信する文字データの形式を指定します。標準キーボード (ALTモード) を選択した場合、このオプションは適用されません。

	 <p>Caps Lockの状態=Caps Lockオフ</p>
 <p>Caps Lockの状態=Caps Lockオン</p>	
	 <p>Caps Lockの状態=自動Caps Lock有効</p>



キーボードのテンキー

この機能は、数字の送信に標準のキーまたはテンキーのどちらを使用するかを指定します。

	 <p>キーボードのテンキー=標準のキー</p>
 <p>キーボードのテンキー=テンキー</p>	



キーボードでの制御文字の送信

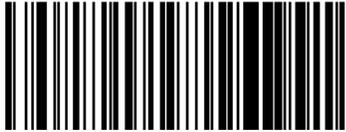
この機能は、リーダーからホストにASCII制御文字を送信する方法を指定します。制御文字について詳しくは、付録E「スキャンコード表」を参照してください。

オプションは、以下のとおりです。

[Ctrl] + キーを送信：00H ~ 0x1FHのASCII文字（0x1FHを含む）は、[Ctrl] + キーという形式で送信されます。特別なキーは、81H ~ A1の範囲で使用できます。

[Ctrl] + [Shift] + キーを送信：上記と同じ動作になりますが、制御文字は[Ctrl] + [Shift] + キーという形式で送信されます。

特別なファンクションキーを送信：特別なファンクションキーの対応表に従って00H ~ 1FHの文字を送信します（294ページの「Microsoft® Windows®コードページ1252」を参照してください）。通常のASCIIセットに含まれていないキーを送信するには、このオプションを使用します。使用可能なスキャンコードセットごとに一意のセットが用意されています。

	 <p>キーボードでの制御文字の送信=00</p>
 <p>キーボードでの制御文字の送信=01</p>	
	 <p>キーボードでの制御文字の送信=02</p>



コード間遅延

キーボード インターフェイスでホストに送信されるラベル間の遅延時間を指定します。この機能の選択可能な範囲は、0~99秒です。プログラミング手順について詳しくは、240ページの「コード間遅延」を参照してください。



コード間遅延の設定

入力ミスをした場合 : [キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



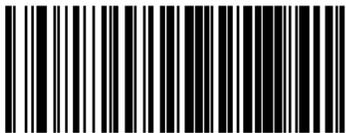
初期設定

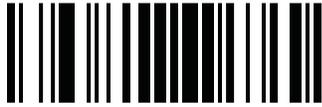
00=ウェッジのコード間遅延なし



USBキーボードの速度

このオプションは、USBキーボードのUSBポーリングレートを指定します。

	 <p>USBキーボードの速度=1ミリ秒</p>
 <p>USBキーボードの速度=2ミリ秒</p>	
	 <p>USBキーボードの速度=3ミリ秒</p>
 <p>USBキーボードの速度=4ミリ秒</p>	
	 <p>USBキーボードの速度=5ミリ秒</p>



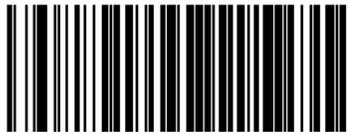
USBキーボードの速度（続き）



USBキーボードの速度=6ミリ秒



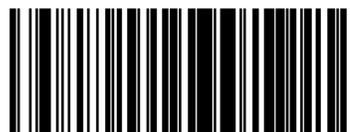
USBキーボードの速度=7ミリ秒



USBキーボードの速度=8ミリ秒



USBキーボードの速度=9ミリ秒



USBキーボードの速度=10ミリ秒

USB-OEMインターフェイス

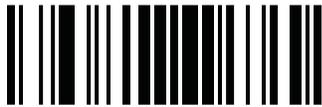
USB-OEMデバイスの使用法 (34ページ)
USB-OEMインターフェイスオプション (34ページ)

はじめに

USBインターフェイスの機能設定は、リーダーが接続されているホストの種類に応じて異なります。USB-OEMインターフェイス用の設定を行うには、この章の機能設定を使用します。その他のUSBインターフェイスについては、それぞれのホストの種類に応じて該当する章で説明しています。

標準の工場出荷時設定

標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。



USB-OEMデバイスの使用法

USB-OEMプロトコルを使用すると、リーダーを2種類の異なるバーコードリーダーのどちらかに特定できます。USB-OEM POSにすでに接続されているその他のスキャナーでは、すべてのデバイスが通信できるように、この設定の変更が必要になる場合があります。

以下のオプションがあります。

- ・ テーブルトップ スキャナー
- ・ ハンドヘルド スキャナー



注

同じ種類の2台のリーダーまたはスキャナーをPOSシステムに接続するときは、デバイスの使用法の切り替えが必要な場合があります。

	 USB-OEMデバイスの使用法=テーブルトップ スキャナー
 USB-OEMデバイスの使用法=ハンドヘルド スキャナー	

USB-OEMインターフェイスのオプション

この設定には、インターフェイス固有の制御メカニズムが備わっています。以下のオプションがあります。

- ・ 従う：リーダー設定用のホスト コマンドに従います
- ・ 無視：リーダー設定用のホスト コマンドを無視します

	 USB-OEMインターフェイスのオプション=従う
 USB-OEMインターフェイスのオプション=無視	

データフォーマット

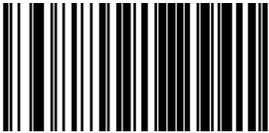
グローバルプレフィックス/サフィックス (36ページ)
グローバルAIM ID (37ページ)
ラベルID (38ページから) <ul style="list-style-type: none">ラベルID : プリロードされたセット (38ページ)ラベルID : 読み取りコードごとに個別設定 (39ページ)ラベルIDの制御 (39ページ)ラベルIDの読み取りコードの選択 (40ページ)
グローバルな中間ラベルID文字の設定 (46ページ)
大文字/小文字変換 (47ページ)
文字変換 (48ページ)

この章に記載されている機能を使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。これらの機能の設定手順について詳しくは、231ページからの「リファレンス」を参照してください。



グローバルプレフィックス/サフィックス

242ページの「グローバルプレフィックス/サフィックス」で説明しているように、最大20文字のASCII文字をプレフィックスとして（バーコード データの前の位置に）、またはサフィックスとして（バーコード データの後ろの位置に）追加できます。

	 グローバルプレフィックスの設定
 グローバルサフィックスの設定	

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



グローバルプレフィックスなし
グローバルサフィックス=0x0D (CR)



グローバルAIM ID



注

この機能は、すべての種類の読み取りコードを対象にAIM IDの追加を有効または無効にします。

(ラベルIDのようにユーザー自身が選択するカスタム文字とは対照的に) AIMラベルIDをスキャンされたバーコードデータに付加できます。プログラミング手順について詳しくは、243ページの「グローバルAIM ID」を参照してください。

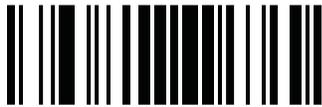
	
	

GS1-128のAIM ID

グローバルAIM IDが無効になっている場合は、GS1-128のAIM IDを単独で有効または無効にできません。GS1-128のAIM IDは、]C1、]C2、または]C3です。

同様に、他の読み取りコードのAIM IDを単独で有効または無効にすることもできます。詳しくは、HPのサポート窓口にお問い合わせください。



ラベルID

ラベルIDは、最大3つのASCII文字（各文字は0x01～0xFFの16進値のどれか）で構成されるカスタマイズ可能なコードであり、バーコード（読み取りコード）の種類を識別するために使用されます。このオプションを有効にする方法に応じて、送信されるバーコードデータの前または後ろにラベルIDを連結できます。この機能には、カスタムのラベルIDをプリロードされたセットとして設定するオプション（38ページの「ラベルID：プリロードされたセット」を参照してください）、

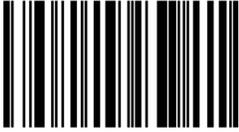
および読み取りコードごとに個別に設定するオプション（39ページの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」を参照してください）が用意されています。すべての種類の読み取りコードで常に業界標準のラベルIDが組み込まれるようにリーダーを設定する場合は、前の機能、37ページの「グローバルAIMID」を参照してください。

ラベルID：プリロードされたセット

このリーダーは、2つのプリロードされたラベルIDセットに対応しています。米国向けのセットおよび欧州向けのセットを以下に示します。用意されているプリロードされたラベルIDセットについて詳しくは、244ページの「ラベルID：プリロードされたセット」を参照してください。

**注意**

ラベルIDセットを別のものに変更すると、リーダーの他のすべての設定（ホストのインターフェイスの種類を含む）が消去され、工場出荷時の設定にリセットされます。カスタムの設定またはカスタムの初期設定はすべて失われます。

	 プリロードされたラベルIDセット=米国向けのセット
 プリロードされたラベルIDセット=欧州向けのセット	



ラベルID : 読み取りコードごとに個別設定

この機能は、1つの読み取りコードのラベルIDを個別に設定します。

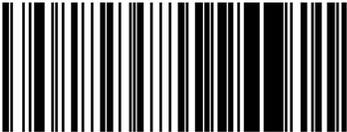
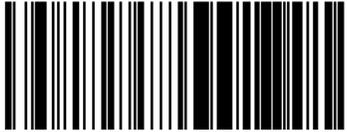


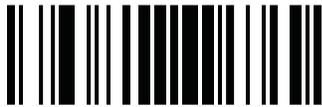
注

この設定では、複数のセクションのバーコードをスキャンする必要があります。プログラミング手順について詳しくは、246ページの「ラベルID : 読み取りコードごとに個別設定」を参照してください。

ラベルIDの制御

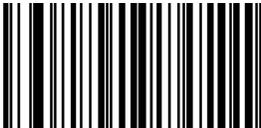
このオプションは、指定された種類の読み取りコードで、ラベルIDを無効にするか、それともプレフィックスまたはサフィックスとして送信するかを制御します。

	 ラベルIDの送信=無効
 ラベルIDの送信=プレフィックスとして有効	
	 ラベルIDの送信=サフィックスとして有効
 キャンセル	入力ミスをした場合:[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



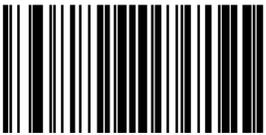
ラベルIDの読み取りコードの選択

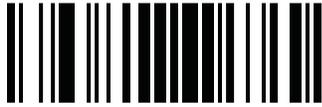
このオプションは、ラベルIDが設定される読み取りコードを選択します。詳しい手順については、246ページの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」を参照してください。

	 UPC-AのラベルID文字の設定
 UPC-A/P2のラベルID文字の設定	
	 UPC-A/P5のラベルID文字の設定
 UPC-A/GS1-128のラベルID文字の設定	
	 UPC-EのラベルID文字の設定
 UPC-E/P2のラベルID文字の設定	
	 UPC-E/P5のラベルID文字の設定

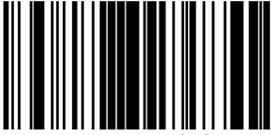
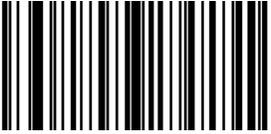


ラベルIDの読み取りコードの選択（続き）

 <p>UPC-E/GS1-128のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>EAN 13のラベルID文字の設定</p>
 <p>EAN 13/P2のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>EAN 13/P5のラベルID文字の設定</p>
 <p>EAN 13/GS1-128のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>EAN 8のラベルID文字の設定</p>
 <p>EAN 8/P2のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>EAN 8/P5のラベルID文字の設定</p>

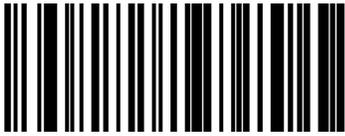


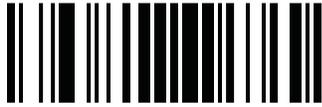
ラベルIDの読み取りコードの選択（続き）

 <p>EAN 8/GS1-128のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>GS1 DataBar OmnidirectionalのラベルID文字の設定</p>
 <p>GS1 DataBar ExpandedのラベルID文字の設定</p>	
	 <p>GS1 DataBar LimitedのラベルID文字の設定</p>
 <p>Code 39のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>Code 32のラベルID文字の設定</p>
 <p>Code 39 CIPラベルID文字の設定</p>	
	 <p>Code 128のラベルID文字の設定</p>



ラベルIDの読み取りコードの選択（続き）

 <p>GS1-128のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>CodabarのラベルID文字の設定</p>
 <p>Interleaved 2 of 5のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>Interleaved 2 of 5 CIP HRのラベルID文字の設定</p>
 <p>Datalogic 2 of 5 CIP HRのラベルID文字の設定</p>	
	 <p>ABC CodabarのラベルID文字の設定</p>
 <p>Code 11のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>Standard 2 of 5のラベルID文字の設定</p>



ラベルIDの読み取りコードの選択（続き）



Industrial 2 of 5のラベルID文字の設定



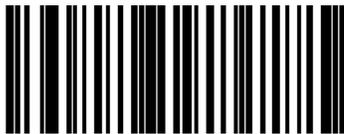
ISSNのラベルID文字の設定



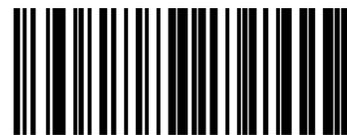
IATAのラベルID文字の設定



Concatenated ISBT 128のラベルID文字の設定



MSIのラベルID文字の設定



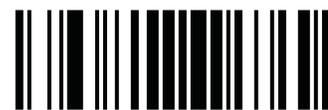
Code 93のラベルID文字の設定



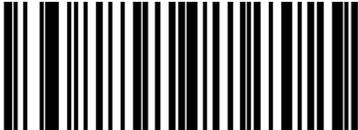
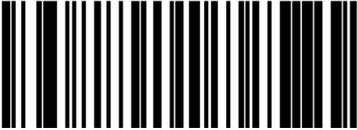
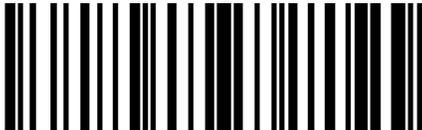
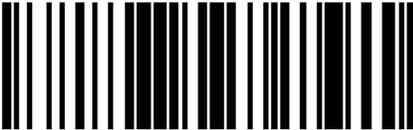
Codablock FのラベルID文字の設定

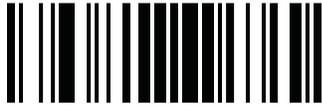


Code 4のラベルID文字の設定



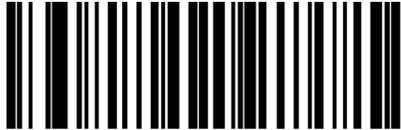
ラベルIDの読み取りコードの選択（続き）

 <p>Code 5のラベルID文字の設定</p>	
	 <p>Follett 2 of 5のラベルID文字の設定</p>
 <p>ISBNのラベルID文字の設定</p>	
	 <p>Concatenated ISBTのラベルID文字の設定</p>
 <p>Anker PlesseyのラベルID文字の設定</p>	
	 <p>PlesseyのラベルID文字の設定</p>



グローバルな中間ラベルID文字の設定

送信時にラベル ペアの2つのラベル間に追加される中間ラベルIDを指定します。想定される文字列は最大20文字です。ラベル ペアを1つのラベルに結合してホストに送信するとき、中間ラベルIDをデータに追加し、その後ろに最初のラベルを付け、前に2つ目のラベルを付けることができます。詳しくは、248ページの「グローバルな中間ラベルID文字の設定」を参照してください。



グローバルな中間ラベルID文字の設定

入力ミスをした場合 : [キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



グローバルな中間ラベルID文字なし
00000000000000000000



大文字/小文字変換

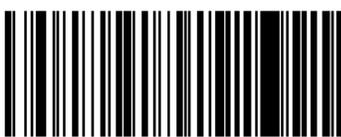
この機能を使用すると、すべてのアルファベット文字を大文字または小文字に変換できます。

同じ種類の2台のリーダーまたはスキャナーをPOSシステムに接続するときは、デバイスの使用法の切り替えが必要な場合があります。



注

大文字/小文字変換は、スキャンされたバーコードデータにのみ影響し、ラベルID、プレフィックス、サフィックス、またはその他の付加データには影響しません。

	 大文字/小文字変換=無効 (大文字/小文字変換なし)
 大文字/小文字変換=大文字に変換	
	 大文字/小文字変換=小文字に変換



文字変換

文字変換は、8バイトの設定項目です。この8バイトは、16進のASCII値で表現された4つの文字ペアです。ペアの最初の文字は変換前の文字です。ペアの2つ目の文字は変換後の文字です。ペア内の変換する文字が「FF」である場合、変換は行われません。プログラミング手順について詳しくは、248ページの「文字変換」を参照してください。



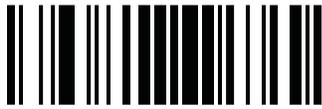
文字変換の設定

初期設定

0xFFFFFFFFFFFFFFFF (文字変換なし)

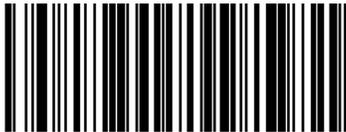
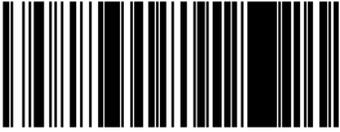
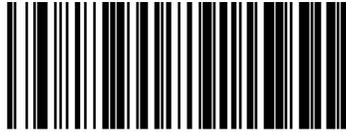
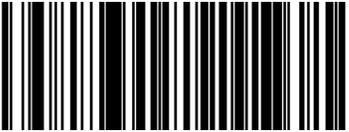
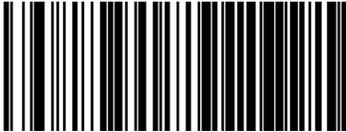
読み取り時のパラメーター

二重読み取りのタイムアウト (50ページ)	読み取り成功のLEDの持続時間 (58ページ)
ラベル終了のタイムアウト (52ページ)	スキャンモード (59ページ)
LEDおよびビープ音によるインジケーター (53ページ)	スタンドモードでのトリガーのタイムアウト (60ページ)
電源投入時の警告 (53ページ)	スタンド装着時の検出 (61ページ)
読み取り成功：通知のタイミング (54ページ)	スタンドモードでの感度 (62ページ)
読み取り成功ビープ音の種類 (55ページ)	スキャン有効時間 (62ページ)
読み取り成功ビープ音の周波数 (55ページ)	スタンドモードでのフラッシュ (63ページ)
読み取り成功ビープ音の長さ (56ページ)	フラッシュオン時間 (63ページ)
読み取り成功ビープ音の音量 (57ページ)	フラッシュオフ時間 (64ページ)



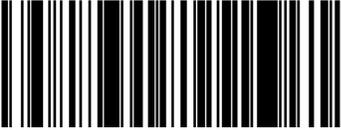
二重読み取りのタイムアウト

[二重読み取りのタイムアウト]は、同じラベルの二重読み取りを防ぐために、同じ読み取りコードやデータのラベルの最初の読み取りと次の読み取りの間に許可される最小時間を設定します。本体でラベルが読み取られた後、[二重読み取りのタイムアウト]の時間内に同じラベルが再度検出された場合は、そのラベルの2回目の読み取りが無視されます。[二重読み取りのタイムアウト]は、ラベルが読み取られるごとにトリガーを引く必要のあるスキャンモードには適用されません。

	 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.1秒</p>
 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.2秒</p>	
	 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.3秒</p>
 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.4秒</p>	
	 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.5秒</p>



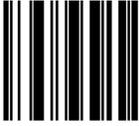
二重読み取りのタイムアウト (続き)

 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.6秒</p>	
	 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.7秒</p>
 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.8秒</p>	
	 <p>二重読み取りのタイムアウト=0.9秒</p>
 <p>二重読み取りのタイムアウト=1秒</p>	



ラベル終了のタイムアウト

この機能は、最後のラベルセグメントが検出されてからリーダーで新しいラベルの準備ができるまでの時間を設定します。タイムアウト値は、10～2,550ミリ秒（2.55秒）の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。[ラベル終了のタイムアウト]は、ラベルが読み取られるごとにトリガーを引く必要のあるスキャン モードには適用されません。プログラミング手順について詳しくは、250ページの「ラベル終了のタイムアウト」を参照してください。

 <p>ラベル終了のタイムアウト設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	 <p>キャンセル</p>

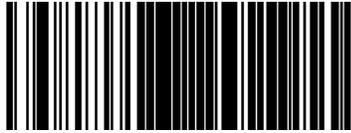
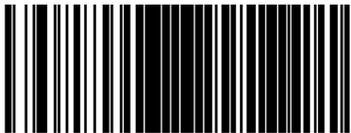


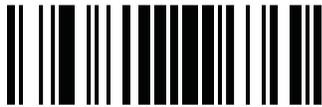


LEDおよびビープ音によるインジケータ

電源投入時の警告

リーダーに電力が供給されているという（ビープ音による）通知を無効または有効にします。

	 <p>電源投入時の警告=無効（ビープ音による通知なし）</p>
 <p>電源投入時の警告=電源投入時のビープ音</p>	



読み取り成功：通知のタイミング

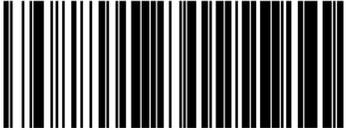
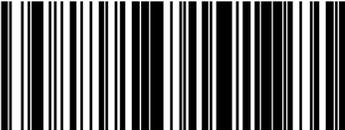
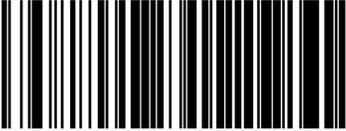
この機能は、バーコードの読み取りに成功したときに、リーダーから通知される（ビープ音が鳴ったり、緑色のLEDが点滅したりする）タイミングを指定します。以下のオプションを選択できます。

- 読み取り成功=デコード後に通知
- 読み取り成功=送信後に通知
- 読み取り成功=CTSが無効になってから有効になった後に通知



注

このオプション（CTSを使用）は、RS-232インターフェイスを搭載したQ21XXモデルでのみ有効です。

	 読み取り成功の通知=デコード後
 読み取り成功の通知=送信後	
	 読み取り成功の通知=CTSが無効になってから有効になった後



読み取り成功ビープ音の種類

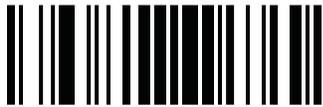
読み取り成功ビープ音が単音調か複音調かを指定します。

	<p>読み取り成功ビープ音の種類=単音調</p>
<p>読み取り成功ビープ音の種類=複音調</p>	

読み取り成功ビープ音の周波数

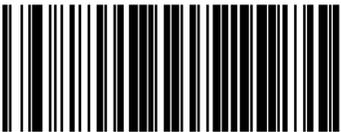
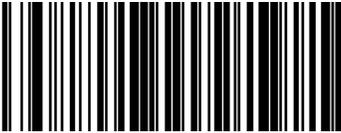
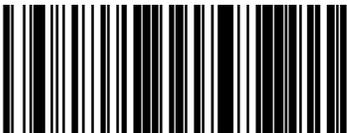
以下の一覧から選択できる低い、中程度、または高い周波数で鳴るように読み取り成功ビープ音を調整します。(ビープ音の音程の高さや階調を制御します。)

	<p>読み取り成功ビープ音の周波数=低</p>
<p>読み取り成功ビープ音の周波数=中</p>	
	<p>読み取り成功ビープ音の周波数=高</p>



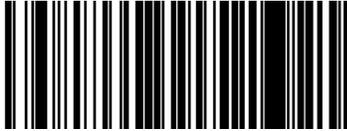
読み取り成功ビープ音の長さ

読み取り成功ビープ音の持続時間を指定します。

	 読み取り成功ビープ音の長さ=60ミリ秒
 読み取り成功ビープ音の長さ=80ミリ秒	
	 読み取り成功ビープ音の長さ=100ミリ秒
 読み取り成功ビープ音の長さ=120ミリ秒	
	 読み取り成功ビープ音の長さ=140ミリ秒
 読み取り成功ビープ音の長さ=160ミリ秒	

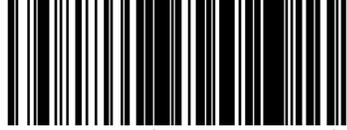
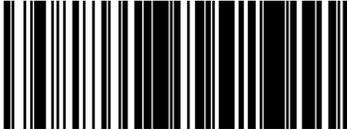


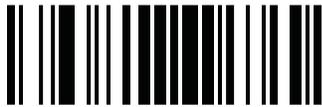
読み取り成功ビープ音の長さ（続き）

	 <p>読み取り成功ビープ音の長さ=180ミリ秒</p>
 <p>読み取り成功ビープ音の長さ=200ミリ秒</p>	

読み取り成功ビープ音の音量

読み取り成功ビープ音を鳴らすときの音量（音の大きさ）を指定します。3つの音量レベルを選択できます。

	 <p>読み取り成功ビープ音の音量=ビープ音オフ</p>
 <p>読み取り成功ビープ音の音量=小</p>	
	 <p>読み取り成功ビープ音の音量=中</p>
 <p>読み取り成功ビープ音の音量=大</p>	



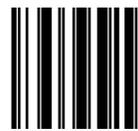
読み取り成功のLEDの持続時間

この機能は、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を指定します。読み取り成功のLEDがオンのままになる時間は、0.1～25.5秒の範囲（100ミリ秒単位）で設定できます。00を設定すると、次のトリガーが引かれるまでLEDはオンのままになります。プログラミング手順について詳しくは、251ページの「読み取り成功のLEDの持続時間」を参照してください。



読み取り成功のLEDの持続時間設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



初期設定

003=読み取り成功のLEDが
0.3秒間オンのままになります



注

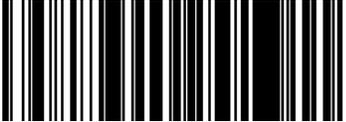
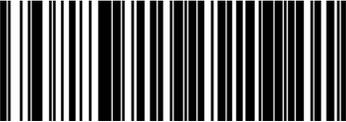
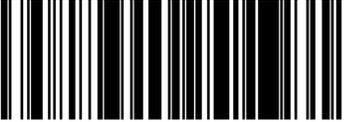
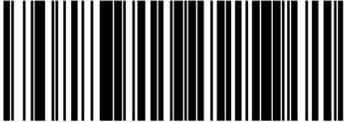
スリープ時にはインジケータは消灯します。

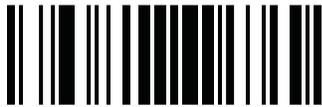


スキャン機能

スキャンモード

プログラミング手順について詳しくは、252ページの「スキャンモード」を参照してください。

 スキャンモード=トリガー シングル	
	 スキャンモード=トリガー ホールド マルチ
 スキャンモード=トリガー パルス マルチ	
	 スキャンモード=フラッシング
 スキャンモード=常時オン	
	 スキャンモード=Autosense®スタンドモード
 スキャンモード=トリガー オブジェクト検知	



スタンドモードでのトリガーのタイムアウト

この機能は、Autosenseスタンドモード (252ページ) のときに、トリガーが引かれた後でトリガースィングル (252ページ) モードを継続する時間を指定します。

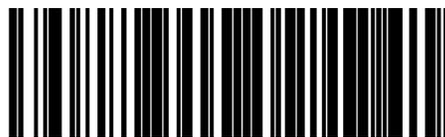


注

このタイムアウトは、スキャンモードをAutosenseスタンドモード (252ページ) に設定している場合にのみ使用されます。



スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=0.5秒



スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=1.5秒



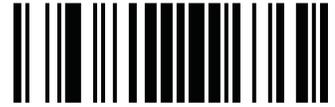
スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=2秒



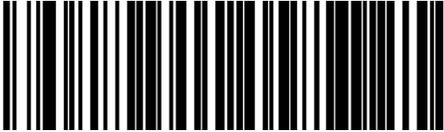
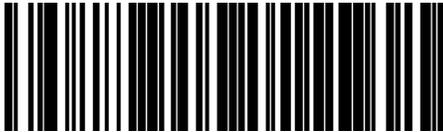
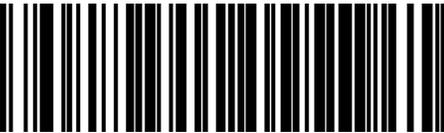
スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=3秒



スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=4秒

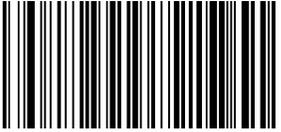


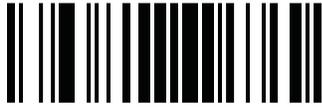
スタンドモードでのトリガーのタイムアウト（続き）

	 スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=6秒
 スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=8秒	
	 スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=トリガーが引かれた時点でトリガー シングルに戻る

スタンド装着時の検出

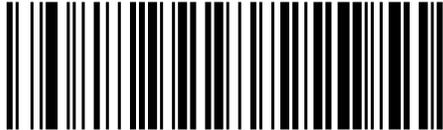
自動認識ハードウェアを搭載したスタンドに置かれているときのスキャナーの動作を指定します。

	 自動認識を無視
 スタンドモードに切り替え	
	 常時オンに切り替え
 フラッシングに切り替え	



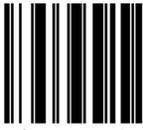
スタンドモードでの感度

スタンドモードでのスリープ解除時の感度レベルを設定します。低、中、または高を選択できます。

	 スタンドモードでの感度=低
 スタンドモードでの感度=中	
	 スタンドモードでの感度=高

スキャン有効時間

この設定は、リーダーでスキャンが有効な状態になった後、その状態のままの時間を指定します。1～255秒の範囲（1秒単位）で設定できます。プログラミング手順について詳しくは、253ページの「スキャン有効時間」を参照してください。

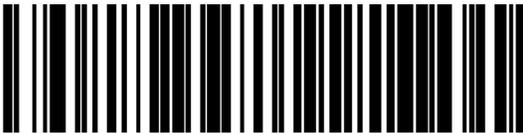
 スキャン有効時間設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	 キャンセル


005=スキャンが5秒間有効です



スタンドモードでのフラッシュ

リーダーがスタンドモードのときにLEDの点滅を有効または無効にします。

	 <p>スタンドモードでのフラッシュ=無効</p>
 <p>スタンドモードでのフラッシュ=有効</p>	

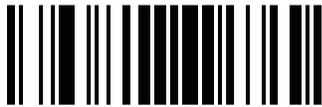
フラッシュ オン時間

この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオンになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100～9,900ミリ秒（0.1～9.9秒）（100ミリ秒単位）です。プログラミング手順について詳しくは、254ページの「フラッシュ オン時間」を参照してください。

 <p>フラッシュ オン時間設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	 <p>キャンセル</p>

初期設定

0A=点滅が1秒間オンになります



フラッシュ オフ時間

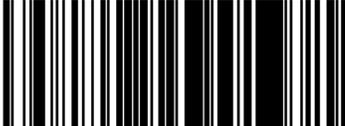
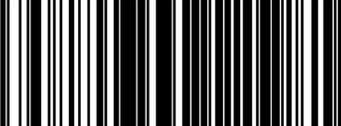
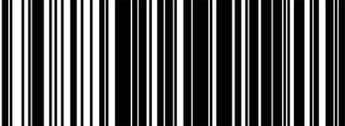
この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオフになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100～9,900ミリ秒（0.1～9.9秒）（100ミリ秒単位）です。プログラミング手順について詳しくは、255ページの「フラッシュ オフ時間」を参照してください。

 フラッシュ オフ時間設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	 キャンセル


初期設定
06=点滅が600ミリ秒間オフになります

緑色スポットの持続時間

読み取りの成功後に読み取り成功を示すポインター光線が点灯する時間を指定します。

	 緑色スポットの持続時間=無効（緑色スポットがオフ）
 緑色スポットの持続時間=短（300ミリ秒）	 初期設定
	 緑色スポットの持続時間=中（500ミリ秒）
 緑色スポットの持続時間=長（800ミリ秒）	

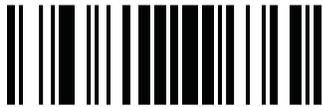
読み取りコード

このリーダーは、以下の読み取りコード（バーコードの種類）に対応しています。この章では、各読み取りコードのオプションについて説明します。

• UPC-A (67ページ)	• Datalogic 2 of 5 (144ページ)
• UPC-E (70ページ)	• Codabar (152ページ)
• EAN 13 (73ページ)	• ABC Codabar (165ページ)
• EAN 13 (JAN 13) (73ページ)	• Code 11 (167ページ)
• EAN 8 (JAN 8) (76ページ)	• Standard 2 of 5 (177ページ)
• アドオン (93ページ)	• Industrial 2 of 5 (183ページ)
• GS1 DataBar™ Omnidirectional (100ページ)	• IATA (189ページ)
• GS1 DataBar™ Expanded (102ページ)	• ISBT 128 (190ページ)
• GS1 DataBar™ Limited (107ページ)	• MSI (193ページ)
• Code 39 (109ページ)	• Code 93 (199ページ)
• Code 32 (イタリアの医薬品) (122ページ)	• Codablock F (207ページ)
• Code 39 CIP (フランスの医薬品) (124ページ)	• Code 4 (211ページ)
• Code 128 (124ページ)	• Code 5 (212ページ)
• GS1-128 (134ページ)	• Follett 2 of 5 (216ページ)
• Interleaved 2 of 5 (12 of 5) (135ページ)	• BC412 (216ページ)
• Interleaved 2 of 5 CIP HR (143ページ)	• Plessey (222ページ)

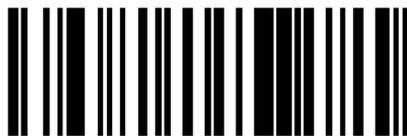
読み取りコード用の標準の工場出荷時設定

各機能またはオプションの初期設定は、緑色の矢印で示されています。また、最も一般的に使用されている標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。このセクションには、お使いのシステムに必要、または導入されているカスタム設定を記録する欄も用意されています。



すべての読み取りコードの無効化

このラベルをスキャンすると、すべての読み取りコードが無効になります。



すべての読み取りコードの無効化

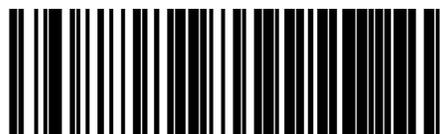
クーポンの制御

この機能を使用すると、クーポンラベルの処理方法を制御できます。以下のオプションがあります。

- すべて許可：すべてのクーポンバーコードのデコードを許可します
- UPC/EANのみ有効：UPC/EANクーポンのデコードのみを有効にします
- GS1 DataBarのみ有効：GS1 DataBarクーポンのデコードのみを有効にします。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

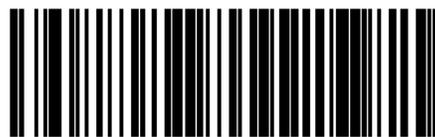
1. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 以下の有効または無効のどちらかのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがリーダーで確実に読み取られるように、このページおよび見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要があります。
3. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、一連のプログラミング手順を完了します。



クーポンの制御=すべて許可



クーポンの制御=UPC/EANのみ有効



クーポンの制御=GS1 DataBarのみ有効

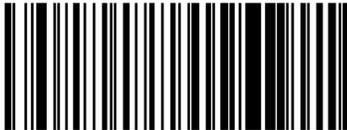


UPC-A

UPC-A読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

UPC-Aの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでUPC-Aのバーコードが読み取られません。

	 UPC-A=無効
 UPC-A=有効	

UPC-Aのチェックキャラクタの送信

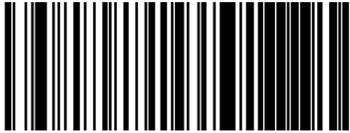
このオプションを有効にすると、UPC-Aのバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 UPC-Aのチェックキャラクタの送信=送信しない
 UPC-Aのチェックキャラクタの送信=送信する	



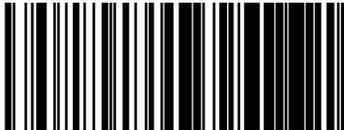
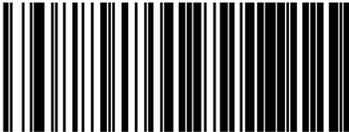
UPC-AをEAN-13に拡張

UPC-AデータをEAN-13データフォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、EAN-13に必要な読み取りコードIDに合わせて、読み取りコードIDが変更されます。

 <p>初期設定</p>	 <p>UPC-AからEAN-13=拡張しない</p>
 <p>UPC-AからEAN-13=拡張する</p>	

UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信

この機能は、UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信を有効または無効にします。

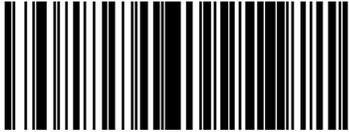
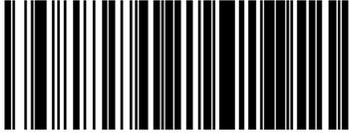
	 <p>UPC-Aのナンバーシステムキャラクタ=送信しない</p>
 <p>UPC-Aのナンバーシステムキャラクタ=送信する</p>	 <p>初期設定</p>

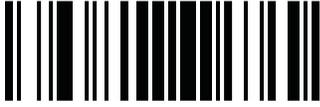


インスタアの最小読み取り回数

この機能は、インスタラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続データコード回数を指定します。

インスタラベルは、2または4のナンバーシステムキャラクタが付いたUPC-Aラベルの他に、2のフラグ1文字が付いたEAN 8およびEAN 13ラベル、または3文字の「980」で始まるEAN 13ラベルとしても定義されています。

	 インスタアの最小読み取り回数=1
 インスタアの最小読み取り回数=2	
	 インスタアの最小読み取り回数=3
 インスタアの最小読み取り回数=4	

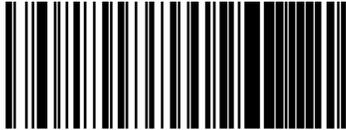


UPC-E

UPC-E読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

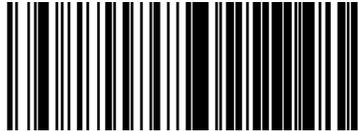
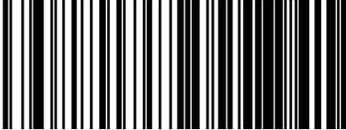
UPC-Eの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでUPC-Eのバーコードが読み取られません。

	 UPC-E=無効
 UPC-E=有効	

UPC-Eのチェックキャラクタの送信

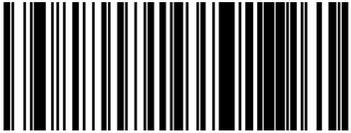
このオプションを有効にすると、UPC-Eのバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 UPC-Eのチェックキャラクタの送信=送信しない
 UPC-Eのチェックキャラクタの送信=送信する	



UPC-EをEAN-13に拡張

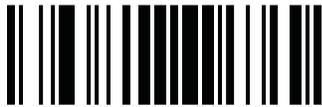
UPC-EデータをEAN-13データフォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、EAN-13に必要な読み取りコードIDに合わせて、読み取りコードIDが変更されます。

	 UPC-EからEAN-13=拡張しない
 UPC-EからEAN-13=拡張する	

UPC-EをUPC-Aに拡張

UPC-EデータをUPC-Aデータフォーマットに拡張します。

	 UPC-EからUPC-A=拡張しない
 UPC-EからUPC-A=拡張する	



UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信

この機能は、UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信を有効または無効にします。

	 UPC-Eのナンバーシステムキャラクタ=送信しない
 UPC-Eのナンバーシステムキャラクタ=送信する	

UPC-Eの最小読み取り回数

この機能は、UPC-Eラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 UPC-Eの最小読み取り回数=1
 UPC-Eの最小読み取り回数=2	
	 UPC-Eの最小読み取り回数=3
 UPC-Eの最小読み取り回数=4	

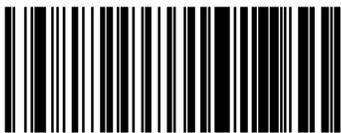


EAN 13

EAN 13 (JAN 13) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

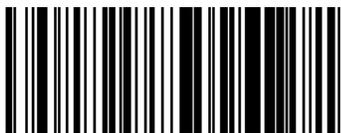
EAN 13の有効化/無効化

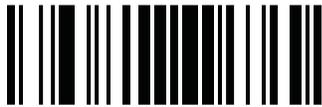
このオプションを無効にすると、リーダーでEAN 13またはJAN 13のバーコードが読み取られません。

	 EAN 13=無効
 EAN 13=有効	

EAN 13のチェックキャラクタの送信

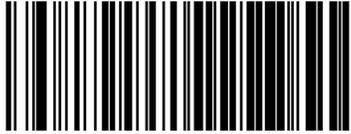
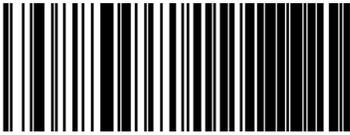
このオプションを有効にすると、EAN 13のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 EAN 13のチェックキャラクタの送信=送信しない
 EAN 13のチェックキャラクタの送信=送信する	



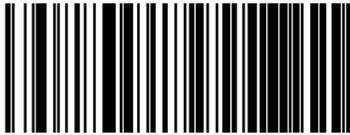
EAN-13のフラグ1文字

EAN 13またはJAN 13のフラグ1文字の送信を有効または無効にします。フラグ1文字は、ラベルの最初の文字です。

	 EAN 13のフラグ1文字=送信しない
 EAN 13のフラグ1文字=送信する	

EAN 13からISBNへの変換

このオプションは、978で始まるEAN 13またはJAN 13 BooklandラベルからISBNラベルへの変換を有効または無効にします。

	 EAN 13からISBNへの変換=無効
 EAN 13からISBNへの変換=ISBNへの変換	



ISSNの有効化/無効化

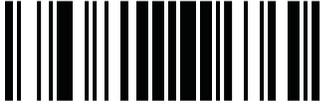
977で始まるEAN 13またはJAN 13 BooklandラベルからISSNラベルへの変換を有効または無効にします。

	 ISSN=無効
 ISSN=有効	

EAN 13の最小読み取り回数

この機能は、EAN 13ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 EAN 13の最小読み取り回数=1
 EAN 13の最小読み取り回数=2	
 EAN 13の最小読み取り回数=3	
 EAN 13の最小読み取り回数=4	

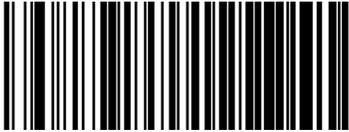
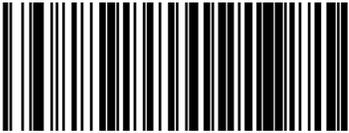


EAN 8

EAN 8 (JAN 8) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

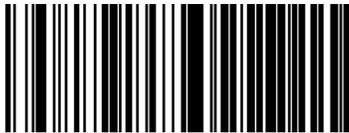
EAN 8の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでEAN 8またはJAN 8のバーコードが読み取られません。

	 EAN 8=無効
 EAN 8=有効	

EAN 8のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、EAN 8のバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 EAN 8のチェックキャラクタの送信=送信しない
 EAN 8のチェックキャラクタの送信=送信する	



EAN 8をEAN 13に拡張

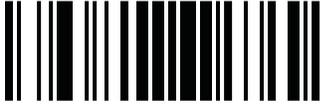
このオプションを有効にすると、EAN 8/JAN 8ラベルがEAN 13/JAN 13に拡張されます。

	 <p>EAN 8をEAN 13に拡張=無効</p>
 <p>EAN 8をEAN 13に拡張=有効</p>	

EAN 8の両側のガードの置換

EAN 8/JAN 8の余白によってガードが文字のように見える場合にリーダーでEAN 8/JAN 8のガードパターンを検出する機能を有効または無効にします。

	 <p>EAN 8の両側のガードの置換=無効</p>
 <p>EAN 8の両側のガードの置換=有効</p>	



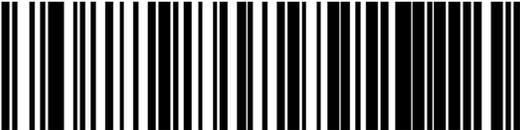
EAN 8のガードの挿入

ガード以外は完全なEAN 8のセグメントにガードを挿入する機能を有効または無効にします。

 <p>初期設定</p>	 <p>EAN 8のガードの挿入=無効</p>
 <p>EAN 8のガードの挿入=有効</p>	

EAN 8のガードの置換

EAN 8またはJAN 8ラベルがスキャンされたときにリーダーで偶数パリティ6をガード パターンに置換する機能を有効または無効にします。

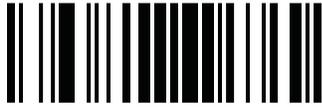
	 <p>EAN 8のガードの置換=無効</p>
 <p>EAN 8のガードの置換=有効</p>	 <p>初期設定</p>



EAN 8の最小セグメント長ブロック

リーダーでEAN 8またはJAN 8のラベル セグメントのデコードを承認するためにそのセグメントに必要な最小文字数を指定します。

	<p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=5</p>
<p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=6</p>	
	<p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=7</p>
<p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=8</p>	<p>初期設定</p>
	<p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=9</p>
<p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=10</p>	



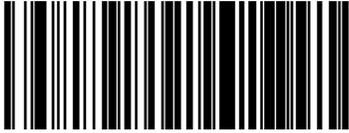
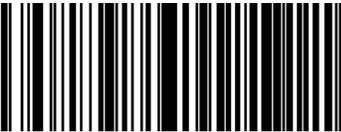
EAN 8の最小セグメント長ブロック (続き)

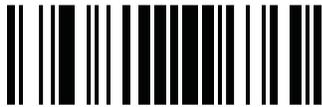
	 <p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=11</p>
 <p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=12</p>	
	 <p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=13</p>
 <p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=14</p>	
	 <p>EAN 8の最小セグメント長ブロック=15</p>



EAN 8の最小読み取り回数

この機能は、EAN 8（JAN 8）ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 <p>EAN 8の最小読み取り回数=1</p>
 <p>EAN 8の最小読み取り回数=2</p>	
	 <p>EAN 8の最小読み取り回数=3</p>
 <p>EAN 8の最小読み取り回数=4</p>	



EAN 8の正確なハーフ ラベルのスティッチ

文字を重複させることなくEAN 8の正確なハーフ ラベルをつなぎ合わせる（スティッチする）機能を有効または無効にします。



注

完全なラベルにするためにスティッチされるハーフ ラベルの構造は、GddddCおよびCddddGにする必要があります。

	<p>EAN 8の正確なハーフ ラベルのスティッチ=無効</p>
<p>EAN 8の正確なハーフ ラベルのスティッチ=有効</p>	

EAN 8の異なるハーフ ラベルのスティッチ

含まれる文字が異なっている可能性のあるEAN 8のハーフ ラベルをスティッチする機能を有効または無効にします。



注

ラベルの構造は、GddddCd...および.dCddddGにする必要があります。2つのセグメント間でdCdの文字が一致している必要があります。

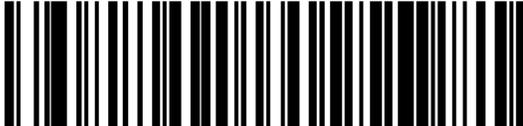
	<p>EAN 8の異なるハーフ ラベルのスティッチ=無効</p>
<p>EAN 8の異なるハーフ ラベルのスティッチ=有効</p>	



EANの2ラベル

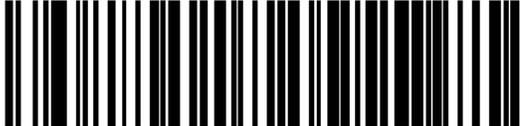
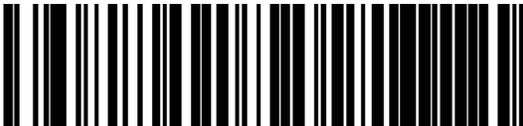
EANの2ラベルの有効化/無効化

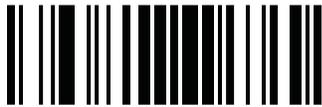
このオプションを無効にすると、リーダーでEANの2ラベルのバーコードが読み取られません。

	 <p>EANの2ラベル=無効</p>
 <p>EANの2ラベル=有効</p>	

EANの2ラベルが結合された送信

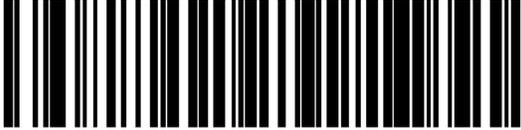
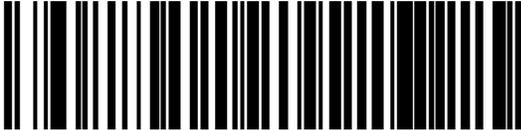
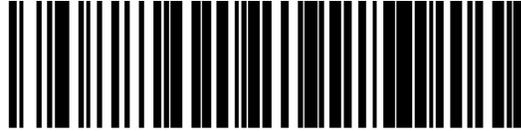
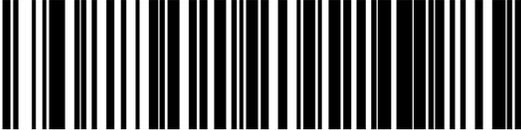
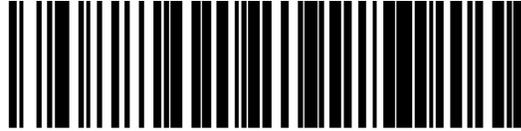
この機能は、EANの2ラベルのペアを1つのラベルとして送信する処理を有効または無効にします。EANの2ラベルのペアのラベルの種類はEAN 13です。

	 <p>EANの2ラベル=無効</p>
 <p>EANの2ラベル=有効</p>	



EANの2ラベルの最小読み取り回数

この機能は、EANの2ラベルのバーコードが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 <p>EAN 8の最小読み取り回数=1</p>
 <p>EAN 8の最小読み取り回数=2</p>	
 <p>EAN 8の最小読み取り回数=3</p>	 <p>EAN 8の最小読み取り回数=4</p>
 <p>EAN 8の最小読み取り回数=4</p>	



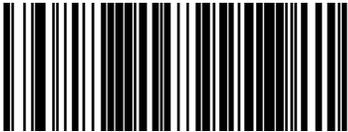
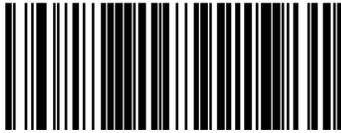
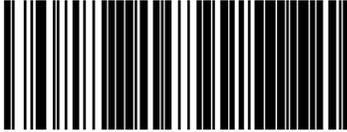
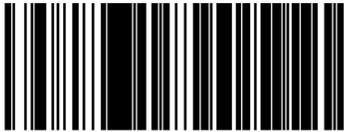
UPC/EANのグローバル設定

このセクションでは、UPC-A、UPC-E、EAN 13、およびEAN 8の読み取りコードの設定について説明します。各機能の説明で特に指定がなければ、このセクションの設定は、それらのすべての読み取りコードに影響します。

UPC/EANのデコードレベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

 UPC/EANのデコードレベル=1	
 初期設定	 UPC/EANのデコードレベル=2
 UPC/EANのデコードレベル=3	
	 UPC/EANのデコードレベル=4
 UPC/EANのデコードレベル=5	



UPC/EANの相関関係

相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやポイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ て読み取られる可能性も高くなります。

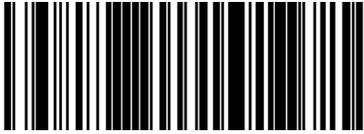
	 UPC/EANの相関関係=無効
 UPC/EANの相関関係=有効	

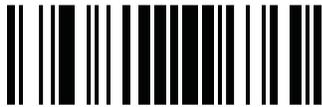


UPC/EANの価格とウェイトのチェック

この機能は、価格とウェイトのチェックディジットの計算および検証を有効または無効にします。
以下のオプションがあります。

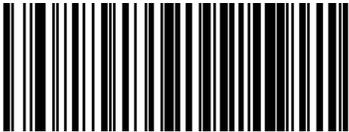
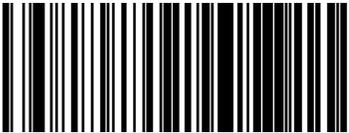
- ・ 無効
- ・ 4桁の価格とウェイトのチェックディジットの計算を有効にする
- ・ 5桁の価格とウェイトのチェックディジットの計算を有効にする
- ・ 欧州向けの4桁の価格とウェイトのチェックディジットの計算を有効にする
- ・ 欧州向けの5桁の価格とウェイトのチェックディジットの計算を有効にする

	 <p>価格とウェイトのチェック=無効</p>
 <p>価格とウェイトのチェック=4桁の価格とウェイトの チェック</p>	
 <p>価格とウェイトのチェック=5桁の価格とウェイトの チェック</p>	
 <p>価格とウェイトのチェック=欧州向けの4桁の価格と ウェイトのチェック</p>	
 <p>価格とウェイトのチェック=欧州向けの5桁の価格と ウェイトのチェック</p>	



UPC-Aの最小読み取り回数

この機能は、UPC-Aラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 UPC-Aの最小読み取り回数=1
 UPC-Aの最小読み取り回数=2	
	 UPC-Aの最小読み取り回数=3
 UPC-Aの最小読み取り回数=4	



UPC/EANのガードの挿入

ガード以外は完全なUPC-AまたはEAN-13のセグメントで、欠落している先頭のガードまたは末尾のガードのどちらかを挿入する機能を有効または無効にします。



注

セグメントの構造は、GddddddCddddddまたはddddddCddddddGにする必要があります。

	<p>UPC/EANのガードの挿入=無効</p>
<p>UPC/EANのガードの挿入=有効</p>	

UPC/EANの正確なハーフ ラベルのスティッチ

文字を重複させることなくUPC-AまたはEAN 13の正確なハーフ ラベルをスティッチする機能を有効または無効にします。



注

完全なラベルにするためにスティッチされるハーフ ラベルの構造は、GddddddCおよびCddddddGにする必要があります。

	<p>UPC/EANの正確なハーフ ラベルのスティッチ=無効</p>
<p>UPC/EANの正確なハーフ ラベルのスティッチ=有効</p>	



UPC/EANの異なるハーフ ラベルのスティッチ

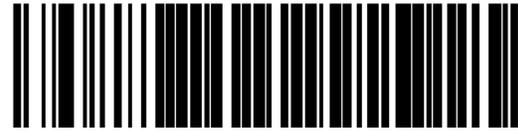
含まれる文字が異なっている可能性のあるUPC-AまたはEAN 13の2つのハーフ ラベルをスティッチする機能を有効または無効にします。



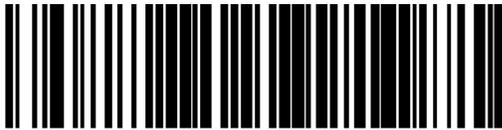
注

ハーフ ラベルの構造は、GddddddCおよびCddddddGにする必要があります。2つのセグメント間でdCdの文字が一致している必要があります。

初期設定



UPC/EANの異なるハーフ ラベルのスティッチ=無効

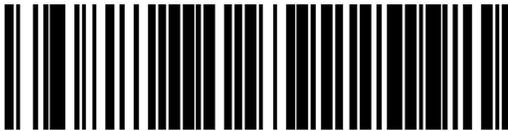
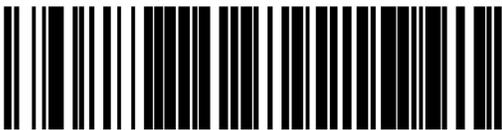
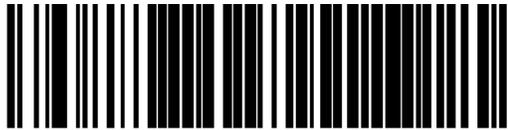
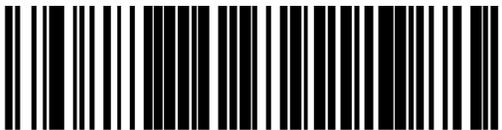


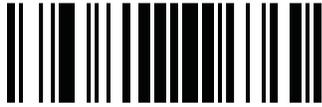
UPC/EANの異なるハーフ ラベルのスティッチ=有効



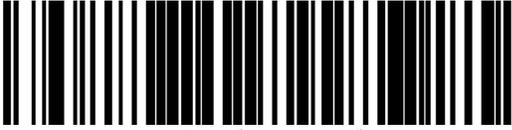
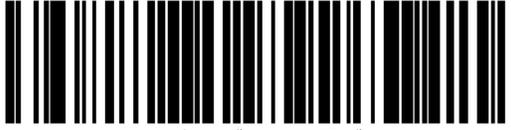
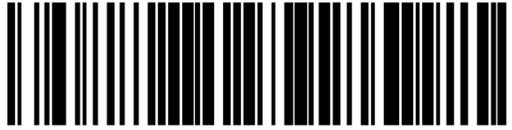
UPC/EANの最小セグメント長

リーダーでUPC/EAN/JANのラベルセグメントのデコードを承認するためにそのセグメントに必要な最小文字数を指定します。

	 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=5</p>
 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=6</p>	
	 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=7</p>
 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=8</p>	
	 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=9</p>
 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=10</p>	



UPC/EANのグローバル設定（続き）

	 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=11</p>
 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=12</p>	
	 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=13</p>
 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=14</p>	
	 <p>UPC/EANの最小セグメント長ブロック=15</p>



アドオン

オプションのアドオンには、以下の機能が適用されます。



注

オプションおよび条件付きのアドオンの高度なプログラミングについては、HPのサポート窓口にお問い合わせください。

オプションのアドオン

以下のアドオン（追加バーコード）を必要に応じてリーダーで読み取れるようにできます。

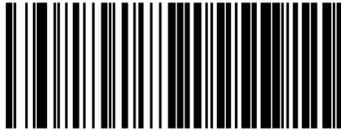
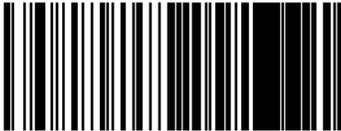
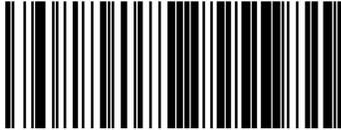
- P2
- P5
- GS1-128

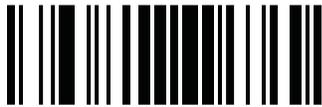


注

UPC/EANのベースラベルおよびアドオンの両方がデコードされた場合、リーダーによってベースラベルおよびアドオンが送信されます。UPC/EANのベースラベルがアドオンなしでデコードされた場合、ベースラベルがアドオンなしで送信されます。

条件付きのアドオン設定（有効な場合）は、オプションのアドオン設定の前にリーダーによって判定されます。

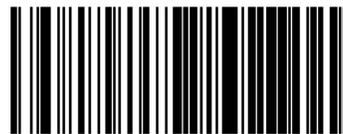
	 <p>オプションのアドオン=P2が無効</p>
 <p>オプションのアドオン=P2が有効</p>	
	 <p>オプションのアドオン=P5が無効</p>



オプションのアドオン（続き）



オプションのアドオン=P5が有効



オプションのアドオン=GS1-128が無効

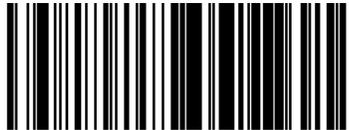
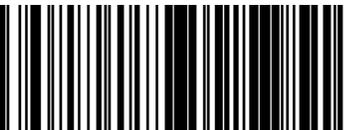


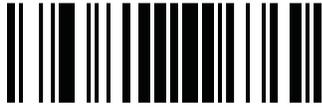
オプションのアドオン=GS1-128が有効



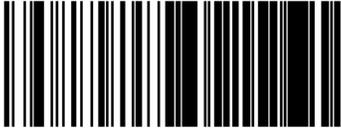
オプションのアドオンのタイマー

このオプションは、アドオン フラグメントが確認されていて、オプションのアドオンが有効になっているときに、リーダーでそのアドオンが検索される時間を設定します。

 オプションのアドオンのタイマー=10ミリ秒	
	 オプションのアドオンのタイマー=20ミリ秒
 オプションのアドオンのタイマー=30ミリ秒	
	 オプションのアドオンのタイマー=40ミリ秒
 オプションのアドオンのタイマー=50ミリ秒	



オプションのアドオンのタイマー（続き）

	 <p>オプションのアドオンのタイマー=60ミリ秒</p>
 <p>オプションのアドオンのタイマー=70ミリ秒</p>	
	 <p>オプションのアドオンのタイマー=100ミリ秒</p>
 <p>オプションのアドオンのタイマー=120ミリ秒</p>	
	 <p>オプションのアドオンのタイマー=140ミリ秒</p>
 <p>オプションのアドオンのタイマー=160ミリ秒</p>	



P2アドオンの最小読み取り回数

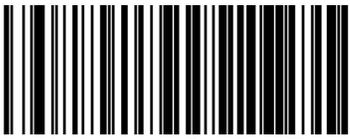
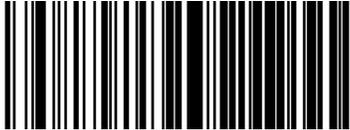
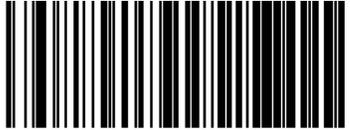
この機能は、P2アドオンが有効とマークされ、ベース ラベルと結合されるまでに必要な最小読み取り回数を指定します。

	 P2アドオンの最小読み取り回数=1
 P2アドオンの最小読み取り回数=2	
	 P2アドオンの最小読み取り回数=3
 P2アドオンの最小読み取り回数=4	



P5アドオンの最小読み取り回数

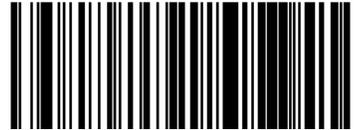
この機能は、P5アドオンが有効とマークされ、ベースラベルと結合されるまでに必要な最小読み取り回数を指定します。

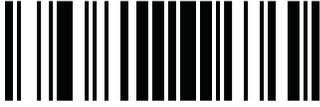
	 P5アドオンの最小読み取り回数=1
 P5アドオンの最小読み取り回数=2	
	 P5アドオンの最小読み取り回数=3
 P5アドオンの最小読み取り回数=4	



GS1-128アドオンの最小読み取り回数

この機能は、GS1-128アドオンが有効とマークされ、ベースラベルと結合されるまでに必要な最小読み取り回数を指定します。

	 <p>GS1-128アドオンの最小読み取り回数=1</p>
 <p>GS1-128アドオンの最小読み取り回数=2</p>	
	 <p>GS1-128アドオンの最小読み取り回数=3</p>
 <p>GS1-128アドオンの最小読み取り回数=4</p>	

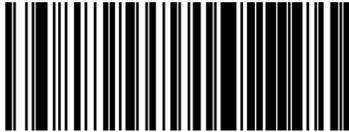


GS1 DataBar™ Omnidirectional

GS1 DataBar Omnidirectional（以前のRSS-14）読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

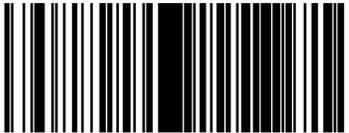
GS1 DataBar Omnidirectionalの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでGS1 DataBar Omnidirectionalのバーコードが読み取られません。

	 GS1 DataBar Omnidirectional=無効
 GS1 DataBar Omnidirectional=有効	

GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション

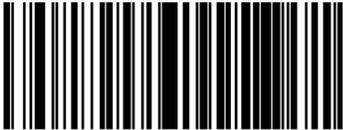
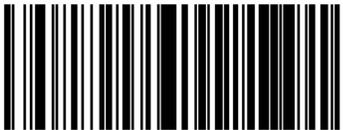
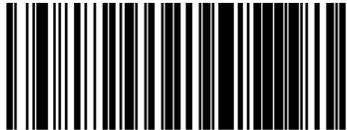
このオプションを有効にすると、GS1 DataBar OmnidirectionalのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

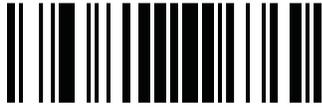
	 GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション=無効
 GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション=有効	



GS1 DataBar Omnidirectionalの最小読み取り回数

この機能は、GS1 DataBar Omnidirectionalラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 GS1 DataBar Omnidirectionalの最小読み取り回数=1
 GS1 DataBar Omnidirectionalの最小読み取り回数=2	
	 GS1 DataBar Omnidirectionalの最小読み取り回数=3
 GS1 DataBar Omnidirectionalの最小読み取り回数=4	

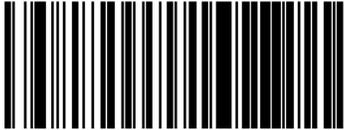
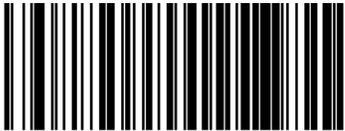


GS1 DataBar™ Expanded

GS1 DataBar Expanded（以前のRSS Expanded）読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

GS1 DataBar Expandedの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでGS1 DataBar Expandedのバーコードが読み取られません。

GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar ExpandedのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

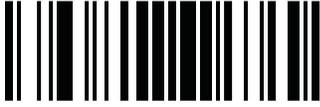
	
	



GS1 DataBar Expandedの最小読み取り回数

この機能は、GS1 DataBar Expandedラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 <p>GS1 DataBar Expandedの最小読み取り回数=1</p>
 <p>GS1 DataBar Expandedの最小読み取り回数=2</p>	
	 <p>GS1 DataBar Expandedの最小読み取り回数=3</p>
 <p>GS1 DataBar Expandedの最小読み取り回数=4</p>	

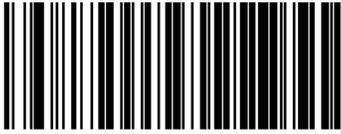


GS1 DataBar Expandedの長さ制御

この機能は、GS1 DataBar Expanded読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 GS1 DataBar Expandedの長さ制御=可変長
 GS1 DataBar Expandedの長さ制御=固定長	



GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定

この機能は、104ページの「GS1 DataBar Expandedの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（104ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（104ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

1～74文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定の選択

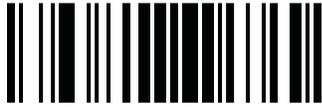
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定

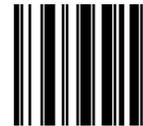
この機能は、104ページの「GS1 DataBar Expandedの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（104ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（104ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

1～74文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

74=長さ2は74文字です



GS1 DataBar™ Limited

GS1 DataBar Limited (以前のRSS Limited) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

GS1 DataBar Limitedの有効化/無効化

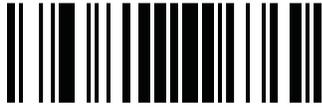
このオプションを無効にすると、リーダーでGS1 DataBar Limitedのバーコードが読み取られません。

	 <p>GS1 DataBar Limited=無効</p>
 <p>GS1 DataBar Limited=有効</p>	

GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション

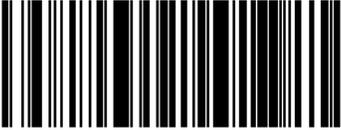
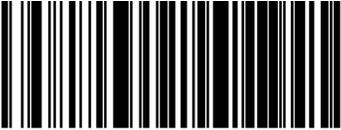
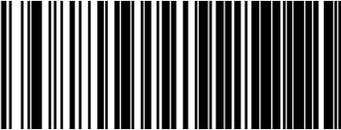
このオプションを有効にすると、GS1 DataBar LimitedのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

	 <p>GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション=無効</p>
 <p>GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション=有効</p>	



GS1 DataBar Limitedの最小読み取り回数

この機能は、GS1 DataBar Limitedラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 GS1 DataBar Limitedの最小読み取り回数=1
 GS1 DataBar Limitedの最小読み取り回数=2	
	 GS1 DataBar Limitedの最小読み取り回数=3
 GS1 DataBar Limitedの最小読み取り回数=4	



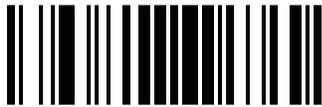
Code 39

Code 39読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 39の有効化/無効化

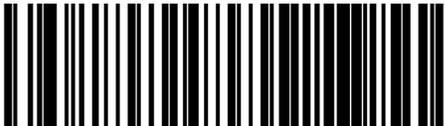
このオプションを無効にすると、リーダーでCode 39のバーコードが読み取られません。

	 <p>Code 39=無効</p>
 <p>Code 39=有効</p>	



Code 39のチェックキャラクタの計算

このオプションを有効にすると、オプションのCode 39チェックキャラクタの計算および検証が有効または無効になります。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。

	 Code 39のチェックキャラクタの計算=計算しない
 Code 39のチェックキャラクタの計算=標準チェックを計算	
	 Code 39のチェックキャラクタの計算=モジュラス7 チェックを計算
 Code 39のチェックキャラクタの計算=イタリアの 郵便チェックを有効にする	
	 Code 39のチェックキャラクタの計算=Daimler Chrysler社の チェックを有効にする



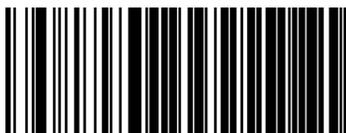
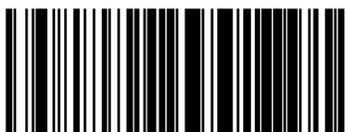
Code 39のチェックキャラクタの送信

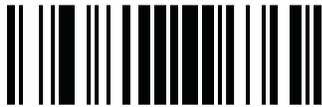
このオプションを有効にすると、Code 39のバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 <p>Code 39のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
 <p>Code 39のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	

Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信

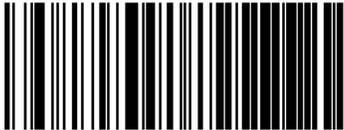
このオプションを有効にすると、Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信が有効または無効になります。

	 <p>Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない</p>
 <p>Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信=送信する</p>	



Code 39 Full ASCII

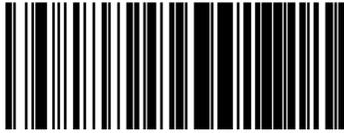
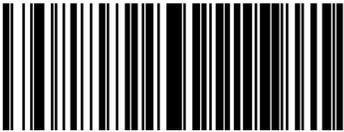
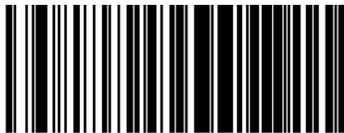
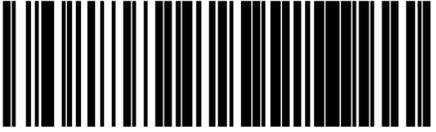
このオプションは、Code 39のデコードで、Code 39文字からCode 39 Full ASCII文字への変換を有効または無効にします。

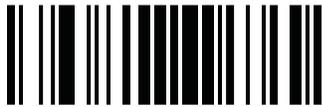
	 Code 39 Full ASCII=無効
 Code 39 Full ASCII=有効	



Code 39のクワイエットゾーン

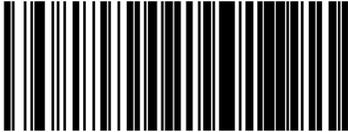
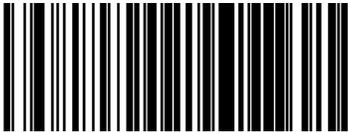
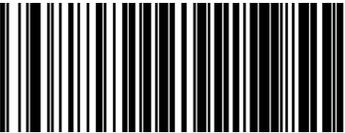
この機能は、Code 39ラベルのクワイエットゾーンの数进行指定します。クワイエットゾーンとは、バーコードの両端にある空白の領域のことであり、通常はラベル内の最も細いバーまたはスペースの幅の10倍になります。

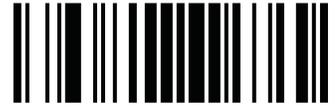
 <p>Code 39のクワイエットゾーン=片側にクワイエットゾーン</p>	
	 <p>Code 39のクワイエットゾーン=両側にクワイエットゾーン</p>
 <p>Code 39のクワイエットゾーン=自動</p>	
	 <p>Code 39のクワイエットゾーン=両側に仮想クワイエットゾーン</p>
 <p>Code 39のクワイエットゾーン=両側に小さなクワイエットゾーン</p>	



Code 39の最小読み取り回数

この機能は、Code 39ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続データ回数を指定します。

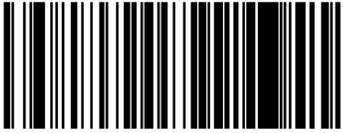
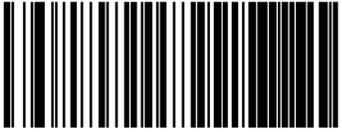
	 Code 39の最小読み取り回数=1
 Code 39の最小読み取り回数=2	
	 Code 39の最小読み取り回数=3
 Code 39の最小読み取り回数=4	



Code 39のデコードレベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

 Code 39のデコードレベル=1	
	 Code 39のデコードレベル=2
 Code 39のデコードレベル=3	
	 Code 39のデコードレベル=4
 Code 39のデコードレベル=5	

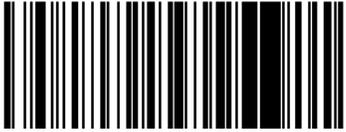


Code 39の長さ制御

この機能は、Code 39読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 Code 39の長さ制御=可変長
 Code 39の長さ制御=固定長	



Code 39の長さ1の設定

この機能は、116ページの「Code 39の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（116ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（116ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

0～50文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Code 39の長さ1の設定の選択

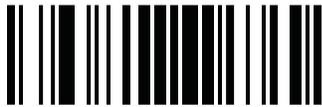
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

02=長さ1は2文字です



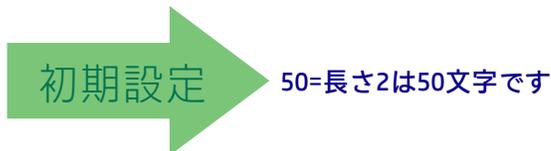
Code 39の長さ2の設定

この機能は、116ページの「Code 39の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（116ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（116ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます(固定長は1つのみ)。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

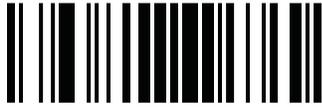




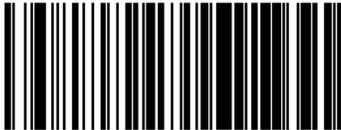
Code 39のディジット間の比率

この機能は、Code 39ラベルの文字間スペースとモジュールの比率を指定します。

	<p>Code 39のディジット間の比率=無効</p>
<p>Code 39のディジット間の比率=1</p>	
	<p>Code 39のディジット間の比率=2</p>
<p>Code 39のディジット間の比率=3</p>	
<p>初期設定</p>	<p>Code 39のディジット間の比率=4</p>
<p>Code 39のディジット間の比率=5</p>	



Code 39のディジット間の比率（続き）

	 <p>Code 39のディジット間の比率=6</p>
 <p>Code 39のディジット間の比率=7</p>	
	 <p>Code 39のディジット間の比率=8</p>
 <p>Code 39のディジット間の比率=9</p>	
	 <p>Code 39のディジット間の比率=10</p>



Code 39の文字の相関関係

相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやボイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ て読み取られる可能性も高くなります。

	<p>Code 39の文字の相関関係=無効</p>
<p>Code 39の文字の相関関係=有効</p>	

Code 39のスティッチ

このオプションは、Code 39ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCode 39バーコードの各断片がリーダーに送られると、それらのバーコードの断片がリーダーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

	<p>Code 39のスティッチ=無効</p>
<p>Code 39のスティッチ=有効</p>	

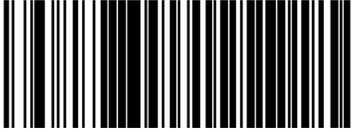
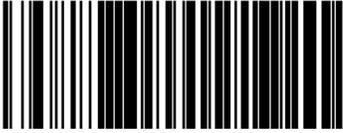


Code 32 (イタリアの医薬品)

Code 32読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 32の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでCode 32のバーコードが読み取られません。

Code 32の機能設定の例外



注

Code 32用に以下の機能を設定するには、Code 39のそれぞれの設定を使用します。

- 113ページの「Code 39のクワイエットゾーン」
- 114ページの「Code 39の最小読み取り回数」
- 115ページの「Code 39のデコードレベル」
- 119ページの「Code 39のディジット間の比率」
- 121ページの「Code 39の文字の相関関係」
- 121ページの「Code 39のスティッチ」



Code 32のチェックキャラクタの送信

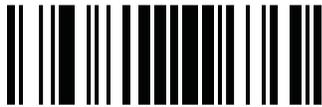
このオプションを有効にすると、Code 32のバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。

	<p>Code 32のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>Code 32のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	

Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションは、Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信を有効または無効にします。

	<p>Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信=送信する</p>	



Code39 CIP (フランスの医薬品)

Code 39 CIP読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 39 CIPの有効化/無効化

Code 39 CIPラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	 Code 39 CIP=無効
 Code 39 CIP=有効	

Code 128

Code 128読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 128の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでCode 128のバーコードが読み取られません。

	 Code 128=無効
 Code 128=有効	



Code 128をCode 39に拡張

この機能は、Code 128ラベルからCode 39ラベルへの拡張を有効または無効にします。このオプションを有効にすると、Code 128ラベルのラベルIDがCode 39に設定され、Code 39のすべてのフォーマット制御がCode 128ラベルに適用されます。

	 <p>Code 128からCode 39=拡張しない</p>
 <p>Code 128からCode 39=拡張する</p>	

Code 128のチェックキャラクタの送信

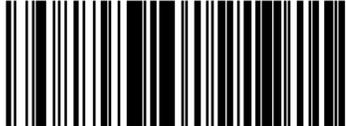
このオプションを有効にすると、Code 128のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 <p>Code 128のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
 <p>Code 128のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	



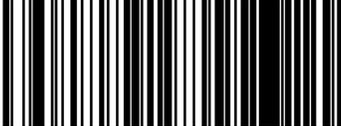
Code 128のファンクション文字の送信

Code128のファンクション文字1、2、3、および4の送信を有効または無効にします。

	 Code 128のファンクション文字の送信=送信しない
 Code 128のファンクション文字の送信=送信する	

Code 128のサブコード変更の送信

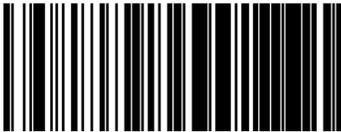
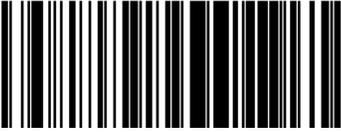
「サブコード交換」文字の送信（標準デコードでは送信されない）を有効または無効にします。

	 Code 128のサブコード変更の送信=無効
 Code 128のサブコード変更の送信=有効	



Code 128のクワイエットゾーン

この機能は、Code 128ラベルのクワイエットゾーンの数を指定します。クワイエットゾーンとは、バーコードの両端にある空白の領域のことであり、通常はラベル内の最も細いバーまたはスペースの幅の10倍になります。

	 <p>Code 128のクワイエットゾーン=クワイエットゾーンなし</p>
 <p>Code 128のクワイエットゾーン=片側にクワイエットゾーン</p>	
	 <p>Code 128のクワイエットゾーン=両側にクワイエットゾーン</p>
 <p>Code 128のクワイエットゾーン=自動</p>	
	 <p>Code 128のクワイエットゾーン=両側に仮想クワイエットゾーン</p>



Code 128の最小読み取り回数

この機能は、Code 128ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続データ回数を指定します。

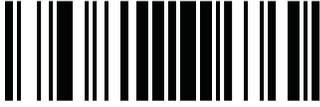


Code 128のデコードレベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

 <p>Code 128のデコードレベル=1</p>	
	 <p>Code 128のデコードレベル=2</p>
 <p>Code 128のデコードレベル=3</p>	
	 <p>Code 128のデコードレベル=4</p>
 <p>Code 128のデコードレベル=5</p>	

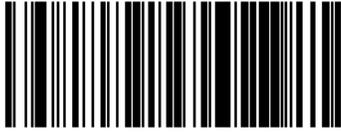
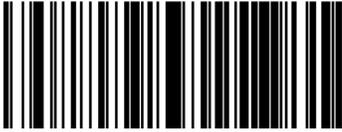


Code 128の長さ制御

この機能は、Code 128読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 Code 128の長さ制御=可変長
 Code 128の長さ制御=固定長	



Code 128の長さ1の設定

この機能は、130ページの「Code 128の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（130ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（130ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

1～80文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Code 128の長さ1の設定の選択

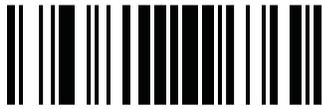
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



Code 128の長さ2の設定

この機能は、130ページの「Code 128の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（130ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（130ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

1～80文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Code 128の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



初期設定

80=長さ2は80文字です



Code 128の文字の相関関係

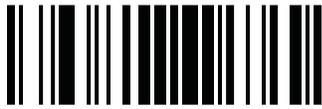
相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやボイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ読み取られる可能性も高くなります。

	<p>Code 128の文字の相関関係=無効</p>
<p>Code 128の文字の相関関係=有効</p>	

Code 128のスティッチ

このオプションは、Code 128ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCode 128バーコードの各断片がリーダーに送られると、それらのバーコードの断片がリーダーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

	<p>Code 128のスティッチ=無効</p>
<p>Code 128のスティッチ=有効</p>	



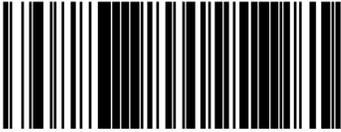
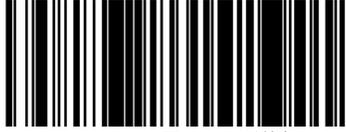
GS1-128

GS1-128読み取りコード（USS-128、GTIN-128、UCC-128とも呼ばれる）には、以下のオプションが適用されます。

GS1-128の有効化

このオプションは、リーダーでGS1-128ラベルをGS1-128データ フォーマットに変換する機能を有効または無効にします。以下のオプションがあります。

- GS1-128ラベルをCode 128データ フォーマットで送信する
- GS1-128ラベルをGS1-128データ フォーマットで送信する
- GS1-128ラベルを送信しない

	 <p>GS1-128=Code 128データ フォーマットで送信</p>
 <p>GS1-128=GS1-128データ フォーマットで送信</p>	
	 <p>GS1-128 =GS1-128ラベルを送信しない</p>



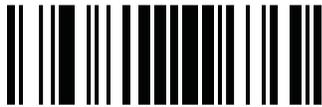
Interleaved 2 of 5 (I 2 of 5)

I 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

I 2 of 5の有効化/無効化

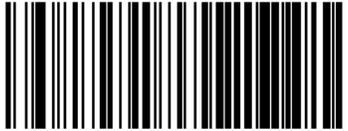
このオプションを無効にすると、リーダーでI 2 of 5のバーコードが読み取られません。



12 of 5のチェックキャラクタの計算

このオプションは、オプションの12 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。

	 <p>12 of 5のチェックキャラクタの計算=無効</p>
 <p>12 of 5のチェックキャラクタの計算=標準チェック (モジュラス10)</p>	
	 <p>12 of 5のチェックキャラクタの計算=ドイツの小包のチェック</p>
 <p>12 of 5のチェックキャラクタの計算=DHLのチェック</p>	
	 <p>12 of 5のチェックキャラクタの計算=Daimler Chrysler社の チェック</p>
 <p>12 of 5のチェックキャラクタの計算=Bosch社のチェック</p>	
	 <p>12 of 5のチェックキャラクタの計算=イタリアの郵便の チェック</p>



12 of 5のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、12 of 5のバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 12 of 5のチェックキャラクタの送信=送信しない
 12 of 5のチェックキャラクタの送信=送信する	

12 of 5の最小読み取り回数

この機能は、12 of 5ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 12 of 5の最小読み取り回数=1
 12 of 5の最小読み取り回数=2	
	 12 of 5の最小読み取り回数=3
 12 of 5の最小読み取り回数=4	



12 of 5のデコード レベル

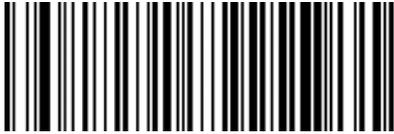
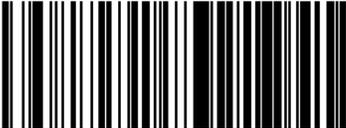
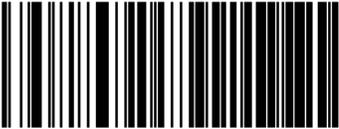
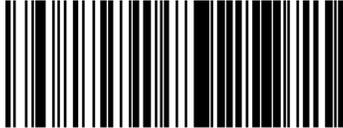
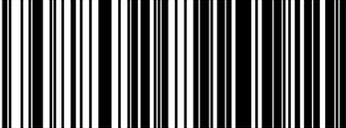


注

この設定項目は、Interleaved 2 of 5、Datalogic 2 of 5、およびStandard 2 of 5に適用されます。

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

	 <p>12 of 5のデコードレベル=無効</p>
 <p>12 of 5のデコードレベル=1</p>	
	 <p>12 of 5のデコードレベル=2</p>
 <p>12 of 5のデコードレベル=3</p>	
	 <p>12 of 5のデコードレベル=4</p>
 <p>12 of 5のデコードレベル=5</p>	

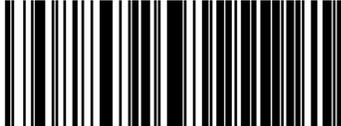


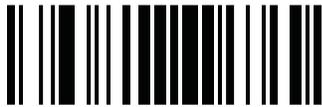
12 of 5の長さ制御

この機能は、12 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 12 of 5の長さ制御=可変長
 12 of 5の長さ制御=固定長	



I2 of 5の長さ1の設定

この機能は、139ページの「I2 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



I2 of 5の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

06=長さ1は6文字です



12 of 5の長さ2の設定

この機能は、139ページの「12 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



12 of 5の長さ2の設定の選択

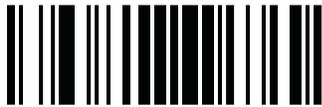
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

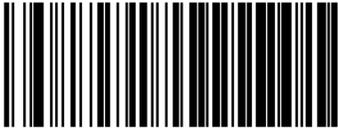
初期設定

50=長さ2は50文字です



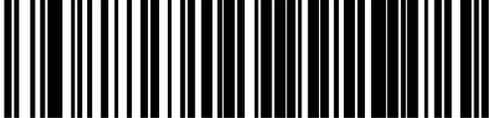
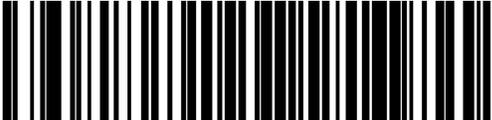
I2 of 5の文字の相関関係

相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやボイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ て読み取られる可能性も高くなります。

	 I2 of 5の文字の相関関係=無効
 I2 of 5の文字の相関関係=有効	

I2 of 5のゼロ (0) パターン

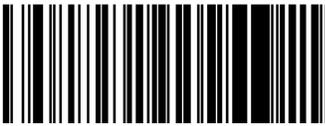
0の桁のデコードを有効または無効にします。この文字は暗号を表しません。このオプションにより、奇数桁の暗号をInterleaved 2 of 5でエンコードできます。Code 2 of 5 CIP/HRをデコードするには、このオプションを有効にする必要があります。

	 I2 of 5のゼロ (0) パターン=無効
 I2 of 5のゼロ (0) パターン=有効	



12 of 5のスティッチ

このオプションは、12 of 5ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときに12 of 5バーコードの各断片がリーダーに送られると、それらのバーコードの断片がリーダーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

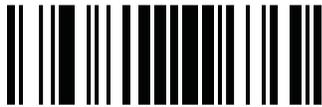
Interleaved 2 of 5 CIP HR

Interleaved 2 of 5 CIP HR読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Interleaved 2 of 5 CIP HRの有効化/無効化

Interleaved 2 of 5 CIP HRラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

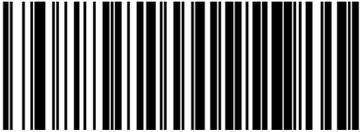
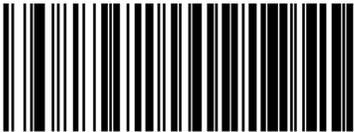


Datalogic 2 of 5

Datalogic 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Datalogic 2 of 5の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでDatalogic 2 of 5のバーコードが読み取られません。

	 Datalogic 2 of 5=無効
 Datalogic 2 of 5=有効	

Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの計算

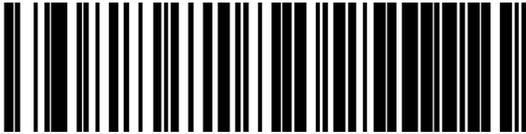
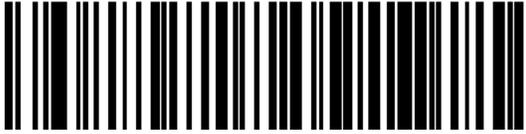
このオプションは、オプションのDatalogic 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	 Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの計算=無効
 Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの計算=有効	



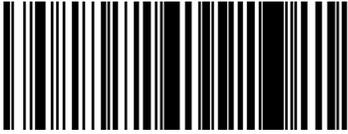
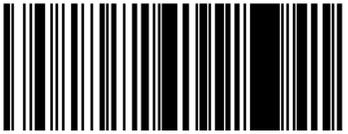
Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの送信

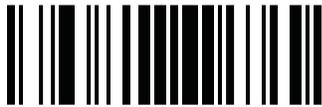
このオプションは、オプションのDatalogic 2 of 5文字の送信を有効または無効にします。

	 <p>Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
 <p>Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	

Datalogic 2 of 5の最小読み取り回数

この機能は、Datalogic 2 of 5ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要とされる最小の連続デコード回数を指定します。

	 <p>Datalogic 2 of 5の最小読み取り回数=1</p>
 <p>Datalogic 2 of 5の最小読み取り回数=2</p>	
	 <p>Datalogic 2 of 5の最小読み取り回数=3</p>
 <p>Datalogic 2 of 5の最小読み取り回数=4</p>	



Datalogic 2 of 5のデコード レベル



注

Datalogic 2 of 5のデコード レベル機能は、138ページの「12 of 5のデコード レベル」を使用して設定されます。

Datalogic 2 of 5の長さ制御

この機能は、Datalogic 2 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

初期設定



Datalogic 2 of 5の長さ制御=可変長



Datalogic 2 of 5の長さ制御=固定長



Datalogic 2 of 5の長さ1の設定

この機能は、146ページの「Datalogic 2 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。長さには、バーコードのデータ文字列が含まれます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Datalogic 2 of 5の長さ1の設定の選択

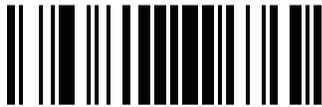
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

06=長さ1は6文字です



Datalogic 2 of 5の長さ2の設定

この機能は、146ページの「Datalogic 2 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長(139ページの「可変長」モードの場合)、または2つ目の固定長(139ページの「固定長」モードの場合)です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2~50文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます(固定長は1つのみ)。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Datalogic 2 of 5の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合 : [キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

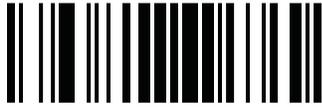
50=長さ2は50文字です



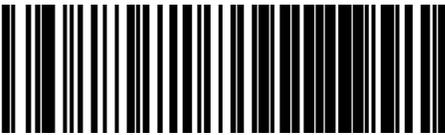
Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比

この機能は、Datalogic 2 of 5の文字間のスペースとモジュールの最大比を指定します。

 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=1</p>	
	 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=2</p>
 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=3</p>	
	 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=4</p>
 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=5</p>	



Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比（続き）

	 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=6</p>
 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=7</p>	
	 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=8</p>
 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=9</p>	
	 <p>Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比=10</p>



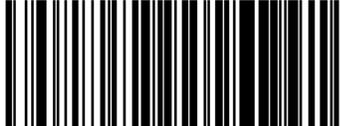
Datalogic 2 of 5の文字の相関関係

相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやボイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ て読み取られる可能性も高くなります。

	 Datalogic 2 of 5の文字の相関関係=無効
 Datalogic 2 of 5の文字の相関関係=有効	

Datalogic 2 of 5のスティッチ

このオプションは、Datalogic 2 of 5ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにDatalogic 2 of 5バーコードの各断片がリーダーに送られると、それらのバーコードの断片がリーダーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

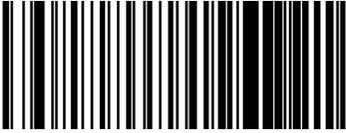
	 Datalogic 2 of 5のスティッチ=無効
 Datalogic 2 of 5のスティッチ=有効	



Codabar

Codabarの有効化/無効化

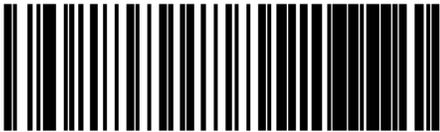
このオプションを無効にすると、リーダーでCodabarのバーコードが読み取られません。

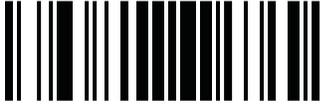
	 Codabar=無効
 Codabar=有効	



Codabarのチェックキャラクタの計算

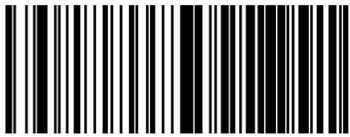
このオプションを有効にすると、オプションのCodabarチェックキャラクタの計算および検証が有効または無効になります。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字列として扱われます。

	 <p>Codabarのチェックキャラクタの計算=計算しない</p>
 <p>Codabarのチェックキャラクタの計算=AIM標準のチェック キャラクタを有効にする</p>	
	 <p>Codabarのチェックキャラクタの計算=モジュラス10の チェックキャラクタを有効にする</p>
 <p>Codabarのチェックキャラクタの計算=NW-7を有効にする</p>	



Codabarのチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Codabarのバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。

	 Codabarのチェックキャラクタの送信=送信しない
 Codabarのチェックキャラクタの送信=送信する	

Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信が有効または無効になります。

	 Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない
 Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信=送信する	



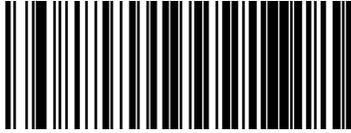
Codabarのスタート/ストップキャラクタセット

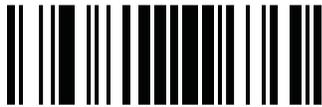
このオプションは、送信されるCodabarのスタート/ストップキャラクタのフォーマットを指定します。

	 <p>Codabarのチェックキャラクタセット=ABCD/TN*E</p>
 <p>Codabarのチェックキャラクタセット=ABCD/ABCD</p>	
	 <p>Codabarのチェックキャラクタセット=abcd/tn*e</p>
 <p>Codabarのチェックキャラクタセット=abcd/abcd</p>	

Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致

このオプションを有効にすると、スタートキャラクタとストップキャラクタの一致が必要になります。

	 <p>Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致=一致の必要なし</p>
 <p>Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致=一致が必要</p>	



Codabarのクワイエットゾーン

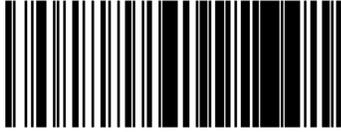
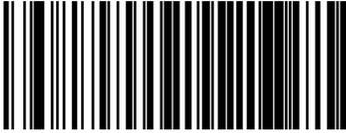
この機能は、Codabarラベルのクワイエットゾーンの数进行指定します。クワイエットゾーンとは、バーコードの両端にある空白の領域のことであり、通常はラベル内の最も細いバーまたはスペースの幅の10倍になります。

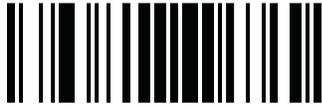
 <p>Codabarのクワイエットゾーン=片側にクワイエットゾーン</p>	
	 <p>Codabarのクワイエットゾーン=両側にクワイエットゾーン</p>
 <p>Codabarのクワイエットゾーン=自動</p>	
	 <p>Codabarのクワイエットゾーン= 両側に仮想クワイエットゾーン</p>
 <p>Codabarのクワイエットゾーン= 両側に小さなクワイエットゾーン</p>	



Codabarの最小読み取り回数

この機能は、Codabarラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要とされる最小の連続デコード回数を指定します。

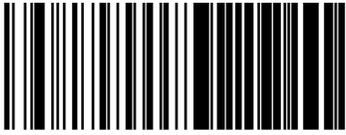
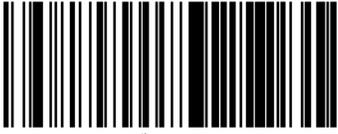
	 Codabarの最小読み取り回数=1
 Codabarの最小読み取り回数=2	
	 Codabarの最小読み取り回数=3
 Codabarの最小読み取り回数=4	



Codabarのデコード レベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

	 Codabarのデコードレベル=無効
 Codabarのデコードレベル=1	
	 Codabarのデコードレベル=2
 Codabarのデコードレベル=3	
	 Codabarのデコードレベル=4
 Codabarのデコードレベル=5	



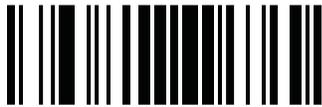
Codabarの長さ制御

この機能は、Codabar読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 Codabarの長さ制御=可変長
 Codabarの長さ制御=固定長	



Codabarの長さ1の設定

この機能は、159ページの「Codabarの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（159ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（159ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのスタートキャラクタ、ストップキャラクタ、チェックキャラクタ、およびデータ文字列が含まれます。少なくとも1つのデータ文字を含める必要があります。

3～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Codabarの長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

03=長さ1は3文字です



Codabarの長さ2の設定

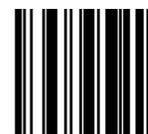
この機能は、159ページの「Codabarの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（159ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（159ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのスタートキャラクタ、ストップキャラクタ、チェックキャラクタ、およびデータ文字列が含まれます。少なくとも1つのデータ文字を含める必要があります。

3～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Codabarの長さ2の設定の選択

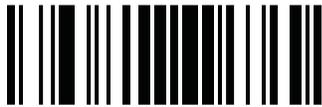
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

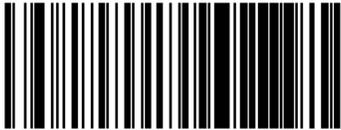
初期設定

50=長さ2は50文字です



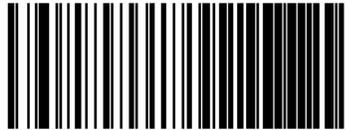
Codabarのディジット間の比率

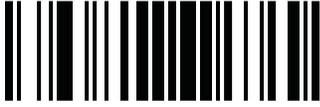
この機能は、Codabarラベルの文字間のスペースとモジュールの比率を指定します。

	 Codabarのディジット間の比率=無効
 Codabarのディジット間の比率=1	
	 Codabarのディジット間の比率=2
 Codabarのディジット間の比率=3	
	 Codabarのディジット間の比率=4
 Codabarのディジット間の比率=5	



Codabarのディジット間の比率（続き）

	 <p>Codabarのディジット間の比率=6</p>
 <p>Codabarのディジット間の比率=7</p>	
	 <p>Codabarのディジット間の比率=8</p>
 <p>Codabarのディジット間の比率=9</p>	
	 <p>Codabarのディジット間の比率=10</p>



Codabarの文字の相関関係

相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやポイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ て読み取られる可能性も高くなります。

	<p>Codabarの文字の相関関係=無効</p>
<p>Codabarの文字の相関関係=有効</p>	

Codabarのスティッチ

このオプションは、Codabarラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCodabarバーコードの各断片がリーダーに送られると、それらのバーコードの断片がリーダーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

	<p>Codabarのスティッチ=無効</p>
<p>Codabarのスティッチ=有効</p>	



ABC Codabar

ABC Codabar読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

ABC Codabarの有効化/無効化

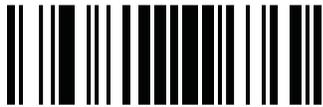
ABC Codabarのラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	 <p>ABC Codabar=無効</p>
 <p>ABC Codabar=有効</p>	

ABC Codabarの連結モード

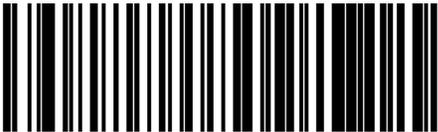
静的または動的の連結モードを指定します。

	 <p>ABC Codabarの連結モード=静的</p>
 <p>ABC Codabarの連結モード=動的</p>	



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト

ABC Codabarの動的連結モードで使用されるタイムアウト値を10ミリ秒単位で指定します。

	 <p>ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=50ミリ秒</p>
 <p>ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=100ミリ秒</p>	
	 <p>ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=200ミリ秒</p>
 <p>ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=500ミリ秒</p>	
	 <p>ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=750ミリ秒</p>
 <p>ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=1秒</p>	



ABC Codabarの強制連結

Dで始まるラベルまたはDで終わるラベルを強制的に連結します。

	 <p>ABC Codabarの強制連結=無効</p>
 <p>ABC Codabarの強制連結=有効</p>	

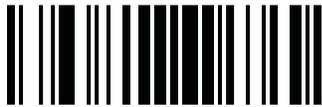
Code 11

Code 11読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 11の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、リーダーでCode 11のバーコードが読み取られません。

	 <p>Code 11=無効</p>
 <p>Code 11=有効</p>	



Code 11のチェックキャラクタの計算

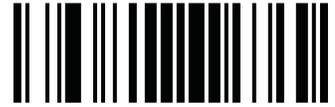
このオプションは、オプションのCode 11チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	 Code 11のチェックキャラクタの計算=無効
 Code 11のチェックキャラクタの計算=Cをチェック	
	 Code 11のチェックキャラクタの計算=Kをチェック
 Code 11のチェックキャラクタの計算=CおよびKをチェック	

Code 11のチェックキャラクタの送信

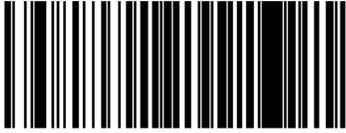
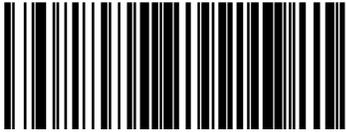
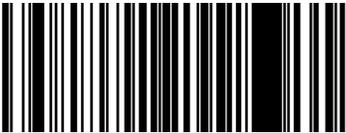
この機能は、オプションのCode 11チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

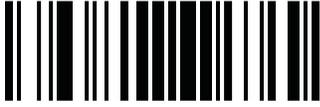
	 Code 11のチェックキャラクタの送信=送信しない
 Code 11のチェックキャラクタの送信=送信する	



Code 11の最小読み取り回数

この機能は、Code 11ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続データ回数を指定します。

	 Code 11の最小読み取り回数=1
 Code 11の最小読み取り回数=2	
	 Code 11の最小読み取り回数=3
 Code 11の最小読み取り回数=4	



Code 11の長さ制御

この機能は、Code 11読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 Code 11の長さ制御=可変長
 Code 11の長さ制御=固定長	



Code 11の長さ1の設定

この機能は、170ページの「Code 11の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（170ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（170ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Code 11の長さ1の設定の選択

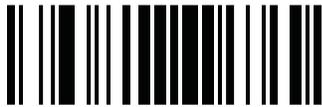
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

04=長さ1は4文字です



Code 11の長さ2の設定

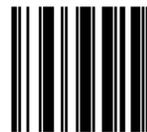
この機能は、170ページの「Code 11の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（170ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（170ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Code 11の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

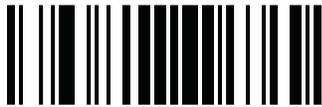
50=長さ2は50文字です



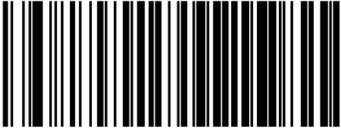
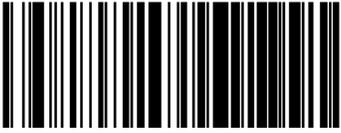
Code 11のディジット間の比率

この機能は、Code 11ラベルの文字間のスペースとモジュールの比率を指定します。

	<p>Code 11のディジット間の比率=無効</p>
<p>Code 11のディジット間の比率=1</p>	
	<p>Code 11のディジット間の比率=2</p>
<p>Code 11のディジット間の比率=3</p>	
	<p>Code 11のディジット間の比率=4</p>
<p>Code 11のディジット間の比率=5</p>	



Code 11のディジット間の比率（続き）

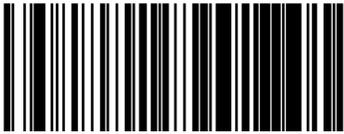
	 <p>Code 11のディジット間の比率=6</p>
 <p>Code 11のディジット間の比率=7</p>	
	 <p>Code 11のディジット間の比率=8</p>
 <p>Code 11のディジット間の比率=9</p>	
	 <p>Code 11のディジット間の比率=10</p>

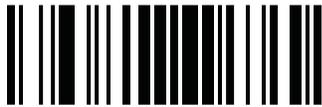


Code 11のデコードレベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

 <p>Code 11のデコードレベル=1</p>	
	 <p>Code 11のデコードレベル=2</p>
 <p>Code 11のデコードレベル=3</p>	
	 <p>Code 11のデコードレベル=4</p>
 <p>Code 11のデコードレベル=5</p>	



Code 11の文字の相関関係

相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやボイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ て読み取られる可能性も高くなります。

	Code 11の文字の相関関係=無効
Code 11の文字の相関関係=有効	

Code 11のスティッチ

このオプションは、Code 11ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCode 11バーコードの各断片がリーダーに送られると、それらのバーコードの断片がリーダーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

	Code 11のスティッチ=無効
Code 11のスティッチ=有効	



Standard 2 of 5

Standard 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Standard 2 of 5の有効化/無効化

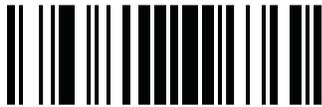
このオプションを無効にすると、リーダーでStandard 2 of 5のバーコードが読み取られません。

Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算

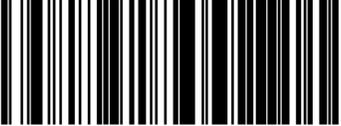
このオプションは、オプションのStandard 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



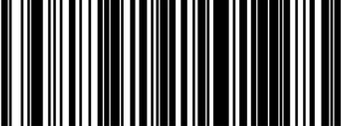
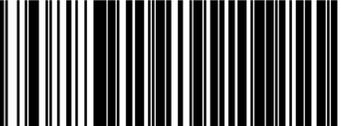
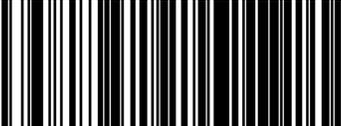
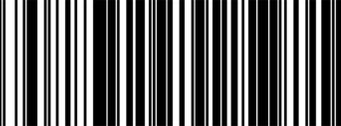
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信

この機能は、オプションのStandard 2 of 5チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	 Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信しない
 Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信する	

Standard 2 of 5の最小読み取り回数

この機能は、Standard 2 of 5ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要とされる最小の連続デコード回数を指定します。

	 Standard 2 of 5の最小読み取り回数=1
 Standard 2 of 5の最小読み取り回数=2	
	 Standard 2 of 5の最小読み取り回数=3
 Standard 2 of 5の最小読み取り回数=4	



Standard 2 of 5のデコードレベル



注

Standard 2 of 5のデコードレベル機能は、138ページの「12 of 5のデコードレベル」を使用して設定されます。

Standard 2 of 5の長さ制御

この機能は、Standard 2 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

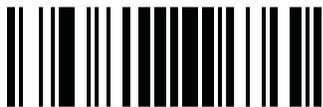
固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Standard 2 of 5の長さ制御=可変長



Standard 2 of 5の長さ制御=固定長



Standard 2 of 5の長さ1の設定

この機能は、179ページの「Standard 2 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長(179ページの「可変長」モードの場合)、または1つ目の固定長(179ページの「固定長」モードの場合)です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

1~50文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Standard 2 of 5の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合 : [キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

08=長さ1は8文字です



Standard 2 of 5の長さ2の設定

この機能は、179ページの「Standard 2 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（179ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（179ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

1～50文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Standard 2 of 5の長さ2の設定の選択

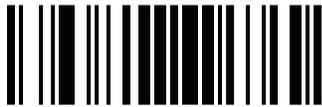
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

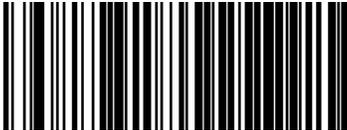
初期設定

50=長さ2は50文字です



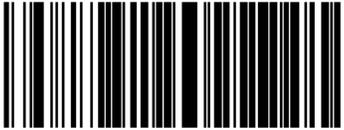
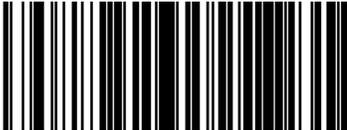
Standard 2 of 5の文字の相関関係

相関関係を有効にすると、デコード時に複数のスキャンから取り込まれたラベル データがバーコードリーダーによって結合されます。相関関係を有効にすると、スポットやボイドのあるラベルをリーダーで読み取ることができます。損傷箇所のあるラベルを読み取れることもあります。ただし、相関関係を有効にすることで、ラベルが間違っ て読み取られる可能性も高くなります。

	 Standard 2 of 5の文字の相関関係=無効
 Standard 2 of 5の文字の相関関係=有効	

Standard 2 of 5のスティッチ

このオプションは、Standard 2 of 5ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにStandard 2 of 5バーコードの各断片がリーダーに送られると、それらのバーコードの断片がリーダーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

	 Standard 2 of 5のスティッチ=無効
 Standard 2 of 5のスティッチ=有効	



Industrial 2 of 5

Industrial 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Industrial 2 of 5の有効化/無効化

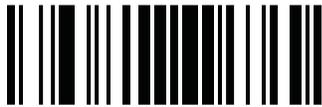
Industrial 2 of 5のラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>Industrial 2 of 5=無効</p>
<p>Industrial 2 of 5=有効</p>	

Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算

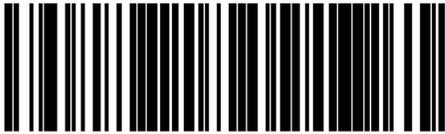
オプションのIndustrial 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算=無効</p>
<p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算=有効</p>	



Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信

Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

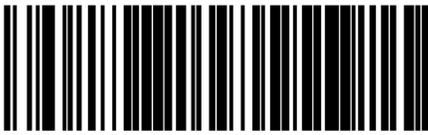
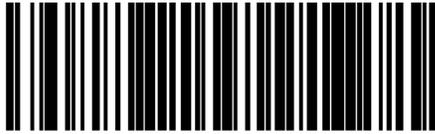
	 <p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信=無効</p>
 <p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信=有効</p>	

Industrial 2 of 5の長さ制御

この機能は、Industrial 2 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

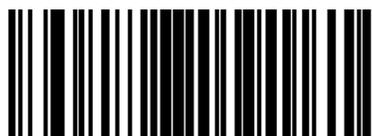
	 <p>Industrial 2 of 5の長さ制御=可変長</p>
 <p>Industrial 2 of 5=固定長</p>	



Industrial 2 of 5の長さ1の設定

この機能は、184ページの「Industrial 2 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

1～50文字（2文字単位）の長さを設定でき、チェックキャラクタおよびデータ文字列を含めることができます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Industrial 2 of 5の長さ1の設定の選択

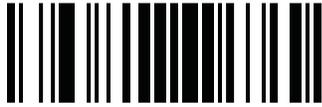
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

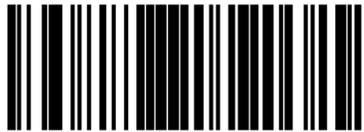
01=長さ1は1文字です



Industrial 2 of 5の長さ2の設定

この機能は、184ページの「Industrial 2 of 5の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのソフト文字が含まれます。

1～50文字の長さを設定できます。長さには、チェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Industrial 2 of 5の長さ2の設定の選択

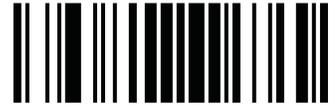
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

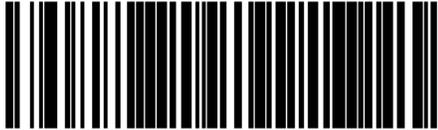
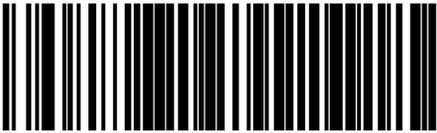
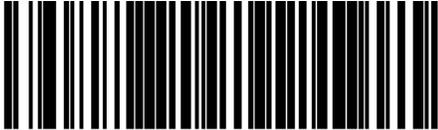
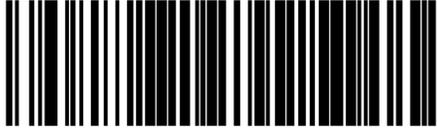
初期設定

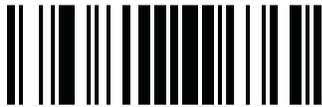
50=長さ2は50文字です



Industrial 2 of 5の最小読み取り回数

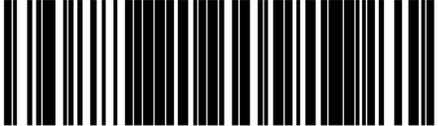
この機能は、Industrial 2 of 5ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 Industrial 2 of 5の最小読み取り回数=1
 Industrial 2 of 5の最小読み取り回数=2	
	 Industrial 2 of 5の最小読み取り回数=3
 Industrial 2 of 5の最小読み取り回数=4	



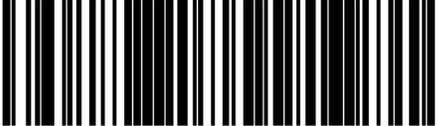
Industrial 2 of 5のステイッチ

Industrial 2 of 5の固定長のステイッチ機能を有効または無効にします。

	 <p>Industrial 2 of 5のステイッチ=無効</p>
 <p>Industrial 2 of 5のステイッチ=有効</p>	

Industrial 2 of 5の文字の相関関係

Industrial 2 of 5の文字の相関関係を有効または無効にします。

	 <p>Industrial 2 of 5の文字の相関関係=無効</p>
 <p>Industrial 2 of 5の文字の相関関係=有効</p>	



IATA

IATA読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

IATAの有効化/無効化

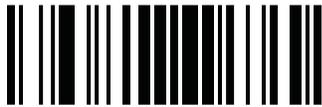
IATAのラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>IATA=無効</p>
<p>IATA=有効</p>	

IATAのチェックキャラクタの送信

IATA Industrial 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>IATAのチェックキャラクタの送信=無効</p>
<p>IATAのチェックキャラクタの送信=有効</p>	



ISBT 128

ISBT 128読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

ISBT 128の連結

ISBT128での2つのラベルの連結を有効または無効にします。

 <p>初期設定</p>	 <p>ISBT 128の連結=無効</p>
 <p>ISBT 128の連結=有効</p>	

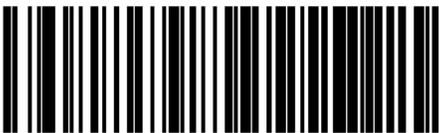
ISBT 128の連結モード

静的または動的の連結モードを指定します。



注

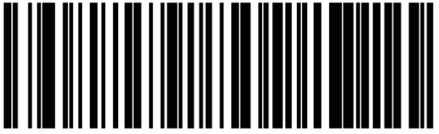
このオプションは、190ページの「ISBT 128の連結」が有効になっている場合にのみ有効です（190ページを参照してください）。

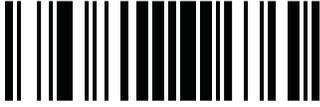
 <p>初期設定</p>	 <p>ISBT 128の連結モード=静的</p>
 <p>ISBT 128の連結モード=動的</p>	



ISBT 128の動的連結のタイムアウト

ISBT 128の動的連結モードで使用されるタイムアウトを指定します。

	 <p>ISBT 128の動的連結のタイムアウト=50ミリ秒</p>
 <p>ISBT 128の動的連結のタイムアウト=100ミリ秒</p>	
	 <p>ISBT 128の動的連結のタイムアウト=200ミリ秒</p>
 <p>ISBT 128の動的連結のタイムアウト=500ミリ秒</p>	
	 <p>ISBT 128の動的連結のタイムアウト=750ミリ秒</p>
 <p>ISBT 128の動的連結のタイムアウト=1秒</p>	



ISBT 128の強制連結

このオプションを有効にすると、すべてのISBT 128ラベルが強制的に連結されます。



注

このオプションは、190ページの「ISBT 128の連結」が有効になっている場合にのみ有効です（190ページを参照してください）。

	ISBT 128の強制連結=無効
ISBT 128の強制連結=有効	

ISBT 128の高度な連結オプション



注

連結用のラベル ペアの種類を設定するには、[HP USB Scanner Configuration and Firmware Utility] (HP USBスキャナーの設定およびファームウェア ユーティリティ) を使用するか、HPのサポート窓口にお問い合わせください。



MSI

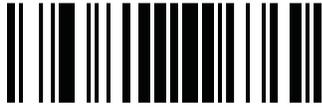
MSI読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

MSIの有効化/無効化

MSIのラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

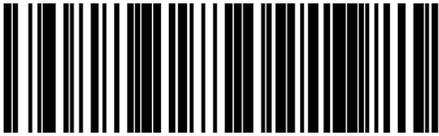
MSIのチェックキャラクタの計算

オプションのMSIチェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



MSIのチェックキャラクタの送信

MSIのチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

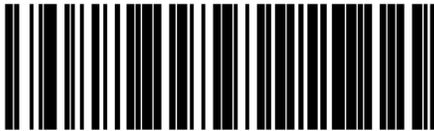
	 <p>MSIのチェックキャラクタの送信=無効</p>
 <p>MSIのチェックキャラクタの送信=有効</p>	

MSIの長さ制御

この機能は、MSI読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 <p>MSIの長さ制御=可変長</p>
 <p>MSI=固定長</p>	



MSIの長さ1の設定

この機能は、194ページの「MSIの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（194ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（194ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

01～50文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



MSIの長さ1の設定の選択

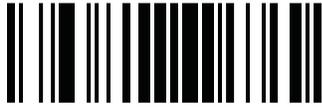
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



MSIの長さ2の設定

この機能は、194ページの「MSIの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（194ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（194ページの「固定長」モードの場合）です。

長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



MSIの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

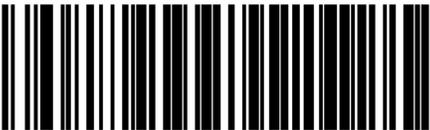
初期設定

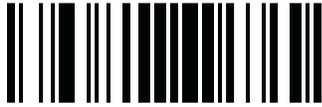
50=長さ2は50文字です



MSIの最小読み取り回数

この機能は、MSIラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要とされる最小の連続データコード回数を指定します。

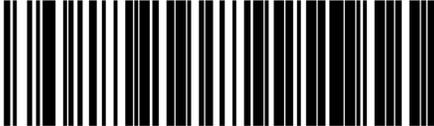
	 MSIの最小読み取り回数=1
 MSIの最小読み取り回数=2	
	 MSIの最小読み取り回数=3
 MSIの最小読み取り回数=4	



MSIのデコード レベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

	 MSIのデコードレベル=無効
 MSIのデコードレベル=1	
	 MSIのデコードレベル=2
 MSIのデコードレベル=3	
	 MSIのデコードレベル=4
 MSIのデコードレベル=5	



Code 93

Code 93読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 93の有効化/無効化

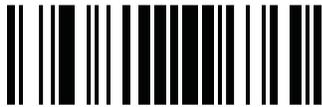
Code 93ラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>Code 93=無効</p>
<p>Code 93=有効</p>	

Code 93のチェックキャラクタの計算

オプションのCode 93チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>Code 93のチェックキャラクタの計算=無効</p>
<p>Code 93のチェックキャラクタの計算=Cのチェックを有効にする</p>	
	<p>Code 93のチェックキャラクタの計算=Kのチェックを有効にする</p>
<p>Code 93のチェックキャラクタの計算=CおよびKのチェックを有効にする</p>	



Code 93のチェックキャラクタの送信

オプションのCode 93チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	 Code 93のチェックキャラクタの送信=無効
 Code 93のチェックキャラクタの送信=有効	

Code 93の長さ制御

この機能は、Code 93読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 Code 93の長さ制御=可変長
 Code 93=固定長	



Code 93の長さ1の設定

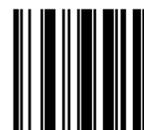
この機能は、200ページの「Code 93の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（200ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（200ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

01～50文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Code 93の長さ1の設定の選択

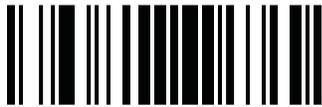
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

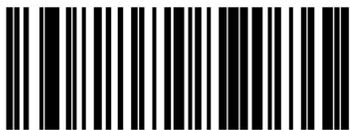
01=長さ1は1文字です



Code 93の長さ2の設定

この機能は、200ページの「Code 93の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（200ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（200ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます(固定長は1つのみ)。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Code 93の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



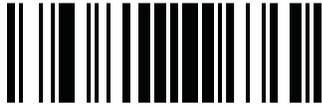
50=長さ2は50文字です



Code 93の最小読み取り回数

この機能は、Code 93ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要とされる最小の連続デコード回数を指定します。

	 Code 93の最小読み取り回数=1
 Code 93の最小読み取り回数=2	
	 Code 93の最小読み取り回数=3
 Code 93の最小読み取り回数=4	



Code 93のデコードレベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

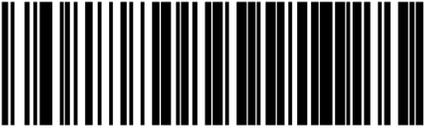
プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

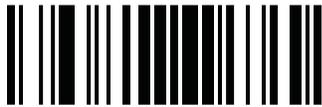
	 Code 93のデコードレベル=無効
 Code 93のデコードレベル=1	
	 Code 93のデコードレベル=2
 Code 93のデコードレベル=3	
	 Code 93のデコードレベル=4
 Code 93のデコードレベル=5	



Code 93のクワイエットゾーン

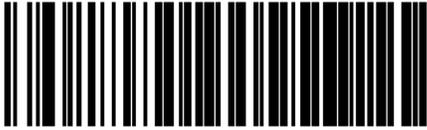
Code 93の固定長のスティッチ機能を有効または無効にします。

	 <p>Code 93のクワイエットゾーン=クワイエットゾーンなし</p>
 <p>Code 93のクワイエットゾーン=片側にクワイエットゾーン</p>	
	 <p>Code 93のクワイエットゾーン=両側にクワイエットゾーン</p>
 <p>Code 93のクワイエットゾーン=自動</p>	
	 <p>Code 93のクワイエットゾーン= 両側に仮想クワイエットゾーン</p>



Code 93のステイッチ

Code 93の固定長または可変長のステイッチ機能を有効または無効にします。

	 Code 93のステイッチ=無効
 Code 93のステイッチ=有効	

Code 93の文字の相関関係

Code 93の文字の相関関係を有効または無効にします。

	 Code 93の文字の相関関係=無効
 Code 93の文字の相関関係=有効	



Codablock F

Codablock F読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Codablock Fの有効化/無効化

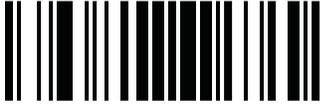
Codablock Fのラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	 Codablock F=無効
 Codablock F=有効	

Codablock F EANの有効化/無効化

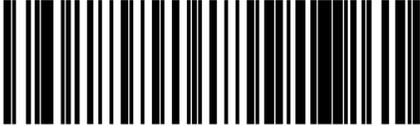
Codablock F EANサブタイプ（最初の位置にFNC1が置かれているコード）を有効または無効にします。

	 Codablock F EAN=無効
 Codablock F EAN=有効	



Codablock FのAIMチェック

チェック デジットの計算アルゴリズムがAIMに準拠するかどうかを指定します。

	 Codablock FのAIMチェック=AIMに準拠しない
 Codablock FのAIMチェック=AIMに準拠	

Codablock Fの長さ制御

この機能は、Codablock F読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 Codablock Fの長さ制御=可変長
 Codablock F=固定長	



Codablock Fの長さ1の設定

この機能は、208ページの「Codablock Fの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（208ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（208ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれません。

003～255文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



Codablock Fの長さ1の設定の選択

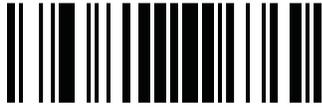
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

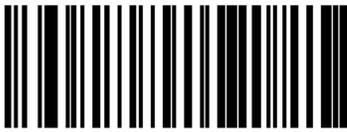
003=長さ1は3文字です



Codablock Fの長さ2の設定

この機能は、208ページの「Codablock Fの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（208ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（208ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにはスタート/ストップキャラクタは含まれません。

3～255文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。



Codablock Fの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

100=長さ2は100文字です



Code 4

Code 4読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 4の有効化/無効化

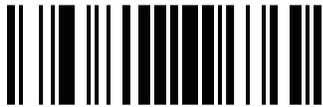
Code 4ラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>Code 4=無効</p>
<p>Code 4=有効</p>	

Code 4のチェックキャラクタの送信

この機能は、オプションのCode 4チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	<p>Code 4のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>Code 4のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	



Code 4の16進から10進への変換

この機能は、16進のラベルデータから10進のラベルデータへの変換を有効または無効にします。

	 Code 4の16進から10進への変換=無効
 Code 4の16進から10進への変換=有効	

Code 5

Code 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 5の有効化/無効化

Code 5ラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	 Code 5=無効
 Code 5=有効	



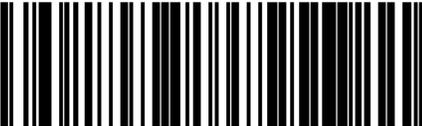
Code 5のチェックキャラクタの送信

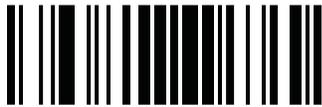
この機能は、オプションのCode 5チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	 <p>Code 5のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
 <p>Code 5のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	

Code 5の16進から10進への変換

この機能は、16進のラベルデータから10進のラベルデータへの変換を有効または無効にします。

	 <p>Code 5の16進から10進への変換=無効</p>
 <p>Code 5の16進から10進への変換=有効</p>	



Code 4およびCode 5に共通の設定項目

Code 4およびCode 5の読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 4およびCode 5のデコード レベル

デコードレベルを使用すると、お客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。



注

この設定項目は、Code 4およびCode 5に適用されます。

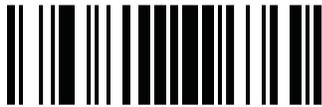
	 Code 4およびCode 5のデコードレベル=無効
 Code 4およびCode 5のデコードレベル=1	
	 Code 4およびCode 5のデコードレベル=2
 Code 4およびCode 5のデコードレベル=3	
	 Code 4およびCode 5のデコードレベル=4
 Code 4およびCode 5のデコードレベル=5	



Code 4およびCode 5の最小読み取り回数

この機能は、Code 4またはCode 5ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

	 Code 4またはCode 5の最小読み取り回数=1
 Code 4またはCode 5の最小読み取り回数=2	
	 Code 4またはCode 5の最小読み取り回数=3
 Code 4またはCode 5の最小読み取り回数=4	



Follett 2 of 5

Follett 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Follett 2 of 5の有効化/無効化

Follett 2 of 5のラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	 <p>Follett 2 of 5=無効</p>
 <p>Follett 2 of 5=有効</p>	

BC412

BC412読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

BC412の有効化/無効化

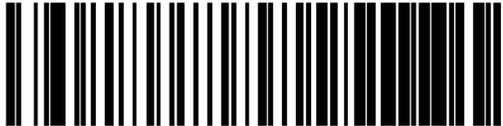
BC412のラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	 <p>BC412=無効</p>
 <p>BC412=有効</p>	



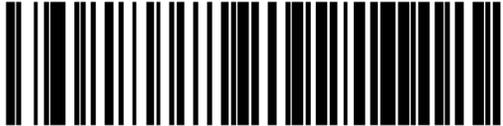
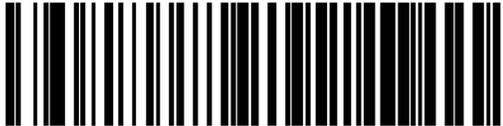
BC412のチェックキャラクタの計算

このオプションを有効にすると、オプションのBC412チェックキャラクタの計算および検証が有効または無効になります。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。

	 BC412のチェックキャラクタの計算=計算しない
 BC412のチェックキャラクタの計算=チェックキャラクタを計算	

BC412の最小読み取り回数

この機能は、BC412ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

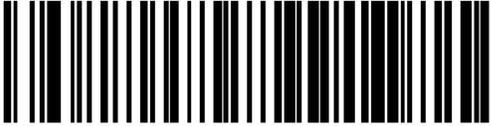
	 BC412の最小読み取り回数=1
 BC412の最小読み取り回数=2	
	 BC412の最小読み取り回数=3
 BC412の最小読み取り回数=4	



BC412のデコード レベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

プログラミング手順について詳しくは、256ページの「デコードレベル」を参照してください。

	 <p>BC412のデコードレベル=無効</p>
 <p>BC412のデコードレベル=1</p>	
	 <p>BC412のデコードレベル=2</p>
 <p>BC412のデコードレベル=3</p>	
	 <p>BC412のデコードレベル=4</p>
 <p>BC412のデコードレベル=5</p>	



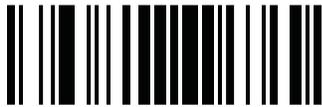
BC412の長さ制御

この機能は、BC412読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 BC412の長さ制御=可変長
 BC412の長さ制御=固定長	



BC412の長さ1の設定

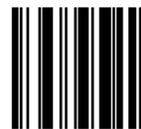
この機能は、219ページの「BC412の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（219ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（219ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

01～50文字の長さを設定できます。プログラミング手順について詳しくは、257ページの「長さ1の設定」を参照してください。



BC412の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です

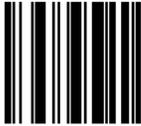


BC412の長さ2の設定

この機能は、219ページの「BC412の長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（219ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（219ページの「固定長」モードの場合）です。

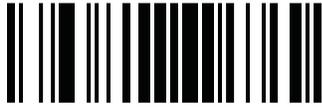
長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。プログラミング手順について詳しくは、258ページの「長さ2の設定」を参照してください。

 <p>Code 39の長さ2の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	 <p>キャンセル</p>

初期設定

50=長さ2は50文字です

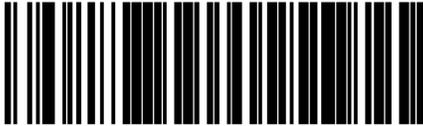
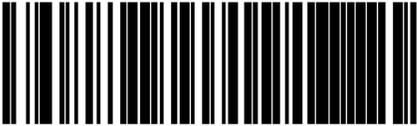


Plessey

Plessey読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Plesseyの有効化/無効化

Plesseyのラベルをリーダーでデコードする機能を有効または無効にします。

	 Plessey=無効
 Plessey=有効	



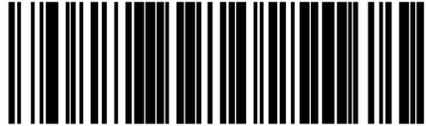
Plesseyのチェックキャラクタの計算

オプションのPlesseyチェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	 <p>Plesseyのチェックキャラクタの計算=無効</p>
 <p>Plesseyのチェックキャラクタの計算= Plessey標準チェックキャラクタの検証を有効にする</p>	
	 <p>Plesseyのチェックキャラクタの計算= Ankerチェックキャラクタの検証を有効にする</p>
 <p>Plesseyのチェックキャラクタの計算= Plessey標準チェックキャラクタおよび Ankerチェックキャラクタの検証を有効にする</p>	

Plesseyのチェックキャラクタの送信

MSIのチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	 <p>Plesseyのチェックキャラクタの送信=無効</p>
 <p>Plesseyのチェックキャラクタの送信=有効</p>	

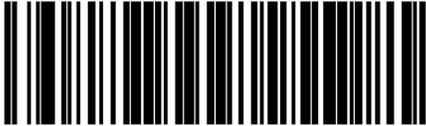
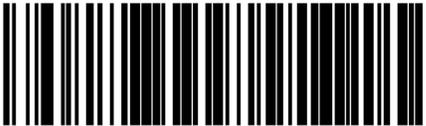


Plesseyの長さ制御

この機能は、Plessey読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	 Plesseyの長さ制御=可変長
 Plessey=固定長	

Plesseyの長さ1の設定

この機能は、224ページの「Plesseyの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（224ページの「可変長」モードの場合）、または1つ目の固定長（224ページの「固定長」モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。01～50文字の長さを設定できます。

表2には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、257ページを参照してください。

表2.Plesseyの長さ1の設定の例

手順	操作	例			
		01文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定				
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Plesseyの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

 Plesseyの長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	 キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です

Plesseyの長さ2の設定

この機能は、224ページの「Plesseyの長さ制御」でのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（224ページの「可変長」モードの場合）、または2つ目の固定長（224ページの「固定長」モードの場合）です。

長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表3には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、258ページを参照してください。

表3.Plesseyの長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Plesseyの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Plesseyの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



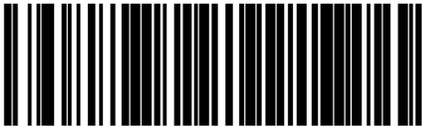
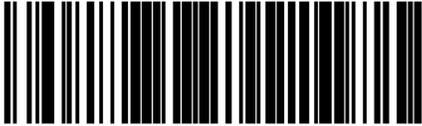
キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です

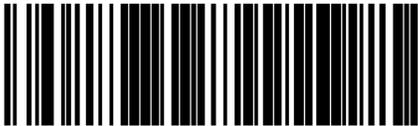
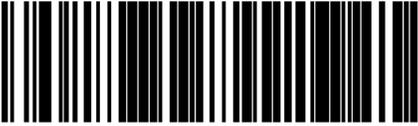
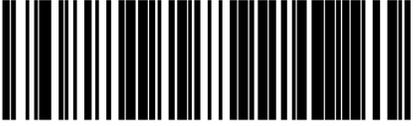
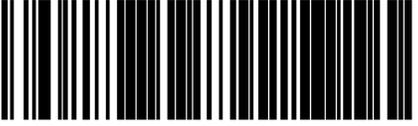
Plesseyの最小読み取り回数

この機能は、Plesseyラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要とされる最小の連続デコード回数を指定します。

	 Plesseyの最小読み取り回数=1
 Plesseyの最小読み取り回数=2	
	 Plesseyの最小読み取り回数=3
 Plesseyの最小読み取り回数=4	

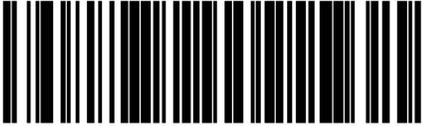
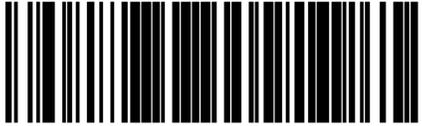
Plesseyのデコードレベル

Plesseyのデコードレベルを指定します。デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。この機能について詳しくは、[256ページ](#)を参照してください。

	 <p>Plesseyのデコードレベル=無効</p>
 <p>Plesseyのデコードレベル=1（正確性優先）</p>	
	 <p>Plesseyのデコードレベル=2</p>
 <p>Plesseyのデコードレベル=3</p>	
	 <p>Plesseyのデコードレベル=4</p>
 <p>Plesseyのデコードレベル=5（生産性優先）</p>	

Plesseyのステイッチ

Plesseyの固定長のステイッチ機能を有効または無効にします。

 <p>初期設定</p>	 <p>Plesseyのステイッチ=無効</p>
 <p>Plesseyのステイッチ=有効</p>	

Plesseyの文字の相関関係

Plesseyの文字の相関関係を有効または無効にします。

 <p>初期設定</p>	 <p>Plesseyの文字の相関関係=無効</p>
 <p>Plesseyの文字の相関関係=有効</p>	

メモ



第5章 リファレンス

このセクションには、一部のバーコード機能の説明および例が記載されています。リーダーの設定に使用される実際のバーコードラベルについては、プログラミングのセクションを参照してください。

USB COM (RS-232) のパラメーター (232ページ) <ul style="list-style-type: none">• 文字間遅延 (232ページ)• ACK文字 (233ページ)• NAK文字 (234ページ)• ACK/NAKのタイムアウト値 (235ページ)• ACK/NAKの再試行回数 (236ページ)• 無効化文字 (237ページ)• 有効化文字 (238ページ)
USBキーボード (239ページ) <ul style="list-style-type: none">• 文字間遅延 (239ページ)• コード間遅延 (240ページ)
データ編集 (241ページ) <ul style="list-style-type: none">• データ編集の概要 (241ページ)• グローバルプレフィックス/サフィックス (242ページ)• グローバルAIM ID (243ページ)• ラベルID：プリロードされたセット (244ページ)• ラベルID：読み取りコードごとに個別設定 (246ページ)• グローバルな中間ラベルID文字の設定 (248ページ)• 文字変換 (248ページ)
読み取り時のパラメーター (250ページ) <ul style="list-style-type: none">• ラベル終了のタイムアウト (250ページ)• 読み取り成功のLEDの持続時間 (251ページ)• スキャンモード (252ページ)• スキャン有効時間 (253ページ)• フラッシュオン時間 (254ページ)• フラッシュオフ時間 (255ページ)
読み取りコードの設定 (256ページ) <ul style="list-style-type: none">• デコードレベル (256ページ)• 長さの設定 (257ページ)

USB COM (RS-232) のパラメーター

文字間遅延

このパラメーターは、ある文字の末尾が送られてから次の文字の先頭が送られるまでの文字間の遅延時間を指定します。遅延時間は、0（ゼロ）～990ミリ秒の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。0を設定すると、遅延なしになります。

遅延時間を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を10で割ります（設定は10ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [文字間遅延設定の選択]バーコード（14ページ）をスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表4を参照してください。

表4.文字間遅延設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	50ミリ秒	150ミリ秒	600ミリ秒	850ミリ秒
2	10で除算（および前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	15	60	85
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[文字間遅延設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[5]	[1]および[5]	[6]および[0]	[8]および[5]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

ACK文字

この設定は、ACK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表 (295ページ) を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [ACK文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表5を参照してください。

表5.ACK文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	ACK	\$	@	>
2	同等の16進値	0x06	0x24	0x40	0x3E
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK文字設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から 2つの文字をスキャン	[0]および[6]	[2]および[4]	[4]および[0]	[3]および[E]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

NAK文字

この設定は、NAK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表（295ページ）を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [NAK文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表6を参照してください。

表6.NAK文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	NAK	\$	@	>
2	同等の16進値	0x15	0x24	0x40	0x3E
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[NAK文字設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から 2つの文字をスキャン	[1]および[5]	[2]および[4]	[4]および[0]	[3]および[E]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

ACK/NAKのタイムアウト値

このオプションは、ラベルの送信後にホストからACK文字が送られてくるまでリーダーが待機する時間を指定します。選択できるタイムアウト値の範囲は、200～15,000ミリ秒（15秒）（200ミリ秒単位）です。0を選択すると、タイムアウトは無効になります。

この値を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を200で割ります（設定は200ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [ACK/NAKのタイムアウト値の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表7を参照してください。

表7.ACK/NAKのタイムアウト値の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	200ミリ秒	1,000ミリ秒 (1秒)	5,200ミリ秒 (5.2秒)	15,000ミリ秒 (15秒)
2	200で除算	01	05	26	75
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK/NAKのタイムアウト値の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から 2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[5]	[2]および[6]	[7]および[5]
7	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

ACK/NAKの再試行回数

この機能は、再試行状態のためにリーダーでラベルの送信を再試行する回数を指定します。選択できる再試行回数は1～254です。0を選択すると、再試行回数は無効になり、255を選択すると、再試行回数は無制限になります。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 数字の前を0で埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [ACK/NAKの再試行回数設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた数値を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表8を参照してください。

表8.ACK/NAKの再試行回数設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	再試行回数の無効化	3回の再試行	54回の再試行	無制限の再試行
2	前を0（ゼロ）で埋める	000	003	054	255
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK/NAKの再試行回数設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、 および[0]	[0]、[0]、 および[3]	[0]、[5]、 および[4]	[2]、[5]、および[5]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

無効化文字

リーダーを無効にするために使用するRS-232ホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この値を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字または値を決めます。0xFFの設定は、無効化文字が使用されない（利用不可である）ことを示します。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表（295ページ）を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [無効化文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表9を参照してください。

表9.無効化文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	「d」	「j」	「D」	無効化コマンドを使用しない
2	同等の16進値	0x64	0x7D	0x44	0xFF
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[無効化文字値の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[6]および[4]	[7]および[D]	[4]および[4]	[F]および[F]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

有効化文字

リーダーを有効にするために使用するRS-232ホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

目的の文字または値を決めます。0xFFの設定は、有効化文字が使用されない（利用不可である）ことを示します。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表（295ページ）を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [有効化文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順2で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表10を参照してください。

表10.有効化文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	「e」	「j」	「E」	有効化コマンドを使用しない
2	同等の16進値	0x65	0x7D	0x45	0xFF
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[有効化文字値の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[6]および[5]	[7]および[D]	[4]および[5]	[F]および[F]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

USBキーボード

文字間遅延

このパラメーターは、ある文字の末尾が送られてから次の文字の先頭が送られるまでの文字間の遅延時間を指定します。遅延時間は、0（ゼロ）～990ミリ秒の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。0を設定すると、遅延なしになります。

遅延時間を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を10で割ります（設定は10ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [文字間遅延設定の選択]バーコード（14ページ）をスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

注

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表11を参照してください。

表11.文字間遅延設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	50ミリ秒	150ミリ秒	600ミリ秒	850ミリ秒
2	10で除算（および前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	15	60	85
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[文字間遅延設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[5]	[1]および[5]	[6]および[0]	[8]および[5]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

コード間遅延

キーボード インターフェイスでホストに送信されるラベル間の遅延時間を指定します。この機能の選択可能な範囲は、0~99秒です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 数字の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [コード間遅延設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表12を参照してください。

表12.ウェッジのコード間遅延の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	遅延なし	5秒	60秒	99秒
2	前を0（ゼロ）で埋める	00	05	60	99
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[コード間遅延設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から 2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[5]	[6]および[0]	[9]および[9]
7	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

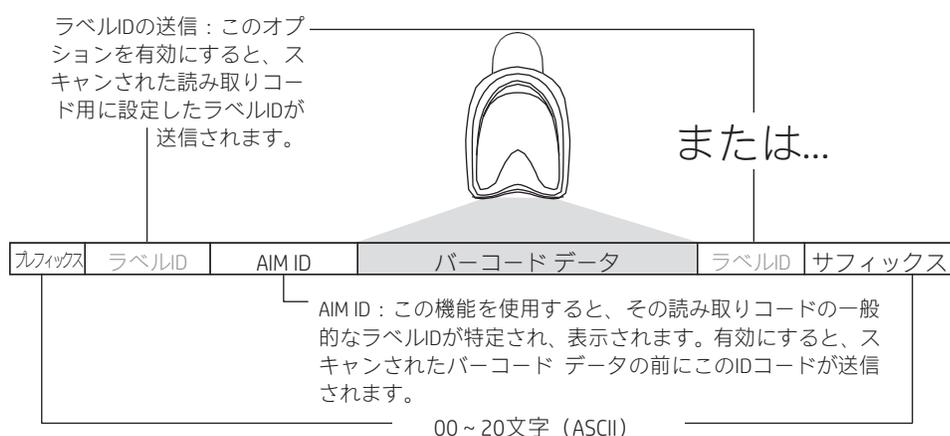
データ編集

データ編集の概要

バーコードをスキャンすると、バーコード データとともに追加情報をホスト コンピューターに送信できます。このバーコード データとユーザー定義の追加データの組み合わせを「メッセージ文字列」と呼びます。この章に記載されている機能を使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。

スキャンされたデータの前後に送信できる数種類の選択可能なデータ文字列があります。それらのデータ文字列をすべての読み取りコードに付加して送信するか、特定の読み取りコードのみに付加して送信するかを指定できます。図3は、メッセージ文字列に付加できる使用可能な要素を示しています。

図3：メッセージ文字列の内訳



注

その他の高度な編集も利用できます。[HP USB Scanner Configuration and Firmware Utility] (HP USBスキャナーの設定およびファームウェアユーティリティ)の「Advanced Formatting」(高度なフォーマット)の機能について参照してください。

以下のことにご注意ください...

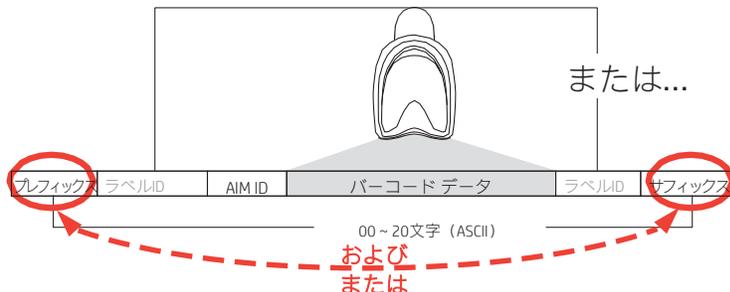
- ・メッセージ文字列の変更は必須条件ではありません。データ編集は、上級ユーザーにとってはカスタマイズ性の高い出力を可能にする優れた機能です。通常、データ編集の工場出荷時の設定は[NONE] (なし) になっています。
- ・プレフィックスまたはサフィックスは、すべての読み取りコード (65ページの「読み取りコード」の章を参照してください) を対象に適用できます (この章のグローバル機能を参照して設定してください)。
- ・このガイドの裏表紙の内側に記載されている295ページの「ASCII表」(00 ~ FF) から任意の文字をプレフィックス、サフィックス、またはラベルIDとして追加できます。

プレフィックスおよびサフィックスは、出力に表示したい順序で入力します。

グローバルプレフィックス/サフィックス

図4に示すように、最大20文字のASCII文字をプレフィックスとして（バーコードデータの前の位置に）、またはサフィックスとして（バーコードデータの後ろの位置に）追加できます。

図4.プレフィックスおよびサフィックスの位置



例：プレフィックスの設定

この例では、すべての読み取りコードにプレフィックスを設定します。

1. スキャンされたバーコード データに追加するASCII文字を決めます。この例では、ドル記号（「\$」）をプレフィックスとして追加します。
2. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
3. [グローバル プレフィックスの設定]バーコードをスキャンします。
4. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を参照して、目的の文字に割り当てられている16進値を見つけます。「\$」文字に対応する16進数は24です。この選択コードを入力するには、付録D「テンキー」に記載されている[2]および[4]のバーコードをスキャンします。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

5. 想定された20文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして文字列を終了します。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンして、プログラミング モードを終了します。
7. 結果として、以下のようなメッセージ文字列が表示されます。

スキャンされたバーコード データ：12345
結果として出力されるメッセージ文字列：\$12345

このオプションでは最大20文字を設定し、各文字はASCII文字セットまたは00~FFの16進値から選択できます。この機能を設定するには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして本体をプログラミング モードにしてから、[グローバル プレフィックスの設定]または[グローバル サフィックスの設定]バーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字（16進数）を指定します。想定された20文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして文字列を終了します。詳しくは、242ページの「例：プレフィックスの設定」セクションを参照してください。プログラミング モードを終了するには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

グローバルAIM ID



注

この機能は、すべての種類の読み取りコードを対象にAIM IDの追加を有効または無効にします。

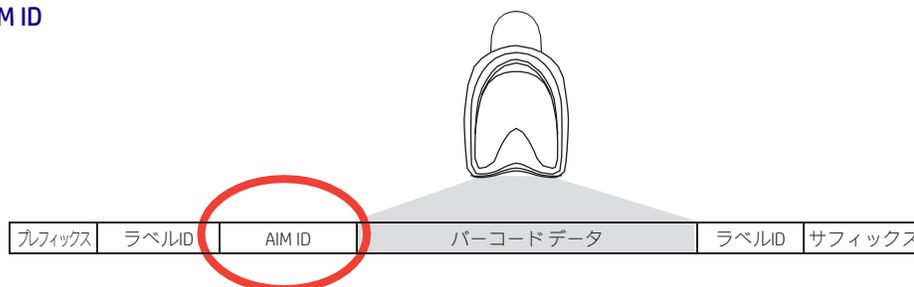
(ラベルIDのようにユーザー自身が選択するカスタム文字とは対照的に) AIMラベルIDをスキャンされたバーコード データに付加できます。AIMラベルIDは、以下のように3つの文字で構成されます。

- ・ 閉じ括弧文字 (ASCIIの「]」)。この後に以下の文字が続きます。
- ・ コード文字 (以下の表を参照してください)。この後に以下の文字が続きます。
- ・ 修飾文字 (修飾文字は読み取りコードによって決まります)。

読み取りコード	文字	読み取りコード	文字
UPC/EAN	E ^a	Code 128/GS1-128	C
Code 39および Code 32	A	GS1 DataBar Omnidirectional、 GS1 DataBar Expanded	e
Codabar	F	Standard 2 of 5	S
Interleaved 2 of 5	I	ISBN	X ^b
Code 93	G	Code 11	H

- a. AIM IDの追加時に、UPC-AおよびUPC-EラベルはEAN 13に変換されます。
- b. ISBN (修飾文字0が付いたX)

図5.AIM ID



ラベルID : プリロードされたセット

以下の表は、米国および欧州向けのプリロードされたラベルIDセットの一覧を示しています。

表13.プリロードされたラベルIDセット

読み取りコード	米国向けのラベルIDセット		欧州向けのラベルIDセット	
	ASCII 文字	16進値	ASCII 文字	16進値
ABC Codabar	S	530000	S	530000
CODABAR	%	250000	R	520000
Codablock F	l	6C0000	m	6D0000
Code 39 CIP	Y	590000	Y	590000
Code 93	&	260000	U	550000
CODE11	CE	434500	b	620000
CODE128	#	230000	T	540000
CODE32	A	410000	X	580000
CODE39	*	2A0000	V	560000
CODE4	4	340000	4	340000
CODE5	j	6A0000	j	6A0000
DATALOGIC 20F5	s	730000	s	730000
EAN13	F	460000	B	420000
EAN13 P2	F	460000	L	4C0000
EAN13 P5	F	460000	M	4D0000
EAN13 P8	F	460000	#	230000
EAN8	FF	464600	A	410000
EAN8 P2	FF	464600	J	4A0000
EAN8 P5	FF	464600	K	4B0000
EAN8 P8	FF	464600	*	2A0000
FOLLETT 20F5	O	4F0000	O	4F0000
GS1 DATABAR EXPANDED	RX	525800	t	740000
GS1 DATABAR LIMITED	RL	524C00	v	760000
GS1 DATABAR OMNIDIRECTIONAL	R4	523400	u	750000
GS1-128		000000	k	6B0000
I20F5	i	690000	N	4E0000
IATA	IA	494100	&	260000

読み取りコード	米国向けのラベルIDセット		欧州向けのラベルIDセット	
	ラベルID	範囲	ラベルID	範囲
Industrial 2 of 5	W	570000	W	570000
Interleaved 2 of 5 CIP HR	e	650000	e	650000
ISBN	l	490000	@	400000
ISBT128	f	660000	f	660000
ISSN	n	6E0000	n	6E0000
MSI	@	400000	Z	5A0000
S25	s	730000	P	500000
UPCA	A	410000	C	430000
UPCA P2	A	410000	F	460000
UPCA P5	A	410000	G	470000
UPCA P8	A	410000	Q	510000
UPCE	E	450000	D	440000
UPCE P2	E	450000	H	480000
UPCE P5	E	450000	I	490000
UPCE P8	E	450000	E	450000

ラベルID : 読み取りコードごとに個別設定

1つの読み取りコードのラベルIDを個別に設定するには、以下の操作を行います。

1. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 39ページの「ラベルIDの制御」セクションに記載されている適切なバーコードをスキャンして、ラベルIDの位置を前（プレフィックスとして有効にする）または後ろ（サフィックスとして有効にする）のどちらかに選択します。複数のID機能が有効になっている場合は、[図6](#)を参照してラベルIDの適切な位置を確認してください。
3. 40ページからの「ラベルIDの読み取りコードの選択」セクションに記載されているバーコードをスキャンして、カスタムのラベルIDを設定する読み取りコードを選択します。
4. 選択した読み取りコード用のラベルIDを表す目的の文字（3文字まで選択可能）を決めます。
5. このガイドの裏表紙の内側にある「ASCII表」（295ページ）を参照して、選択したラベルIDに関連付けられている同等の16進数を見つけます。たとえば、ラベルIDとして等号（=）を選択する場合、ASCII表にはそれに関連付けられた16進文字が3Dとして示されています。281ページからの「デンキー」を参照して、決定した16進文字を表すバーコードをスキャンします。上記の例では、[3]および[D]の文字をスキャンすることになります。ラベルID設定のその他の例は、[表14](#)に記載されています。



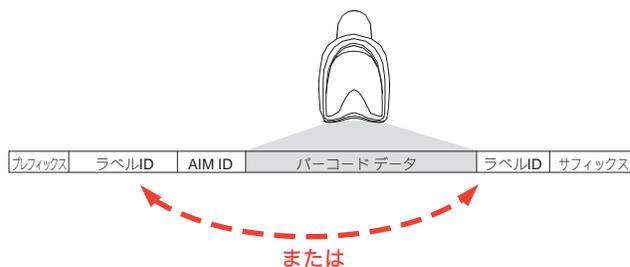
注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、ラベルIDの入力を終了します。
7. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上で、特定の読み取りコード用のラベルIDを設定する手順は完了です。

図6.ラベルIDの位置のオプション



ラベルID : 読み取りコードごとに個別設定 (続き)

表14.ラベルIDの例

手順	操作	例			
1.	[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします	(リーダーでプログラミングモードが開始されます)			
2.	39ページの「ラベルID」を使用して、ラベルID文字をスキャンされたデータの前または後ろのどちらに配置するかを決めます	プレフィックスとして有効	サフィックスとして有効	プレフィックスとして有効	サフィックスとして有効
3.	40ページからの「ラベルIDの読み取りコードの選択」を使用して、ラベルID文字を指定する読み取りコードの種類を選択するためのバーコードをスキャンします	GS1 DataBar Omnidirectional	Code 39	Interleaved 2 of 5	Code 32
4.	カスタムのラベルIDの例 (目的の文字) :	DB*	=C3	+	PH
5.	ASCII表 (裏表紙の内側) から同等の16進値を見つけ、281ページからの「テンキー」セクションのバーコードを使用してそれらの数字または文字をスキャンします。最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます	44 42 2A	3D 43 33	2B	50 48
6.	[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします	(リーダーでラベルIDの入力が終了します)			
7.	[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします	(リーダーでプログラミングモードが終了します)			
結果 :		DB*[バーコードデータ]	[バーコードデータ]=C3	+ [バーコードデータ]	[バーコードデータ]PH

グローバルな中間ラベルID文字の設定

送信時にラベル ペアの2つのラベル間に追加される中間ラベルIDを指定します。想定される文字列は最大20文字です。ラベル ペアを1つのラベルに結合してホストに送信するとき、中間ラベルIDをデータに追加し、その後ろに最初のラベルを付け、前に2つ目のラベルを付けることができます。この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 2つのラベルから成るラベル ペア用の中間ラベルIDを表す目的の文字（20文字まで選択可能）を決めます。最初の文字を00にした場合は、2つのラベル間に何も追加されません。
3. このガイドの裏表紙の内側にある「ASCII表」（295ページ）を参照して、選択したラベルIDに関連付けられている同等の16進数を見つけます。たとえば、ラベルIDとして「M」、「I」、および「D」の文字を選択する場合、ASCII表にはそれに関連付けられた16進文字が4D4944として示されています。281ページからの「テンキー」を参照して、決定した16進文字を表すバーコードをスキャンします。上記の例では、[4]、[D]、[4]、[9]、[4]、および[4]の文字をスキャンすることになります。ラベルID設定のその他の例は、表14に記載されています。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

4. 以下の場合は、リーダーで文字列が保存され、プログラミングモードが終了します。
 - [プログラミングモードの開始/終了]バーコードが2回スキャンされた場合
 - 利用可能な20文字すべての16進値が入力された場合
 - 入力された最初の00の16進値によって文字列が終了した場合

以上で、2つのラベルから成るラベル ペア用のグローバルな中間ラベルIDを設定する手順は完了です。

文字変換

文字変換は、8バイトの設定項目です。この8バイトは、16進のASCII値で表現された4つの文字ペアです。ペアの最初の文字は変換前の文字です。ペアの2つ目の文字は変換後の文字です。ペア内の変換する文字が「FF」である場合、変換は行われません。

たとえば、文字変換の設定項目を41423132FFFFFFに設定してある場合は、以下のようになります。

最初のペアは4142、つまりAB（16進数の41はASCIIの大文字A、16進数の42はASCIIの大文字B）であり、2つ目のペアは3132、つまり12（16進数の31はASCIIの1、16進数の32はASCIIの2）です。その他の2つのペアは、FFFFおよびFFFFです。

AB12BA21というラベルでは、文字変換後のラベルはBB22BB22となります。

文字Aは文字Bに変換され、文字1は文字2に変換されました。最後の2つの文字ペアはすべてFFなので、何も行われません。

文字変換を設定するには、以下の操作を行います。

1. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. [文字変換の設定]バーコードをスキャンします。
3. 目的の文字列を決めます。上記の例と同様に、16カ所の文字を決める必要があります。次に、このガイドの裏表紙の内側にあるASCII表を参照して、文字列を満たすために必要な同等の16進数を見つけます。
4. 付録D「テンキー」を参照して、前の手順で決めた16進文字を表すバーコードをスキャンします。
5. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。



注

想定された16文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードを2回スキャンすることで、選択を受け入れてプログラミングモードを終了します。

読み取り時のパラメーター

ラベル終了のタイムアウト

この機能は、最後のラベルセグメントが検出されてからリーダーで新しいラベルの準備ができるまでの時間を設定します。タイムアウト値は、10~2,550ミリ秒（2.55秒）の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。[ラベル終了のタイムアウト]は、ラベルが読み取られるたびにトリガーを引く必要のあるスキャンモードには適用されません

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を10で割ります（設定は10ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて3桁の数値にします。例：0=000、5=005、20=020など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [ラベル終了のタイムアウト設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「デンキー」に記載されているデンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表15を参照してください。

表15.タイムアウト設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	50ミリ秒	150ミリ秒	1800ミリ秒 (1.8秒)	2550ミリ秒 (2.55秒)
2	10で除算（および前を0で埋める）	005	015	180	255
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[ラベル終了のタイムアウト設定の選択]をスキャン				
5	付録D「デンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、 および[5]	[0]、[1]、 および[5]	[1]、[8]、 および[0]	[2]、[5]、および[5]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

読み取り成功のLEDの持続時間

この機能は、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を指定します。読み取り成功のLEDがオンのままになる時間は、0.1～25.5秒の範囲（100ミリ秒単位）で設定できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。0を設定すると、次回トリガーが引かれるまで読み取り成功のLEDがオンのままになります。
2. 目的の設定を100で割ります（設定は100ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [読み取り成功のLEDの持続時間設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表16を参照してください。

表16.読み取り成功のLEDの持続時間設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	次のトリガーが引かれるまで読み取り成功のLEDがオンのまま (00)	200ミリ秒	1500ミリ秒 (1.5秒)	2500ミリ秒 (2.5秒)
2	100で除算（および前を0で埋める）	000	002	015	025
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[読み取り成功のLEDの持続時間設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、および[0]	[0]、[0]、および[2]	[0]、[1]、および[5]	[0]、[2]、および[5]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

スキャンモード

リーダーのスキャン操作モードを選択します。以下のモードを選択できます。

トリガー シングル：トリガーが引かれると、以下のどれかが発生するまでスキャンが有効になります。

- スキャン有効時間 (62ページ) が経過した
- ラベルが読み取られた
- トリガーが解放された

このモードは、一般的なハンドヘルドリーダーの動作です。トリガーが引かれるとスキャンが開始され、トリガーが解放されるか、ラベルが読み取られるか、または最大スキャン有効時間 (62ページ) が経過するまで継続されます。

トリガー ホールド マルチ：トリガーが引かれるとスキャンが開始され、トリガーが解放されるか、またはスキャン有効時間 (62ページ) が経過するまで継続されます。ラベルの読み取りが行われても、スキャンは無効になりません。二重読み取りのタイムアウト (50ページ) を設定すると、このモードで意図しない同じラベルの二重読み取りを防止できます。

トリガー パルス マルチ：トリガーが引かれると、連続スキャンが有効になり、スキャン有効時間 (62ページ) が経過するか、またはトリガーが解放された後で再び引かれるまで継続されます。二重読み取りのタイムアウト (50ページ) を設定すると、このモードで意図しない同じラベルの二重読み取りを防止できます。

フラッシング：トリガーの状態とは無関係にリーダーが点滅¹します。点滅速度は、フラッシュオン時間 (63ページ) およびフラッシュ オフ時間 (64ページ) によって制御されます。フラッシュがオンのときは、リーダーで継続的に読み取りが行われます。フラッシュがオフのときは、スキャンは実行されません。

常時オン：トリガーが引かれなくてもバーコードが読み取られます。スキャンが常に有効になります。二重読み取りのタイムアウト (50ページ) を設定すると、このモードで意図しない二重読み取りを防止できます。

Autosenseスタンド モード：トリガーが引かれなくてもバーコードが読み取られます。対象物がリーダーの照射領域に入ると、自動的にスキャンが有効になります。トリガーが引かれると、シングル読み取りモードと同じように動作します。二重読み取りのタイムアウト (50ページ) を設定すると、このモードで意図しない同じラベルの二重読み取りを防止できます。

1. フラッシュ オン時間 (63ページ) によって制御されます。

スキャン有効時間

この設定は、リーダーでスキャンが有効な状態になった後、その状態のままている時間を指定します。1～255秒の範囲（1秒単位）で設定できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 結果の前を0で埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [スキャン有効時間設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表17を参照してください。

表17.スキャン有効時間設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	1秒	90秒（1.5分）	180秒（3分）	255秒（4.25分）
2	前を0（ゼロ）で埋める	001	090	180	255
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[スキャン有効時間設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、 および[1]	[0]、[9]、 および[0]	[1]、[8]、 および[0]	[2]、[5]、および[5]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

フラッシュ オン時間

この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオンになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100～9,900ミリ秒（0.1～9.9秒）（100ミリ秒単位）です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を100で割ります（設定は100ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを開始します。
4. [フラッシュオン時間設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表18を参照してください。

表18.フラッシュ オン時間設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	500ミリ秒	1,000ミリ秒 (1秒)	5,200ミリ秒 (5.2秒)	9,900ミリ秒 (9.9秒)
2	100で除算（および前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	10	52	99
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[フラッシュオン時間設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[5]	[1]および[0]	[5]および[2]	[9]および[9]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

フラッシュ オフ時間

この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオフになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100～9,900ミリ秒（0.1～9.9秒）（100ミリ秒単位）です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を100で割ります（設定は100ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
4. [フラッシュ オフ時間設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表19を参照してください。

表19.フラッシュ オフ時間設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	500ミリ秒	1,000ミリ秒 (1秒)	5,200ミリ秒 (5.2秒)	9,900ミリ秒 (9.9秒)
2	100で除算（および前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	10	52	99
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[フラッシュ オフ時間設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[5]	[1]および[0]	[5]および[2]	[9]および[9]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

読み取りコードの設定

デコードレベル

デコードレベルを使用すると、特定のお客様のニーズに応じてバーコード（読み取りコード）のデコーダーを生産性優先から正確性優先までさまざまに設定できます。

- レベル1を選択すると、デコーダーの正確性が非常に高くなりますが、その反面、印刷状態の悪いラベルや損傷したラベルの読み取りができなくなります。
- レベル5を選択すると、デコーダーの生産性が非常に高くなります。こうした生産性優先の動作では、印刷状態の悪いラベルや損傷したラベルのデコードが可能になる反面、デコードエラーの可能性が高くなります。
- レベル3（初期設定）を選択すると、製品ラベルの大部分をデコードできます。

特定の読み取りコードに対してデコードレベルを変更するタイミングを決める要因は多数存在します。具体的には、一部のバーコードラベルで検出されることがあるスポット、ボイド、バーやスペースの不均一な幅、損傷したラベルなどです。正確性優先の設定を使用してデコードできない読み取り難いラベルや損傷したラベルの数が多い場合は、デコードレベルを上げて生産性を高めます。ラベルの大部分が非常に良質であったり、デコードエラーの可能性を低くする必要があったりする場合は、デコードレベルを下げて正確性を高めます。

長さ設定

長さ1の設定

この機能は、特定の読み取りコードのバーコードの長さの1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

設定している読み取りコードでの選択可能な範囲（文字数）を確認するには、65ページの「読み取りコード」セクションを参照してください。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字の長さを決めます。数字の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
2. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
3. 設定している読み取りコードの[長さ1の設定の選択]をスキャンします。
4. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた長さ設定を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

5. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表20を参照してください。

表20.長さ1の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	01文字	07文字	52文字	74文字
2	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
3	目的の読み取りコードの[長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[5]および[2]	[7]および[4]
5	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

長さ2の設定

この機能は、特定の読み取りコードのバーコードの長さの1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

設定している読み取りコードでの選択可能な範囲（文字数）を確認するには、65ページの「読み取りコード」セクションを参照してください。00を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字の長さを決めます。数字の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
2. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを開始します。
3. 設定している読み取りコードの[長さ2の設定の選択]をスキャンします。
4. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた長さ設定を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



注

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

5. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表21を参照してください。

表21.長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（2つ目の長さを無視する）	07文字	52文字	74文字
2	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
3	[長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[5]および[2]	[7]および[4]
5	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				



付録A 技術仕様

以下の表に、物理特性、パフォーマンス特性、ユーザー環境や規定に関する情報、およびケーブルの標準のピン配列を示します。

項目	HPリニアバーコードスキャナーII	
物理特性		
外径寸法	高さ163 mm 長さ91 mm 幅41 mm	
質量 (ケーブルを除く)	150 g	リーダー : 190 g クレードル : 221 g
色	黒	
電気特性		
電圧および電流	入力電圧 : 4.5 ~ 14.0 V DC 動作時 (通常) : 140 mA 動作時 (最大) : 380 mA アイドル/スタンバイ時 (標準) : 50 mA	

項目	HPリニアバーコードスキャナーII
パフォーマンス特性	
光源	赤色LED
ロール（チルト）角度 ^a	最大45°
ピッチ角度 ^a	± 65°
スキュー（ヨー） ^a	70°
照射領域	56 ± 2°
照射領域	<u>Code 39</u> 5 mil : 2 ~ 18 cm 7.5 mil : 2 ~ 30 cm 10 mil : 2 ~ 44 cm 20 mil : 最大75 cm <u>EAN</u> 13 mil : 2 ~ 58 cm
被写界深度（通常）^b	
エレメントの最少幅	4 mil : 0,01 cm
最小印刷コントラスト	最小25%の反射率

^a. ISO 15423の仕様に基づいています。

^b. EANに基づく13 milの被写界深度。その他すべてのコードはCode 39の値です。すべてのラベルはグレードA、一般的な環境光下、20° C、ラベルの傾斜角度10° での値です。

項目	HPリニアバーコードスキャナーII
デコード可能コード	
UPC/EAN/JAN (A、E、13、8)、UPC/EAN/JAN (P2/P5を含む)、UPC/EAN/JAN (ISBN/Bookland およびISSNを含む)、UPC/EAN Coupons、Code 39 (Full ASCIIを含む)、Code 39 Trioptic、Code39 CIP (フランスの医薬品)、LOGMARS (Code 39および標準的なチェック デジットが有効)、Danish PPT、Code 32 (イタリアのPharmacode 39)、Code 128、Code 128 ISBT、Interleaved 2 of 5、Standard 2 of 5、Interleaved 2 of 5 CIP (HR)、Industrial 2 of 5、Datalogic 2 of 5 (中国の郵便コード/Chinese 2 of 5)、IATA 2of5航空貨物コード、Code 11、Codabar、Codabar (NW7)、ABC Codabar、Code 93、MSI、PZN、Plessey、Anker Plessey、Follet 2 of 5、GS1 DataBar Omnidirectional、GS1 DataBar Limited、GS1 DataBar Expanded、GS1 DataBar Truncated、DATABAR Expanded Coupon	
サポートされているインターフェイス	
USB Com Std.、USBキーボード、USB標準キーボード (ALTモード)、USB OEM、キーボード ウェッジ (ALTキーあり/ALTキーなしのAT、ALTキーあり/ALTキーなしのIBM AT PS2)、USB 複合デバイス (キーボード + COM)	

項目	HPリニアバーコードスキャナーII
ユーザー環境	
動作時温度	0 ~ 50° C
非動作時温度	-40 ~ 70° C
湿度	動作時 : 0 ~ 95%の相対湿度 (結露なし)
耐落下仕様	1.5 mの高さからコンクリート面へ 18回落下後、動作可能
外光耐性	最大120,000ルクス
汚染物/雨、ほこり/微粒子への耐性	IEC 529-IP42 (スキャナーのみ)
ESDレベル	15 KV

ケーブルの標準のピン配列

図7および表22には、リーダーのケーブルに用いられる標準のピン配列の情報が記載されています。

図7.ケーブルの標準のピン配列

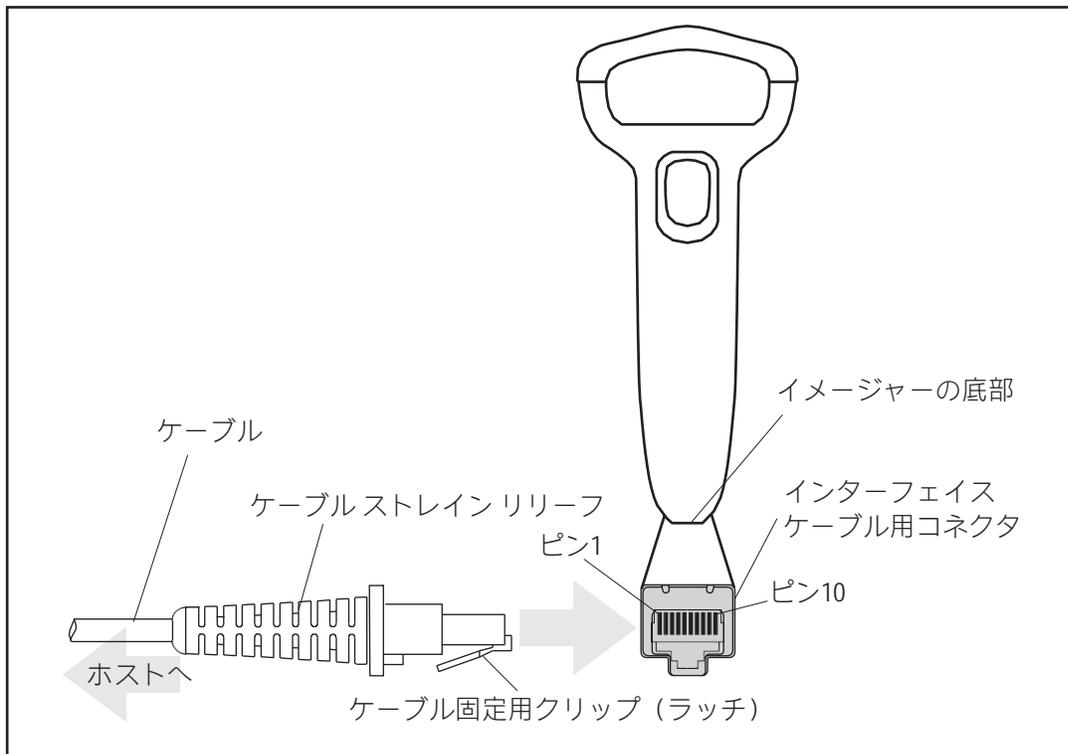


表22の記載事項は、リーダーのコネクタに適用されるものであり、参考用の情報です。

表22.ケーブルの標準のピン配列：リーダー側

ピン番号	RS-232	USB	キーボードウェッジ
1	RTS (出力)		
2		D+	CLKIN (キーボード側)
3		D-	DATAIN (キーボード側)
4	GND	GND	GND
5	RX		
6	TX		
7	VCC	VCC	VCC
8			CLKOUT (PC側)
9			DATAOUT (PC側)
10	CTS (入力)		

LEDおよびビーブ音による通知

リーダーでは、リーダーのさまざまな機能やエラーを知らせるためにビーブ音が鳴ったり、LEDが点灯（点滅）したりします。また、オプションの緑色スポットも有効な機能です。下の表に、これらのインジケータの一覧を示します。ただし、リーダーの機能はプログラム可能であり、インジケータのオン/オフを切り替えられることがあるため、表に示された動作に当てはまらない場合もあります。たとえば、電源投入ビーブ音のような特定のインジケータは、プログラミングバーコードラベルを使用して無効にできます。

インジケータによる通知	説明	LED	ビーブ音
電源投入ビーブ音	リーダーは電源投入処理中です		リーダーの電源投入時に最高の周波数と音量でビーブ音が4回鳴ります
読み取り成功ビーブ音	ラベルがリーダーで正常にスキャンされました	このインジケータのLEDの動作は、「 読み取り成功：通知のタイミング 」の機能によって設定できます	リーダーでラベルのスキャンに成功すると、現在の周波数、音量、単音調または複音調設定、および持続時間で、ビーブ音が1回鳴ります
ROMエラー	リーダーのソフトウェアまたはプログラミングにエラーがあります	点滅	最大の音量でエラーのビーブ音が1回鳴ります
スキャン中のラベルの読み取りが制限されている	USBインターフェイスが有効になっているときに、ホストへの接続が確立されていないことを知らせます	なし	最高の周波数および現在の音量で6回高く鳴ります
リーダーがアクティブモード	リーダーがアクティブになっていてスキャン可能な状態にあります	LEDが徐々に点灯します ^a	なし
リーダーが無効	リーダーがホストによって無効に設定されています	LEDが継続的に点滅します	なし
緑色スポットが継続的にオン	スタンドモードまたはトリガー オブジェクト検知モードでは、スタンド監視状態のときに緑色スポットがオンになります	なし	なし
緑色スポットが一瞬点滅 ^a	ラベルの読み取りが成功すると、ソフトウェアによって設定値で指定された時間だけ緑色スポットがオンになります	なし	なし

^a スリープモードになっている場合、または読み取り成功のLEDの持続時間が00以外の場合を除きます。

プログラミングモード

リーダーがプログラミングモードになっている場合にのみ以下のインジケータによる通知が行われます。

インジケータによる通知	説明	LED	ビープ音
ラベルプログラミングモードでの入力	有効なプログラミングラベルがスキャンされました	LEDが継続的に点滅します	低い周波数でビープ音が4回鳴ります
ラベルプログラミングモードでのラベルの拒否	ラベルが拒否されました	なし	最低の周波数および現在の音量で3回鳴ります
ラベルプログラミングモードでの部分的なラベルの受け入れ	1つの機能をプログラムするために複数のラベルをスキャンする必要がある場合に、各ラベルのスキャンが成功するごとにインジケータで通知されます	なし	最高の周波数と現在の音量で短いビープ音が1回鳴ります
ラベルプログラミングモードでのプログラミングの受け入れ	設定オプションがラベルを介して正しくプログラムされ、リーダーでプログラミングモードが終了しました	なし	高い周波数のビープ音が1回、低い周波数のビープ音が4回鳴ってから、リセットのビープ音が鳴ります
ラベルプログラミングモードでのキャンセル項目の入力	[キャンセル]ラベルがスキャンされました	なし	低い周波数および現在の音量で2回鳴ります

エラーコード

リーダーの起動時に長い音が鳴る場合は、リーダーの自動セルフテストが正常に完了しなかったためにFRU（Field Replaceable Unit）分離モードが開始されたことを示しています。リーダーがリセットされると、一連の処理が繰り返されます。以下の表に、検出されたエラーに関連するランプの点滅およびビープ音のコードを示します。

LEDの点滅/ ビープ音の回数	エラー	修正方法
1	設定	ヘルプデスクにお問い合わせください
2	インターフェイスPCB	
4	リーダーのモジュール	
5	[予約済み]	
6	デジタルPCB	
14	CPLDとコードの不一致	



付録B 標準の初期設定

表23の「初期設定」欄には、最も一般的な設定の一覧が記載されています。この表に記載されている設定は、標準のRS-232インターフェイスに適用されるものです。その他の種類のインターフェイスに適用される、この一覧の例外となる初期設定の一覧については、表24を参照してください。パラメーターごとに機能説明およびプログラミングバーコードの参照ページへのリンクも用意されています。さらに、これらの設定可能な機能に対して、ユーザーのお好みの初期設定を記録するための欄が用意されています。

表23.標準の初期設定

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
グローバルインターフェイス機能		
ホストコマンド：従う/無視	従う	
USBサスペンドモード	有効	
USB-COM		
文字間遅延	遅延なし	
ASCII BELでのビープ音	無効	
Not on Fileでのビープ音	有効	
ACK文字	「ACK」	
NAK文字	「NAK」	
ACK/NAKのタイムアウト値	600ミリ秒	
ACK/NAKの再試行回数	3回の再試行	
ACK/NAKのエラー処理	検出されたエラーを無視	
送信エラーの通知	有効	
無効化文字	「D」	
有効化文字	「E」	
キーボード		
国モード	USキーボード	
Caps Lockの状態	Caps Lockオフ	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
キーボードのテンキー	標準キー	
キーボードでの制御文字の送信	無効	
コード間遅延	100ミリ秒	
USBキーボードの速度	1ミリ秒	
USB-OEM		
USB-OEMデバイスの使用法	ハンドヘルド ス キャナー	
USB-OEMインターフェイスのオプション	無視	
データ編集		
グローバルプレフィックス/サフィックス	グローバル プレ フィックスなし グローバル サ フィックス=0x0D (CR)	
グローバルAIM ID	無効	
GS1-128のAIM ID	有効	
ラベルIDの制御	無効	
グローバルな中間ラベルID文字の設定	文字なし	
大文字/小文字変換	無効	
文字変換	文字変換なし	
読み取り時のパラメーター		
二重読み取りのタイムアウト	0.4秒	
ラベル終了のタイムアウト	160ミリ秒	
LEDおよびビープ音によるインジケーター	有効	
電源投入時の警告	ビープ音4回	
読み取り成功：通知のタイミング	デコード後	
読み取り成功ビープ音の種類	単音調	
読み取り成功ビープ音の周波数	中（コード付き） 高（コードレス）	
読み取り成功ビープ音の長さ	100ミリ秒（コー ド 付 き ） 80ミリ秒（コー ドレス）	
読み取り成功ビープ音の音量	ビープ音が鳴って いる間点灯なし	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
読み取り成功ビーブ音の音量	高	
読み取り成功のLEDの持続時間	次のトリガーが引かれるまでLEDがオンのまま	
スキャンモード	トリガー シングル	
スタンドモードでのトリガーのタイムアウト	0.5秒	
スキャン有効時間	5秒	
スタンドモードでのフラッシュ	無効	
フラッシュ オン時間	1秒	
フラッシュ オフ時間	600ミリ秒	
緑色スポットの持続時間	中	
緑色スポットの持続時間	300ミリ秒	
読み取りコード		
クーポンの制御	UPC/EANのみ有効	
UPC-A		
UPC-Aの有効化/無効化	有効	
UPC-Aのチェックキャラクタの送信	有効	
UPC-AをEAN-13に拡張	拡張しない	
UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信	送信する	
インスタの最小読み取り回数	2	
UPC-E		
UPC-Eの有効化/無効化	有効	
UPC-Eのチェックキャラクタの送信	送信する	
UPC-EをEAN-13に拡張	拡張しない	
UPC-EをUPC-Aに拡張	拡張しない	
UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信	送信する	
UPC-Eの最小読み取り回数	2	
EAN 13		
EAN 13の有効化/無効化	有効	
EAN 13のチェックキャラクタの送信	送信する	
EAN-13のフラグ1文字	送信する	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
EAN 13からISBNへの変換	無効	
ISSNの有効化/無効化	無効	
EAN 13の最小読み取り回数	1	
EAN 8		
EAN 8の有効化/無効化	有効	
EAN 8のチェックキャラクタの送信	送信する	
EAN 8をEAN 13に拡張	無効	
EAN 8の両側のガードの置換	無効	
EAN 8のガードの挿入	無効	
EAN 8のガードの置換	無効	
EAN 8の最小セグメント長ブロック	8	
EAN 8の最小読み取り回数	1	
EAN 8の正確なハーフ ラベルのスティッチ	無効	
EAN 8の異なるハーフ ラベルのスティッチ	無効	
EANの2ラベル		
EANの2ラベルの有効化/無効化	無効	
EANの2ラベルが結合された送信	無効	
EANの2ラベルの最小読み取り回数	1回の読み取り	
UPC/EANのグローバル設定		
UPC/EANのデコードレベル	2	
UPC/EANの相関関係	無効	
UPC/EANの価格とウェイトのチェック	無効	
UPC-Aの最小読み取り回数	1回の読み取り	
UPC/EANのガードの挿入	無効	
UPC/EANの正確なハーフ ラベルのスティッチ	無効	
UPC/EANの異なるハーフ ラベルのスティッチ	無効	
UPC/EANの最小セグメント長	5	
アドオン		
オプションのアドオン	P2、P5、およびP8を無効にする	
オプションのアドオンのタイマー	70ミリ秒	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
P2アドオンの最小読み取り回数	2	
P5アドオンの最小読み取り回数	1	
GS1-128アドオンの最小読み取り回数	1	
GS1 DataBar Omnidirectional		
GS1 DataBar Omnidirectionalの有効化/無効化	無効	
GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション	無効	
GS1 DataBar Omnidirectionalの最小読み取り回数	1	
GS1 DataBar Expanded		
GS1 DataBar Expandedの有効化/無効化	無効	
GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション	無効	
GS1 DataBar Expandedの最小読み取り回数	1	
GS1 DataBar Expandedの長さ制御	可変	
GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定	1	
GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定	74	
GS1 DataBar Limited		
GS1 DataBar Limitedの有効化/無効化	無効	
GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション	無効	
GS1 DataBar Limitedの最小読み取り回数	1	
Code 39		
Code 39の有効化/無効化	有効	
Code 39のチェックキャラクタの計算	計算しない	
Code 39のチェックキャラクタの送信	送信する	
Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信	送信しない	
Code 39 Full ASCII	無効	
Code 39のクワイエットゾーン	自動	
Code 39の最小読み取り回数	2	
Code 39のデコードレベル	3	
Code 39の長さ制御	可変	
Code 39の長さ1の設定	2	
Code 39の長さ2の設定	50	
Code 39のディジット間の比率	4	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
Code 39の文字の相関関係	無効	
Code 39のスティッチ	有効 (コードレス) 無効 (コード付き)	
Code 32		
Code 32の有効化/無効化	無効	
Code 32のチェックキャラクタの送信	送信しない	
Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信	送信しない	
Code 39 CIP		
Code 39 CIPの有効化/無効化	無効	
Code 128		
Code 128の有効化/無効化	有効	
Code 128をCode 39に拡張	拡張しない	
Code 128のチェックキャラクタの送信	送信しない	
Code 128のクワイエットゾーン	自動	
Code 128の最小読み取り回数	1	
Code 128のデコードレベル	3	
Code 128の長さ制御	可変	
Code 128の長さ1の設定	1	
Code 128の長さ2の設定	80	
Code 128の文字の相関関係	無効	
Code 128のスティッチ	有効	
GS1-128		
GS1-128の有効化	Code 128 データ フォーマットで送信	
Interleaved 2 of 5		
I2 of 5の有効化/無効化	無効	
I2 of 5のチェックキャラクタの計算	無効	
I2 of 5のチェックキャラクタの送信	送信する	
I2 of 5の最小読み取り回数	2	
I2 of 5のデコードレベル	3	
I2 of 5の長さ制御	可変	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
12 of 5の長さ1の設定	12	
12 of 5の長さ2の設定	100	
12 of 5の文字の相関関係	無効	
12 of 5のステッチ	無効	
Interleaved 2 of 5 CIP		
Interleaved 2 of 5 CIP HRの有効化/無効化	無効	
Datalogic 2 of 5		
Datalogic 2 of 5の有効化/無効化	有効	
Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの計算	無効	
Datalogic 2 of 5のチェックキャラクタの送信	送信しない	
Datalogic 2 of 5の最小読み取り回数	2	
Datalogic 2 of 5の長さ制御	可変	
Datalogic 2 of 5の長さ1の設定	12	
Datalogic 2 of 5の長さ2の設定	100	
Datalogic 2 of 5のディジット間の最大比	4	
Datalogic 2 of 5の文字の相関関係	無効	
Datalogic 2 of 5のステッチ	無効	
Codabar		
Codabarの有効化/無効化	無効	
Codabarのチェックキャラクタの計算	計算しない	
Codabarのチェックキャラクタの送信	送信する	
Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信	送信する	
Codabarのスタート/ストップキャラクタセット	abcd/abcd	
Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致	一致の必要なし	
Codabarのクワイエットゾーン	自動	
Codabarの最小読み取り回数	2	
Codabarのデコードレベル	3	
Codabarの長さ制御	可変	
Codabarの長さ1の設定	3	
Codabarの長さ2の設定	50	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
Codabarのディジット間の比率	4	
Codabarの文字の相関関係	無効	
Codabarのスティッチ	無効	
ABC Codabar		
ABC Codabarの有効化/無効化	無効	
ABC Codabarの連結モード	静的	
ABC Codabarの動的連結のタイムアウト	200ミリ秒	
ABC Codabarの強制連結	無効	
Code 11		
Code 11の有効化/無効化	無効	
Code 11のチェックキャラクタの計算	CおよびKをチェック	
Code 11のチェックキャラクタの送信	送信する	
Code 11の最小読み取り回数	2	
Code 11の長さ制御	可変	
Code 11の長さ1の設定	4	
Code 11の長さ2の設定	50	
Code 11のディジット間の比率	4	
Code 11のデコードレベル	3	
Code 11の文字の相関関係	無効	
Code 11のスティッチ	無効	
Standard 2 of 5		
Standard 2 of 5の有効化/無効化	無効	
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算	無効	
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信	送信する	
Standard 2 of 5の最小読み取り回数	2	
Standard 2 of 5のデコードレベル	3	
Standard 2 of 5の長さ制御	可変	
Standard 2 of 5の長さ1の設定	8	
Standard 2 of 5の長さ2の設定	50	
Standard 2 of 5の文字の相関関係	無効	
Standard 2 of 5のスティッチ	無効	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
Industrial 2 of 5		
Industrial 2 of 5の有効化/無効化	無効	
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算	無効	
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信	有効	
Industrial 2 of 5の長さ制御	可変	
Industrial 2 of 5の長さ1の設定	1文字	
Industrial 2 of 5の長さ2の設定	50文字	
Industrial 2 of 5の最小読み取り回数	1回の読み取り	
Industrial 2 of 5のステッチ	無効	
Industrial 2 of 5の文字の相関関係	無効	
IATA		
IATAの有効化/無効化	無効	
IATAのチェックキャラクタの送信	有効	
ISBT 128		
ISBT 128の連結	無効	
ISBT 128の連結モード	静的	
ISBT 128の動的連結のタイムアウト	200ミリ秒	
ISBT 128の強制連結	無効	
ISBT 128の高度な連結オプション	無効	
MSI		
MSIの有効化/無効化	無効	
MSIのチェックキャラクタの計算	Mod10を有効にする	
MSIのチェックキャラクタの送信	有効	
MSIの長さ制御	可変	
MSIの長さ1の設定	1文字	
MSIの長さ2の設定	50文字	
MSIの最小読み取り回数	4回の読み取り	
MSIのデコードレベル	レベル3	
Code 93		
Code 93の有効化/無効化	無効	
Code 93のチェックキャラクタの計算	無効	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
Code 93のチェックキャラクタの送信	有効	
Code 93の長さ制御	可変	
Code 93の長さ1の設定	1文字	
Code 93の長さ2の設定	50文字	
Code 93の最小読み取り回数	1回の読み取り	
Code 93のデコードレベル	レベル3	
Code 93のクワイエットゾーン	自動	
Code 93のスティッチ	有効	
Code 93の文字の相関関係	有効	
Codablock F		
Codablock Fの有効化/無効化	無効	
Codablock F EANの有効化/無効化	無効	
Codablock FのAIMチェック	Cのチェックを有効にする	
Codablock Fの長さ制御	可変	
Codablock Fの長さ1の設定	3文字	
Codablock Fの長さ2の設定	100文字	
Code 4		
Code 4の有効化/無効化	無効	
Code 4のチェックキャラクタの送信	有効	
Code 4の16進から10進への変換	有効	
Code 5		
Code 5の有効化/無効化	無効	
Code 5のチェックキャラクタの送信	有効	
Code 5の16進から10進への変換	有効	
Code 4およびCode 5に共通の設定項目		
Code 4およびCode 5のデコードレベル	3	
Code 4およびCode 5の最小読み取り回数	1	
Follett 2 of 5		
Follett 2 of 5の有効化/無効化	無効	
BC412		
BC412の有効化/無効化	無効	

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定
BC412のチェックキャラクタの計算	計算しない	
BC412の最小読み取り回数	2回の読み取り	
BC412のデコードレベル	3	
BC412の長さ制御	可変長	
BC412の長さ1の設定	1文字	
BC412の長さ2の設定	50文字	
Plessey		
Plesseyの有効化/無効化	無効	
Plesseyのチェックキャラクタの計算	Plessey標準 チェックキャラクタの検証を有効にする	
Plesseyのチェックキャラクタの送信	有効	
Plesseyの長さ制御	可変	
Plesseyの長さ1の設定	1	
Plesseyの長さ2の設定	50	

初期設定の例外

表23には、標準のRS-232インターフェイスに適用される標準の初期設定の一覧が示されています。表24には、その他の種類のインターフェイスに適用される、その一覧の例外となる初期設定の一覧が示されています。

表24.インターフェイスの種類別の初期設定の例外3

パラメーター	初期設定の例外
インターフェイス : USB-OEM	
グローバルサフィックス	グローバル サフィックスなし
二重読み取りのタイムアウト	500ミリ秒
インターフェイス : USBキーボード	
一意の設定なし	



付録C サンプルバーコード

この付録に記載されているサンプルバーコードは、その読み取りコードの種類一般的な表現です。



UPC-A

EAN-13



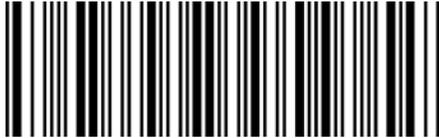
Code 39

Code 128



Interleaved 2 of 5

Code 32



Codabar

Code 93



Code 11

GS1 DataBar (RSS)



注

下記のバーコードを読み取るには、GS1 DataBarのバリエーションを有効にする必要があります (279ページの「GS1 DataBar (RSS)」を参照してください)。



10293847560192837465019283746029478450366523
(GS1 DataBar Expanded Stacked)



1234890hjo9900mnb
(GS1 DataBar Expanded)



08672345650916
(GS1 DataBar Limited)

GS1 DataBar-14



55432198673467
(GS1 DataBar Omnidirectional/Truncated)



90876523412674
(GS1 DataBar Omnidirectional Stacked)



78123465709811
(GS1 DataBar Omnidirectional Stacked)

メモ

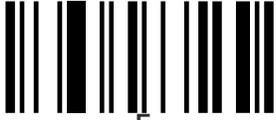


付録D テンキー

この付録に記載されているバーコードを使用すると、テンキーから数字や文字を選択するように数値を入力できます。

 0	
	 1
 2	
	 3
 4	
	 5



 A	
	 B
 C	
	 D
 E	
	 F

メモ



付録E

スキャンコード表

制御文字エミュレーション

制御文字エミュレーションは、この付録に記載されている各種スキャンコード表から選択します。それらの表には、インターフェイスの種類別に、以下の各制御文字セットが詳しく記述されています。これらの制御文字セットは、キーボードウェッジおよびUSBキーボードのプラットフォームに適用されます。

制御文字00 : 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

制御文字01 : 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + 大文字キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

制御文字02 : 特殊キーは00 ~ 0x1Fに配置され、0x80 ~ 0xFEの文字は拡張ASCII表（346ページのMicrosoft® Windows®コードページ1252を参照してください）に従って送信されるよう意図されています。

1回押して放すキー

以下の各表では、「Ar ↓」は右の[Alt]キーが押されたことを意味し、「Ar ↑」は右の[Alt]キーが放されたことを意味します（他のキーも同様）。その他のキーの定義は、「Al」（左の[Alt]）、「Cr」（右の[Ctrl]）、「Cl」（左の[Ctrl]）、「Sh」（[Shift]）となります。この方法を使用すると、[Alt]、[Ctrl]、または[Shift]を他のキーと組み合わせることができます。

例：制御文字が00に設定されているものとします。ラベルをホストに送信する前に右[Alt] + [A]が必要な場合、この手法を用いるには、0x99 0x41 0x9Aのように3つのプレフィックス キーを設定します。

インターフェイスの種類：PC AT PS/2またはUSBキーボード

表25.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	X6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	NULL C+@	SOH C(S)+A	STX C(S)+B	ETX C(S)+C	EOT C(S)+D	ENQ C(S)+E	ACK C(S)+F	BEL C(S)+G	BS	HT TAB	LF C(S)+J	VT C(S)+K	FF C(S)+L	CR Enter	SO C(S)+N	SI C(S)+O
1x	DLE C(S)+P	DC1 C(S)+Q	DC2 C(S)+R	DC3 C(S)+S	DC4 C(S)+T	NAK C(S)+U	SYN C(S)+V	ETB C(S)+W	CAN C(S)+X	EM C(S)+Y	SUB C(S)+Z	ESC Esc	FS C+\ C+]	GS C+]	RS C+^	US C(S)+_
2x	SP	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6x	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	Del
8x	€	Sh↓	Sh↑	Ins	Ent (テンキー)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	Home	End	Pg Up	Pg Dwn	↑	↓	←	→	Ar↓	Ar↑	Al↓	Al↑	Cl↓	Cl↑	Cr↓
Ax	Cr↑		'	f	„	...	†	‡	^	‰	Š	‹	Ś	‹	Œ	
Bx	°	±	²	³	´	µ	¶	·	¸	¹	º	»	¼	½	¾	¿
Cx	À	Á	Â	Ã	Ä	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ë	Ì	Í	Î	Ï
Dx	Ð		Ò	Ó	Ô	Õ	Ö	×	Ø	Ù	Ú	Û	Ü	Ý	Þ	ß
Ex	à	á	â	ã	ä	å	æ	ç	è	é	ê	ë	ì	í	î	ï
Fx	ð	ñ	ò	ó	ô	õ	ö	÷	ø	ù	ú	û	ü	ý	þ	ÿ

拡張文字（空色）は、専用のキー（選択した国モードで使用可能な場合）によって、またはALTモードシーケンスを使用して送信されます。

インターフェイスの種類：PC AT PS/2またはUSBキーボード（続き）

表26.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Ar↓	Ar↑	Al↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓	Cr ↑	BS	Tab	à	S+ Tab	Enter Keyprd	Enter	Ins	Pg Up
1x	Pg Dwn	Home	ß	â	á	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	Space	!	“	#	\$	%	&	‘	()	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6x	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	Del
8x	_	_	‘	f	„	…	†	‡	^	%	Š	‹	Š	‹	Œ	_
9x	_	‘	’	“	”	•	—	—	~	™	š	›	œ	_	_	ÿ
Ax	NBSP	ı	ø	£	¤	¥	ı	§	”	©	ª	«	¬	-	®	-
Bx	°	±	²	³	´	µ	¶	·	¸	¹	º	»	¼	½	¾	¿
Cx	À	Á	Â	Ã	Ä	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ë	Ì	Í	Î	Ï
Dx	Ð	Ñ	Ò	Ó	Ô	Õ	Ö	×	Ø	Ù	Ú	Û	Ü	Ý	Þ	ß
Ex	à	á	â	ã	ä	å	æ	ç	è	é	ê	ë	ì	í	î	ï
Fx	ð	ñ	ò	ó	ô	õ	ö	÷	ø	ù	ú	û	ü	ý	þ	ÿ

インターフェイスの種類: PC AT PS/2キーボード (ALTモード) またはUSBキーボード (ALTモード)

表27.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Alt+000	Alt+001	Alt+002	Alt+003	Alt+004	Alt+005	Alt+006	Alt+007	Alt+008	HT TAB	Alt+010	Alt+011	Alt+012	CR Enter	Alt+014	Alt+015
1x	Alt+016	Alt+017	Alt+018	Alt+019	Alt+020	Alt+021	Alt+022	Alt+023	Alt+024	Alt+025	Alt+026	ESC Esc	Alt+028	Alt+029	Alt+030	Alt+031
2x	A+032	A+033	A+034	A+035	A+036	A+037	A+038	A+039	A+040	A+041	A+042	A+043	A+044	A+045	A+046	A+047
3x	A+048	A+049	A+050	A+051	A+052	A+053	A+054	A+055	A+056	A+057	A+058	A+059	A+060	A+061	A+062	A+063
4x	A+064	A+065	A+066	A+067	A+068	A+069	A+070	A+071	A+072	A+073	A+074	A+075	A+076	A+077	A+078	A+079
5x	A+080	A+081	A+082	A+083	A+084	A+085	A+086	A+087	A+088	A+089	A+090	A+091	A+092	A+093	A+094	A+095
6x	A+096	A+097	A+098	A+099	A+100	A+101	A+102	A+103	A+104	A+105	A+106	A+107	A+108	A+109	A+110	A+111
7x	A+112	A+113	A+114	A+115	A+116	A+117	A+118	A+119	A+120	A+121	A+122	A+123	A+124	A+125	A+126	A+127
8x	_	Sh↓	Sh↑	Ins	Ent (テンキー)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	Home	End	Pg Up	Pg Dwn	á	â	ã	ä	Ar↓	Ar↑	Al↓	Al↑	Cl↓	Cl↑	Cr↓
Ax	Cr↑	A+0161	A+0162	A+0163	A+0164	A+0165	A+0166	A+0167	A+0168	A+0169	A+0170	A+0171	A+0172	A+0173	A+0174	A+0175
Bx	A+0176	A+0177	A+0178	A+0179	A+0180	A+0181	A+0182	A+0183	A+0184	A+0185	A+0186	A+0187	A+0188	A+0189	A+0190	A+0191
Cx	A+0192	A+0193	A+0194	A+0195	A+0196	A+0197	A+0198	A+0199	A+0200	A+0201	A+0202	A+0203	A+0204	A+0205	A+0206	A+0207
Dx	A+0208	A+0209	A+0210	A+0211	A+0212	A+0213	A+0214	A+0215	A+0216	A+0217	A+0218	A+0219	A+0220	A+0221	A+0222	A+0223
Ex	A+0224	A+0225	A+0226	A+0227	A+0228	A+0229	A+0230	A+0231	A+0232	A+0233	A+0234	A+0235	A+0236	A+0237	A+0238	A+0239
Fx	A+0240	A+0241	A+0242	A+0243	A+0244	A+0245	A+0246	A+0247	A+0248	A+0249	A+0250	A+0251	A+0252	A+0253	A+0254	A+0255

インターフェイスの種類 : PC AT PS/2キーボード (ALTモード) またはUSBキーボード (ALTモード) (続き)

表28.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Ar↓	Ar↑	Al↓	Al↑	Cl↓	Cl↑	Cr↓	Cr↑	BS	Tab	à	S+Tab	Enter (テンキー)	Enter	Ins	Pg Up
1x	Pg Dwn	Home	ß	â	á	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	A+032	A+033	A+034	A+035	A+036	A+037	A+038	A+039	A+040	A+041	A+042	A+043	A+044	A+045	A+046	A+047
3x	A+048	A+049	A+050	A+051	A+052	A+053	A+054	A+055	A+056	A+057	A+058	A+059	A+060	A+061	A+062	A+063
4x	A+064	A+065	A+066	A+067	A+068	A+069	A+070	A+071	A+072	A+073	A+074	A+075	A+076	A+077	A+078	A+079
5x	A+080	A+081	A+082	A+083	A+084	A+085	A+086	A+087	A+088	A+089	A+090	A+091	A+092	A+093	A+094	A+095
6x	A+096	A+097	A+098	A+099	A+100	A+101	A+102	A+103	A+104	A+105	A+106	A+107	A+108	A+109	A+110	A+111
7x	A+112	A+113	A+114	A+115	A+116	A+117	A+118	A+119	A+120	A+121	A+122	A+123	A+124	A+125	A+126	A+127
8x	A+0128	A+0129	A+0130	A+0131	A+0132	A+0133	A+0134	A+0135	A+0136	A+0137	A+0138	A+0139	A+0140	A+0141	A+0142	A+0143
9x	A+0144	A+0145	A+0146	A+0147	A+0148	A+0149	A+0150	A+0151	A+0152	A+0153	A+0154	A+0155	A+0156	A+0157	A+0158	A+0159
Ax	A+0160	A+0161	A+0162	A+0163	A+0164	A+0165	A+0166	A+0167	A+0168	A+0169	A+0170	A+0171	A+0172	A+0173	A+0174	A+0175
Bx	A+0176	A+0177	A+0178	A+0179	A+0180	A+0181	A+0182	A+0183	A+0184	A+0185	A+0186	A+0187	A+0188	A+0189	A+0190	A+0191
Cx	A+0192	A+0193	A+0194	A+0195	A+0196	A+0197	A+0198	A+0199	A+0200	A+0201	A+0202	A+0203	A+0204	A+0205	A+0206	A+0207
Dx	A+0208	A+0209	A+0210	A+0211	A+0212	A+0213	A+0214	A+0215	A+0216	A+0217	A+0218	A+0219	A+0220	A+0221	A+0222	A+0223
Ex	A+0224	A+0225	A+0226	A+0227	A+0228	A+0229	A+0230	A+0231	A+0232	A+0233	A+0234	A+0235	A+0236	A+0237	A+0238	A+0239
Fx	A+0240	A+0241	A+0242	A+0243	A+0244	A+0245	A+0246	A+0247	A+0248	A+0249	A+0250	A+0251	A+0252	A+0253	A+0254	A+0255

デジタルインターフェイス

表29.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	X0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	NULL C(S)+@	SOH C(S)+A	STX C(S)+B	ETX C(S)+C	EOT C+D	ENQ C(S)+E	ACK C(S)+F	BEL C(S)+G	BS C(S)+H	HT TAB	LF C(S)+J	VT C(S)+K	FF C(S)+L	CR Enter	SO C(S)+N	SI C(S)+O
1x	DLE C(S)+P	DC1 C(S)+Q	DC2 C(S)+R	DC3 C(S)+S	DC4 C(S)+T	NAK C(S)+U	SYN C(S)+V	ETB C(S)+W	CAN C(S)+X	EM C(S)+Y	SUB C(S)+Z	ESC Esc	FS C(S)+\	GS C+]	RS C(S)+^	US C(S)+_
2x	スペース	!	“	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6x	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	Del
8x		Sh↓	Sh↑	Ins	Ent (デンキー)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	F13	F14	F15	F16	á	â	ß	à					Cl↓	Cl↑	

デジタルインターフェイス (続き)

表30.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	X0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x					CI↓	CI↑			BS	Tab	à	S+ Tab	Enter (テンキー)	Enter	Ins	
1x			ß	â	á	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	スペース	!	“	#	\$	%	&	‘	()	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6x	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	Del

IBM XT

表31.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	X0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	NULL C(S)+@	SOH C(S)+A	STX C(S)+B	ETX C(S)+C	EOT C+D	ENQ C(S)+E	ACK C(S)+F	BEL C(S)+G	BS C(S)+H	HT TAB	LF C(S)+J	VT C(S)+K	FF C(S)+L	CR Enter	SO C(S)+N	SI C(S)+O
1x	DLE C(S)+P	DC1 C(S)+Q	DC2 C(S)+R	DC3 C(S)+S	DC4 C(S)+T	NAK C(S)+U	SYN C(S)+V	ETB C(S)+W	CAN C(S)+X	EM C(S)+Y	SUB C(S)+Z	ESC Esc	FS C(S)+\	GS C+]	RS C(S)+^	US C(S)+_
2x	スペース	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6x	'	a	B	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	R	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}		Del
8x		Sh↓	Sh↑	Ins	Ent (テンキー)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	Home	End	Pg Up	Pg Dwn	á	â	ß	à	Ar↓	Ar↑	Al↓	Al↑	Cl↓	Cl↑	Cr↓
Ax	Cr↑															

IBM XT (続き)

表32.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	X0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Ar↓	Ar↑	AI↓	AI↑	CI↓	CI↑	Cr↓	Cr↑	BS	Tab	à	S+ Tab	Enter (デンキー)	Enter	Ins	Pg Up
1x	Pg Dwn	Home	ß	â	á	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	スペース	!	“	#	\$	%	&	‘	()	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6x	‘	a	B	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	R	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}		Del

Microsoft® Windows®コードページ1252

Windows-1252とは、Microsoft Windowsの英語版および他の数種の西欧言語版において従来のコンポーネントが初期設定で使用するラテン文字の文字コードです。

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
00	<u>NUL</u> 0000	<u>STX</u> 0001	<u>SOT</u> 0002	<u>ETX</u> 0003	<u>EOT</u> 0004	<u>ENQ</u> 0005	<u>ACK</u> 0006	<u>BEL</u> 0007	<u>BS</u> 0008	<u>HT</u> 0009	<u>LF</u> 000A	<u>VT</u> 000B	<u>FF</u> 000C	<u>CR</u> 000D	<u>SO</u> 000E	<u>SI</u> 000F
10	<u>DLE</u> 0010	<u>DC1</u> 0011	<u>DC2</u> 0012	<u>DC3</u> 0013	<u>DC4</u> 0014	<u>NAK</u> 0015	<u>SYN</u> 0016	<u>ETB</u> 0017	<u>CAN</u> 0018	<u>EM</u> 0019	<u>SUB</u> 001A	<u>ESC</u> 001B	<u>FS</u> 001C	<u>GS</u> 001D	<u>RS</u> 001E	<u>US</u> 001F
20	<u>SP</u> 0020	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	<u>DEL</u> 007F
80	€ 20AC	◻	/ 201A	f 0192	" 201E	… 2026	† 2020	‡ 2021	ˆ 02C6	% 2030	Š 0160	< 2039	€ 0152	◻	Ž 017D	◻
90	◻	\ 2018	/ 2019	" 201C	" 201D	• 2022	— 2013	— 2014	˜ 02DC	™ 2122	Š 0161	> 203A	œ 0153	◻	Ž 017E	Ÿ 0178
A0	<u>NBSP</u> 00A0	ı 00A1	¢ 00A2	£ 00A3	¤ 00A4	¥ 00A5	ı 00A6	§ 00A7	¨ 00A8	© 00A9	ª 00AA	« 00AB	¬ 00AC	– 00AD	® 00AE	— 00AF
B0	° 00B0	± 00B1	² 00B2	³ 00B3	´ 00B4	µ 00B5	¶ 00B6	· 00B7	¸ 00B8	¹ 00B9	º 00BA	» 00BB	¼ 00BC	½ 00BD	¾ 00BE	¿ 00BF
C0	À 00C0	Á 00C1	Â 00C2	Ã 00C3	Ä 00C4	Å 00C5	Æ 00C6	Ç 00C7	È 00C8	É 00C9	Ê 00CA	Ë 00CB	Ì 00CC	Í 00CD	Î 00CE	Ï 00CF
D0	Ð 00D0	Ñ 00D1	Ò 00D2	Ó 00D3	Ô 00D4	Õ 00D5	Ö 00D6	× 00D7	Ø 00D8	Ù 00D9	Ú 00DA	Û 00DB	Ü 00DC	Ý 00DD	Þ 00DE	ß 00DF
E0	à 00E0	á 00E1	â 00E2	ã 00E3	ä 00E4	å 00E5	æ 00E6	ç 00E7	è 00E8	é 00E9	ê 00EA	ë 00EB	ì 00EC	í 00ED	î 00EE	ï 00EF
F0	ð 00F0	ñ 00F1	ò 00F2	ó 00F3	ô 00F4	õ 00F5	ö 00F6	÷ 00F7	ø 00F8	ù 00F9	ú 00FA	û 00FB	ü 00FC	ý 00FD	þ 00FE	ÿ 00FF

ASCII表

ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数
NUL	00	SP	20	@	40	'	60
SOH	01	!	21	A	41	a	61
STX	02	“	22	B	42	b	62
ETX	03	#	23	C	43	c	63
EOT	04	\$	24	D	44	d	64
ENQ	05	%	25	E	45	e	65
ACK	06	&	26	F	46	f	66
BEL	07	'	27	G	47	g	67
BS	08	(28	H	48	h	68
HT	09)	29	I	49	i	69
LF	0A	*	2A	J	4A	j	6A
VT	0B	+	2B	K	4B	k	6B
FF	0C	,	2C	L	4C	l	6C
CR	0D	-	2D	M	4D	m	6D
SO	0E	.	2E	N	4E	n	6E
SI	0F	/	2F	O	4F	o	6F
DLE	10	0	30	P	50	p	70
DC1	11	1	31	Q	51	q	71
DC2	12	2	32	R	52	r	72
DC3	13	3	33	S	53	s	73
DC4	14	4	34	T	54	t	74
NAK	15	5	35	U	55	u	75
SYN	16	6	36	V	56	v	76
ETB	17	7	37	W	57	w	77
CAN	18	8	38	X	58	x	78
EM	19	9	39	Y	59	y	79
SUB	1A	:	3A	Z	5A	z	7A
ESC	1B	;	3B	[5B	{	7B
FS	1C	<	3C	\	5C		7C
GS	1D	=	3D]	5D	}	7D
RS	1E	>	3E	^	5E	~	7E
US	1F	?	3F	_	5F	DEL	7F

